

平成16／17年度

盲ろう者生活実態調査報告書

社会福祉法人

全国盲ろう者協会

平成18年3月

はじめに

視覚と聴覚の両方に障害がある「盲ろう者」に対する施策は、おそらくわが国の障害福祉・医療・教育施策の中で、最も遅れた分野の一つであろう。「盲ろう」という固有の障害認定も行われておらず、したがって、未だに教育の場もリハビリテーションの場も与えられていない。わずかに視覚障害者および聴覚障害者に対する福祉サービスを利用して、露命を保っているに過ぎないのが現状である。

わが国において、初めて本格的な盲ろう福祉が開始されたのは、平成3年の当協会の設立によってであった。以来15年の年月が経過し、平成17年12月現在全国38の都道府県に「盲ろう者友の会」等の支援組織が設立され、33都道府県・市において、盲ろう者のための通訳・介助者派遣事業が実施されるようになった。しかし、これらを利用している盲ろう者は、既にコミュニケーション手段を獲得している中途盲ろう者のごく一部が中心である。ちなみに約13,000人と推定されている全国の盲ろう者のうち、当協会へ登録している盲ろう者数は平成17年12月現在で741人に過ぎない。当協会の行う福祉サービスも含めて、数少ない盲ろう者向け福祉サービスの恩恵に浴している盲ろう者は1割にも満たないことが十分に推察できる。

今回、独立行政法人福祉医療機構のご厚意により、10年ぶりとなる実態調査を実施することが出来た。前回の平成7年の調査では127人からの回答を集計したものであったが、今回はその2.5倍近くの312人から回答を得ることが出来た。わずかとはいえ、こうした数字の増加は嬉しいことである。多くの方々のご尽力によって、盲ろう者の社会参加が漸進していることの証左でもあり、そこに希望を見いだすことが出来るからである。

この調査結果が、いろいろなところで活用され、今後の盲ろう者福祉の進展につながることを切に願ってやまない。

平成18年3月

社会福祉法人全国盲ろう者協会
理事長 小村 武

目 次

第1部 調査報告の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象者	4
3 調査の時期	4
(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査	4
(2) 盲ろう者生活実態調査	4
4 調査の事項	4
5 調査の実施協力者	4
(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査	4
(2) 盲ろう者生活実態調査	4
6 調査の方法	5
(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査(平成16年度)	5
(2) 盲ろう者生活実態調査(平成16年度～平成17年度)	8
7 調査票の回収状況	8
(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査	8
(2) 盲ろう者生活実態調査	8
8 調査結果	9
9 期待される成果	9
10 今後の課題	10
第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査	13
1 調査結果	15
(1) 都道府県からの回答集計結果	15
(2) 政令指定都市からの回答集計結果	16
(3) その他の自治体からの回答集計結果	16
(4) 全回答の集計結果	17
(5) 性別分布	17
(6) 年齢分布	18
(7) 障害の程度による分布	19
(8) 身体障害者手帳の交付に基づく分布	20
(9) 在宅か施設かの分類	22
2 考察	23
(1) 全国の盲ろう者数と発生率	23
(2) 性別分布についての考察	24
(3) 就労支援が必要な盲ろう者の人数の試算	25
(4) 教育上の支援が必要な盲ろう児の人数の試算	25
(5) リハビリテーション訓練の必要性	25
第3部 盲ろう者生活実態調査	27
1 調査結果	29
(1) 性別分布	29
(2) 年齢分布	31
(3) 盲ろう者向け通訳・介助者派遣状況	33
(4) 住居	35
(5) 同居者	37
(6) 配偶者	40
(7) 身体障害者手帳の有無	43
(8) 視覚障害の等級	44
(9) 聴覚障害の程度	45

(10) 障害発生の時期	46
(11) 視覚機能の障害	49
(12) 聴覚機能の障害	51
(13) 盲ろう以外の障害の有無	52
(14) 精神機能等の障害の有無	53
(15) コミュニケーション方法	55
(16) コミュニケーション手段の獲得方法	68
(17) 通訳・介助者派遣事業について	70
(18) 食事	75
(19) 白杖の使用	77
(20) 外出	80
(21) 電話とファックスの利用	87
(22) パソコンの利用	90
(23) パソコン利用時のユーザーインターフェース	93
(24) 情報収集手段	96
(25) 最終学歴	98
(26) 過去の職業	102
(27) 現在の職業	104
(28) 所得・収入	106
(29) 住民税	108
(30) 生活訓練、職業訓練	111
(31) 訓練の経験	113
(32) 訓練の希望	115
(33) よく会話をする相手	117
(34) 行政との接触	121
2 調査の概略と考察	124
(1) 障害の程度による盲ろう者の分類	124
(2) 障害歴による盲ろう者の分類	124
(3) 母集団の相違	124
(4) 通訳・介助者の利用について	125
(5) 住居	125
(6) 配偶者	125
(7) 所得・収入・住民税	125
(8) 障害の状況について	126
(9) コミュニケーション	126
(10) 歩行について	126
(11) IT機器の活用について	127
(12) 就学・就労について	128
(13) リハビリテーション訓練について	129
第4部 資料編	131
都道府県(市)別盲ろう者数・通訳者数	133
平成16・17年度盲ろう者生活実態調査調査委員会委員	135
あとがき	137

第1部 調査報告の概要

第1部 調査報告の概要

1 調査の目的

平成7年にわが国で初めての本格的な盲ろう者実態調査をして以来、既に10年が経過した。この間、コンピュータの発達を主たる要因として、障害者全般の生活様式は激変した。盲ろう者の場合もこの例に漏れず、ITを利用したインターネット網を通じて単独で情報の受信・発信が出来るようになった。又、「盲ろう者友の会」等の支援組織も格段に増え、平成12年からは各都道府県において盲ろう者向け通訳・介助員派遣試行事業も始まった。このような変化が、盲ろう者の生活や意識にどのような変化をもたらしているかを調査し、盲ろう者の存在とニーズの現状を明らかにすることによって、今後の盲ろう者福祉のあり方を模索する資料としたい。又、今回の調査は、通訳・介助者の派遣を通じて社会参加の促進を図る事を中心として進めてきたわが国の盲ろう者福祉から一步進めて、就労問題等、新しい視点を組み入れた幅広い福祉施策を構築するための第一歩と位置づけたい。

今回の調査では、全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査も併せて行った。これまで、全国の把握盲ろう者数として当協会に登録している盲ろう者数が使われてきたが、各都道府県において通訳・介助員派遣事業が少しずつ実施されるようになったことから、各自治体で把握している盲ろう者数を調査することとしたのである。結果は、推定数に大きく近づく数字となった。もはや各自治体とも盲ろう重複障害者の存在を無視できない段階に至っていることが伺える。

2 調査の対象者

平成16年度においては、全国各都道府県および政令指定都市の障害福祉課を対象に把握盲ろう者数の調査を行ったほか、平成17年度においては、当協会登録盲ろう者を主たる対象として、平成7年度に当協会が行った盲ろう者生活実態調査の追跡調査を行った。生活実態調査では、当協会登録盲ろう者を対象としたが、調査の過程で、通訳・介助者や各都道府県の通訳・介助者派遣事務所、関連障害者施設等の協力や申し出により、当協会へ登録をしていない盲ろう者にも多数調査票を送った。

3 調査の時期

(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

平成16年12月

(2) 盲ろう者生活実態調査

平成17年9月

4 調査の事項

第2部および第3部の調査結果の報告に記載した各事項。

5 調査の実施協力者

(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

各都道府県および政令指定都市の障害福祉担当者

(2) 盲ろう者生活実態調査

盲ろう当事者、家族、通訳・介助者、派遣事務所・施設等職員

6 調査の方法

(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査（平成16年度）

平成16年度盲ろう者実態調査検討委員会（委員6人）において調査方法の検討を行い、文書、FDの2種の媒体で調査票を送り、文書、FD、メールによって回答を回収した。

第1部 調査報告の概要

調査 I (表1)

自治体名	
------	--

調査 I. 貴自治体における盲ろう者数について、(表1)又は(表2)のいずれか一つを選んで、記入しやすい方に記入してください。
平成16年10月1日現在で記入してください。

(表1)

年齢	性別	人数	障害の程度				不明	障害者手帳の交付			在宅	施設 入所	
			視覚1級・2級 聴覚1級・2級	視覚1級・2級 聴覚3級-6級	視覚3級-6級 聴覚1級・2級	視覚3級-6級 聴覚3級-6級		視覚障害者手帳を 先に交付	聴覚障害者手帳を 先に交付	視覚・聴覚障害者 手帳を同時に交付			不明
0-5	男												
	女												
6-9	男												
	女												
10-17	男												
	女												
18-19	男												
	女												
20-29	男												
	女												
30-39	男												
	女												
40-49	男												
	女												
50-59	男												
	女												
60-64	男												
	女												
65-69	男												
	女												
70-74	男												
	女												
75-79	男												
	女												
80-89	男												
	女												
90-	男												
	女												
総数													

調査 I (表2)

自治体名	
------	--

調査 I. (表1)又は(表2)のどちらか一つを選んで記入してください。
 (表2)を選択された場合は、適宜欄を増やして記入してください。

(表2)

No	性別	年齢	視覚障害等級	視覚障害者手帳の 交付年月	聴覚障害等級	聴覚障害者手帳の 交付年月	在宅	施設 入所
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								

(2) 盲ろう者生活実態調査（平成16年度～平成17年度）

平成16年度盲ろう者実態調査検討委員会（委員6人）において、平成7年度に当協会が行った実態調査をもとに、調査方法、調査項目等の検討を行った。検討結果をもとに、盲ろう者9名を対象として予備調査を実施した。

平成17年度盲ろう者実態調査検討委員会（委員6人）において、前年度の予備調査の結果をふまえて、更に質問項目の検討を行い本調査を実施した。本調査に先立って、当協会登録盲ろう者および当協会へ登録していない盲ろう者のうち、各「友の会」等地域団体および通訳・介助者派遣事務所、各施設等から推薦のあった789人に対して調査協力の意向調査を行い、そのうち、調査協力の申し出があった338人に調査用紙を送付した。調査用紙は、回答をする盲ろう者本人の指示に従って、本人、家族、通訳・介助者等へ、普通字、拡大字、点字、メール等の媒体によって送付した。回答の回収に当たってはそれぞれの媒体で回収すると共に、家族や通訳・介助者の協力を得て回答した場合には、回答と合わせて通訳・介助に要した交通費請求書を添付して貰い、交通費・謝金を支払った。

7 調査票の回収状況

(1) 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

調査対象	1都1道2府43県および14政令指定都市
回答のあった自治体	1都1道2府32県および9政令指定都市
回収率	73.8%

なお、上記以外の6区・市・町から回答があったが、これらは、各都道府県から管内の区市町村へ調査依頼されたものの一部が、各都道府県の集計を経ずに直接当協会へ送られてきたものと思われる。

(2) 盲ろう者生活実態調査

予備調査対象者	平成16年度盲ろう者実態調査検討委員の属する 「盲ろう者友の会」等地域団体の盲ろう者9人
回収	9人

回収率	100%
本調査対象者	盲ろう者338人
回収	312人
回収率	92.3%

8 調査結果

それぞれ第2部、第3部で結果を報告する。

9 期待される成果

今回の調査のうち、特に第2部の「全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査」では、全国の多くの自治体から協力が得られ、盲ろう者の人数や年齢構成、障害の程度を把握する上で大きな成果があった。このことは、今後障害者自立支援法の施行と合わせて、各自治体と全国の「盲ろう者友の会」等地域団体および当協会との連携を進めるうえで、大きなきっかけとなることが期待される。

また、第1部の「盲ろう者生活実態調査」では、ITの利用など生活様式の変化に併せて新しい項目を加えたため、盲ろう者の生活の状況をより詳細に調査できたと思っている。

ただし、この調査の母集団は、全国盲ろう者協会へ登録している盲ろう者および盲ろう者向け通訳・介助者派遣事務所、各関連施設等から推薦のあった盲ろう者たちである。これらの人たちは、既にコミュニケーション手段も獲得していて、ある程度社会参加を果たしている人たちであり、盲ろう者の中では比較的恵まれた状況にある人たちであると予想される。このことは、第2部と第3部で調査した調査対象者の年齢構成の分布表を見ても明らかである。したがって、全国における盲ろう者の生活実態は、この調査に表れた数字よりもはるかに恵まれない状態にあることは十分に予想できることである。私達は、今後の盲ろう者福祉を進める上で、その事を十分に念頭に置かなければならない。わが国の盲ろう者福祉はまだまだ前へ向けて進める必要があるのと同時に、横

への幅をもっと広げる必要があり、社会参加の意味というものを、個々の盲ろう者の状態に応じて、幅広く理解する必要があるのである。

いずれにしても、この調査によって盲ろう者の生活実態や願いは十分に汲み取ることが出来る。この調査の中から、すべての盲ろう者に共通する普遍的な生活実態や願いを拾い出すことは十分に可能なのである。そのような意味で、この調査結果が、今後の盲ろう者福祉の幅を広げていく上で、大きな役割を果たすであろうことが期待される。

10 今後の課題

「盲ろう者向け通訳・介助者養成事業」と「盲ろう者向け通訳・介助者派遣事業」の二つの事業は、設立以来15年間当協会が最も力を注いできた事業である。この事業は目と耳が不自由なため、とかく家の中に引きこもりがちな盲ろう者のもとへ、専門技術を持った通訳・介助者を派遣し、盲ろう者の社会参加を促すための事業である。この事業の成果は、第3部の問17の調査結果によく表れている。この事業を利用することによって、盲ろう者の生活や生き甲斐が大きく変化したことが伺えるのである。

当協会のこの事業と、平成12年度より始まった都道府県・市における同事業の利用者は、全国13,000人の盲ろう者のうちまだまだごくわずかに過ぎないが、障害者自立支援法の実施にともなって、都道府県への移行がいつそう進むことも予想され、利用者は更に拡大していくはずである。

通訳・介助者の派遣事業によって、各地域の盲ろう者は、交流会に参加したり旅行に出かけたりすることが可能になった。しかし、それだけでは盲ろう者の社会参加が果たせたとはいえない。第3部の問26～問32における就労や訓練関連の調査結果には、かなり深刻なものが伺える。住民税の課税状況から見ても、稼働年齢の盲ろう者の大半が仕事も与えられず年金だけに頼る生活を送っていることが分かる。公立の職業訓練機関でさえ、盲ろう者の訓練を断っているという例がある。

盲ろう者の真の社会参加を実現するためには、今後、リハビリテーションや就労に関する調査を綿密に行い、盲ろう者福祉の質と量と種類を更に増大させるための資料を収集する必要がある。

第2部 全国の自治体が把握している 盲ろう者数の調査

第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

1 調査結果

(1) 都道府県からの回答集計結果

連番	自治体名	盲ろう者 の人数	障害の程度					障害者手帳の交付				在宅か施設かの別	
			視覚 1級・2級	視覚 1級・2級	視覚 3級-6級	視覚 3級-6級	不明	視覚障害 者手帳を 先に交付	聴覚障害 者手帳を 先に交付	同時に 交付	不明	在宅	施設入所
			聴覚 1級・2級	聴覚 3級-6級	聴覚 1級・2級	聴覚 3級-6級							
1	北海道	634	72	258	62	242	0	47	28	99	460	476	720
2	青森県	157	24	72	11	46	4	81	32	44	0	140	17
3	岩手県												
4	宮城県												
5	秋田県	126	19	47	18	40	2	28	27	56	15	105	21
6	山形県	223	20	98	12	89	4	85	56	82	0	0	0
7	福島県												
8	茨城県	241	39	102	25	75	0	1	0	240	0	236	5
9	栃木県	253	30	111	29	83	0	132	76	0	40		
10	群馬県	233	33	98	20	68	14	4	2	6	221	221	12
11	埼玉県												
12	千葉県	265	39	90	19	70	47	33	4	75	153	55	7
13	東京都	374	61	115	32	123	43	83	76	166	49	334	41
14	神奈川県	261	38	109	28	79	7	80	52	111	18	220	41
15	新潟県	217	27	82	21	87	0	41	42	134	0	0	0
16	富山県	119	12	55	6	46	0	51	40	28	0	97	16
17	石川県	11	9	1	1			2	9			11	
18	福井県	10		3	3	4					10	10	
19	山梨県												
20	長野県	223	45	75	11	86	6	73	49	72	29	204	19
21	岐阜県	219	22	111	24	62	0	93	56	70	0	215	4
22	静岡県	232	39	108	19	65	1	74	54	80	24	214	18
23	愛知県												
24	三重県												
25	滋賀県	153	25	65	19	43	1	62	45	46	0	142	11
26	京都府	242	25	73	23	86	35	28	18	0	196		
27	大阪府	636	109	233	66	228	0	192	126	111	207	384	33
28	兵庫県												
29	奈良県	204	31	85	20	68	0	204	204	0	204	134	28
30	和歌山県	213	39	80	19	75	0	106	40	66	1	121	25
31	鳥取県	59	7	23	7	21	1	17	14	14	0	50	9
32	島根県												
33	岡山県	73	6	35	5	27	0	30	14	29	0	61	7
34	広島県	323	26	87	24	117	69				323		
35	山口県	143	16	67	9	51	0	0	0	0	143	0	0
36	徳島県	235	27	93	20	92	3	99	56	80	0	0	0
37	香川県	232	30	97	18	87		71	37	52	72	232	0
38	愛媛県	333	41	162	24	106	0	79	54	130	26	121	25
39	高知県												
40	福岡県	601	91	203	34	227	46	164	101	336	0	509	54
41	佐賀県	187	29	59	19	69	11	51	32	74	30	162	25
42	長崎県	229	32	93	29	75		70	56	103			
43	熊本県	427	56	149	44	176	2				427		
44	大分県	284	26	110	27	119	2	91	41	150	2	180	26
45	宮崎県												
46	鹿児島県	466	118	172	32	136	8	80	39	186	161	296	35
47	沖縄県	135	22	63	13	36	1	55	42	38	0	110	16
合計		8,973	1,285	3,484	793	3,104	307	2,307	1,522	2,678	2,811	5,040	1,215

第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

コメント

- 47 都道府県に調査を依頼した結果。36 都道府県より回答を得た。

(2) 政令指定都市からの回答集計結果

連番	自治体名	盲ろう者の 人数	障害の程度					障害者手帳の交付				在宅か施設かの別	
			視覚 1級・2級	視覚 1級・2級	視覚 3級・6級	視覚 3級・6級	不明	視覚障害 者手帳を 先に交付	聴覚障害 者手帳を 先に交付	同時に 交付	不明	在宅	施設入所
			聴覚 1級・2級	聴覚 3級・6級	聴覚 1級・2級	聴覚 3級・6級							
1	札幌市	8	3	4	1	0	0	0	0	0	8	8	0
2	仙台市	58	12	29	3	14							
3	さいたま市	43	2	22	4	15		12	13	18		41	2
4	千葉市	45	7	18	6	14	0	4	3	3	35	44	1
5	横浜市	222	43	88	17	73	1	42	39	141	0	209	13
6	川崎市	67	13	26	8	19	1	28	23	10	6	59	8
7	名古屋市												
8	京都市												
9	大阪市	25	11	5	3	1	5				25	22	3
10	神戸市												
11	広島市												
12	北九州市	220	34	85		87	14						
13	福岡市	173	28	77	14	54	0	22	10	1	140		
合計		861	153	354	56	277	21	108	88	173	214	383	27

コメント

- 9 の政令指定都市より回答を得た。

(3) その他の自治体からの回答集計結果

連番	自治体名	盲ろう者の 人数	障害の程度					障害者手帳の交付				在宅か施設かの別	
			視覚 1級・2級	視覚 1級・2級	視覚 3級・6級	視覚 3級・6級	不明	視覚障害 者手帳を 先に交付	聴覚障害 者手帳を 先に交付	同時に 交付	不明	在宅	施設入 所
			聴覚 1級・2級	聴覚 3級・6級	聴覚 1級・2級	聴覚 3級・6級							
1	府中市	19	1	15	1	2	0	6	8	5	0	17	2
2	池田町	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
3	板橋区	42	7	18	2	15	0	13	18	11	0	33	10
4	八王子市	38	12	13	2	11		7	9	14	8	37	1
5	大府市	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
6	いわき市	45	6	14	5	20	0	13	9	22	0	0	0
合計		146	26	60	10	49	1	40	44	52	9	89	13

コメント

- 都道府県、政令指定都市以外に 6 の自治体より回答を得た。

第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

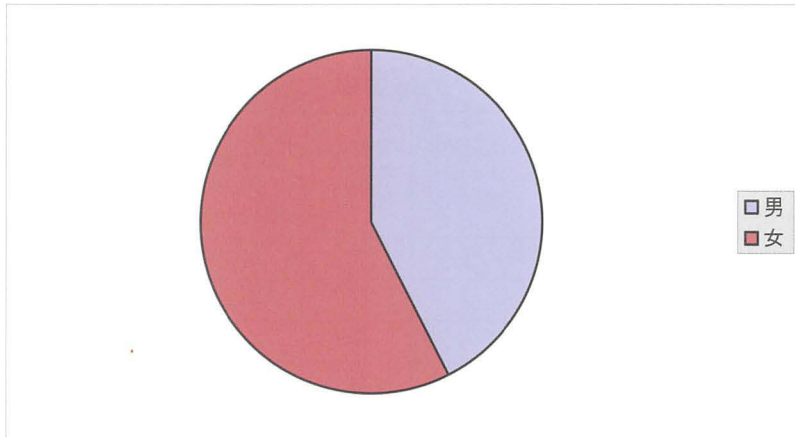
(4) 全回答の集計結果

年齢	性別	人数	障害の程度					障害者手帳の交付				在宅	
			視覚1級・2級	視覚1級・2級	視覚3級-6級	視覚3級-6級	不明	視覚障害者手帳を先に交付	聴覚障害者手帳を先に交付	視覚・聴覚障害者手帳を同時に交付	不明	在宅	施設入所
			聴覚1級・2級	聴覚3級-6級	聴覚1級・2級	聴覚3級-6級							
0-5	男	9	1	7	0	1	0	1	3	4	1	8	0
	女	6	2	3	0	1	0	2	3	0	1	5	0
6-9	男	18	1	13	1	3	0	6	7	2	5	13	0
	女	14	4	5	0	5	0	2	0	7	3	10	0
10-17	男	46	10	19	7	10	0	11	14	11	9	26	5
	女	35	9	10	7	8	1	13	10	8	6	20	1
18-19	男	7	1	2	0	4	0	2	0	2	3	5	0
	女	12	3	6	1	2	0	2	3	3	5	9	1
20-29	男	58	21	13	9	15	0	16	10	19	13	31	6
	女	65	11	24	13	16	1	12	17	15	17	39	8
30-39	男	84	20	31	8	20	5	19	21	25	22	58	6
	女	75	30	24	10	11	0	10	17	30	23	48	2
40-49	男	186	60	54	26	34	12	35	45	55	51	111	15
	女	158	55	42	27	29	5	30	32	46	47	90	9
50-59	男	396	115	137	56	80	8	85	103	104	117	223	28
	女	307	96	100	46	56	9	48	81	76	96	164	22
60-64	男	292	66	110	30	79	7	58	54	84	92	167	22
	女	331	68	113	46	99	5	62	59	100	108	212	5
65-69	男	389	75	152	35	111	16	105	52	117	107	236	11
	女	540	104	219	58	144	15	123	95	163	158	318	26
70-74	男	533	70	206	58	178	21	143	106	135	167	303	24
	女	735	118	310	55	233	19	191	120	210	230	394	49
75-79	男	570	62	244	31	213	20	167	79	166	159	317	19
	女	826	108	345	61	284	28	210	120	250	232	441	53
80-89	男	1139	95	438	73	501	32	312	169	316	342	613	49
	女	1783	161	763	126	684	49	458	256	524	525	951	124
90-	男	508	33	172	36	231	36	108	67	127	201	227	30
	女	858	65	336	39	378	40	197	99	266	293	352	715
総数		9980	1464	3898	859	3430	329	2428	1642	2865	3033	5391	1230

(5) 性別分布

性別	実数	割合
男	4,235	42.4%
女	5,745	57.6%
合計	9,980	100.0%

第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

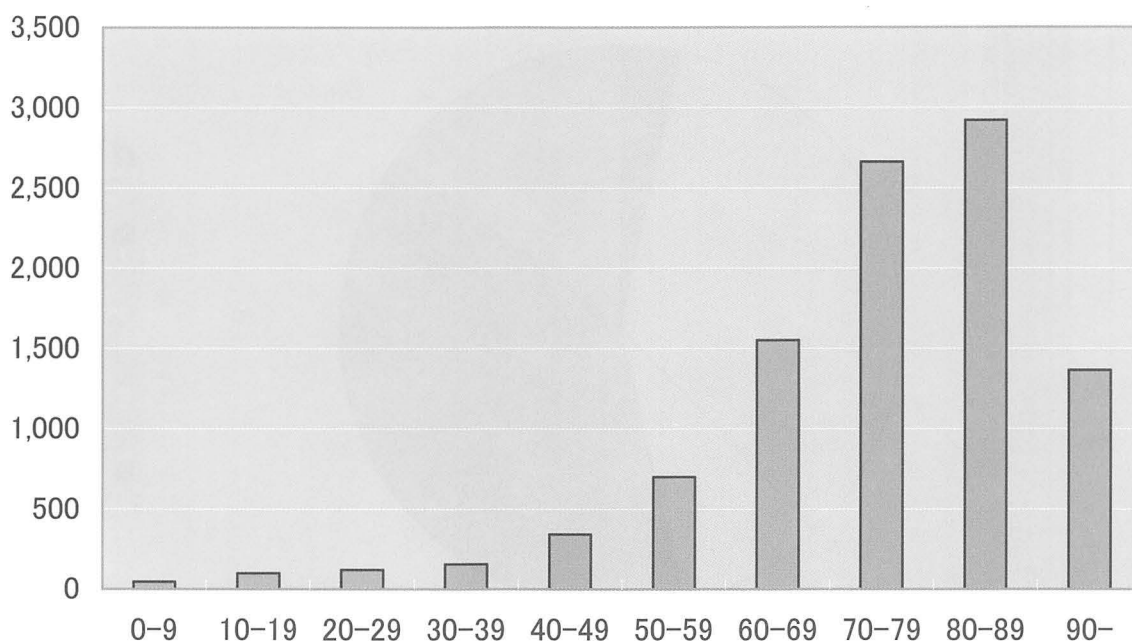


コメント

- 男女比を見ると男 42.4%、女 57.6%と女の方が若干多いという結果が出た。

(6) 年齢分布

年齢	人数	割合
0-9	47	0.5%
10-19	100	1.0%
20-29	123	1.2%
30-39	159	1.6%
40-49	344	3.4%
50-59	703	7.0%
60-69	1,552	15.6%
70-79	2,664	26.7%
80-89	2,922	29.3%
90-	1,366	13.7%
合計	9,980	100.00%

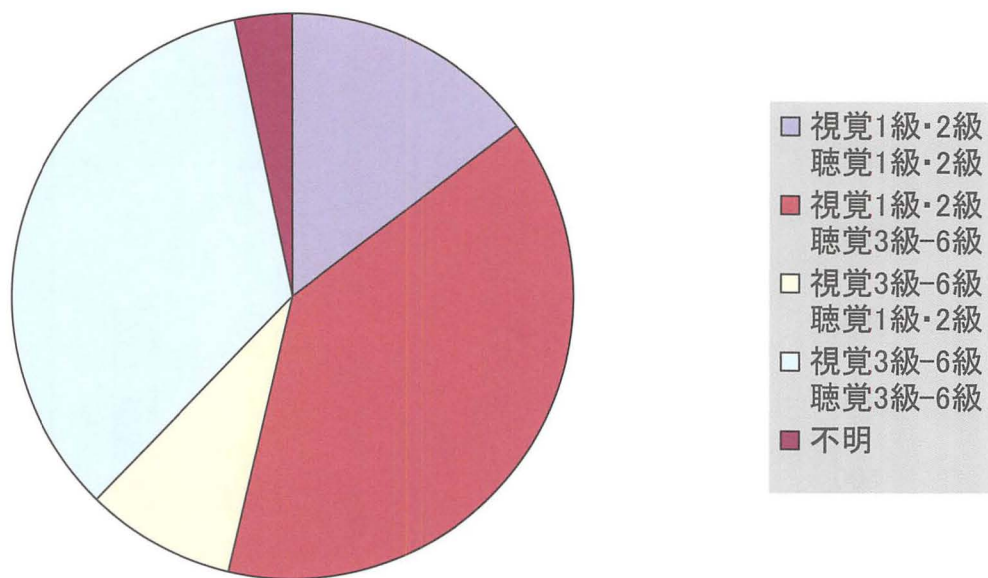


コメント

- 年齢区分を見ると高齢者に多いことが分かる。
- 20歳未満の占める割合は全体のわずか1.5%にすぎない。
- 50歳代、60歳代あたりから急激な伸びが見られる。

(7) 障害の程度による分布

	障害の程度					合計
	視覚1級・2級 聴覚1級・2級	視覚1級・2級 聴覚3級-6級	視覚3級-6級 聴覚1級・2級	視覚3級-6級 聴覚3級-6級	不明	
人数	1,464	3,898	859	3,430	329	9,980
割合	14.7%	39.1%	8.6%	34.4%	3.3%	100.0%

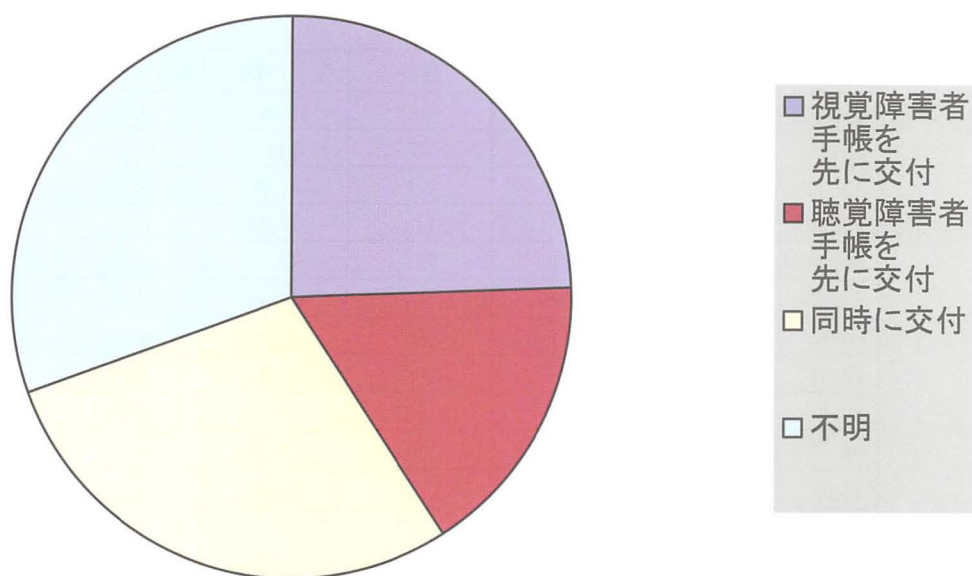


コメント

- 「視覚1級・2級 聴覚3級-6級」が39.1%と最も多い。
- 次いで「視覚3級-6級 聴覚3級-6級」34.4%である。
- 視覚・聴覚両方の障害が重度な「視覚1級・2級 聴覚1級・2級」は14.7%である。
- 視覚・聴覚のどちらかが1級・2級の重度盲ろう者の占める割合は、62.4%に達する。

(8) 身体障害者手帳の交付に基づく分布

	手帳の交付				合計
	視覚障害者 手帳を 先に交付	聴覚障害者 手帳を 先に交付	同時に交付	不明	
人数	2,428	1,642	2,865	3,033	9,968
割合	24.4%	16.5%	28.7%	30.4%	100.0%

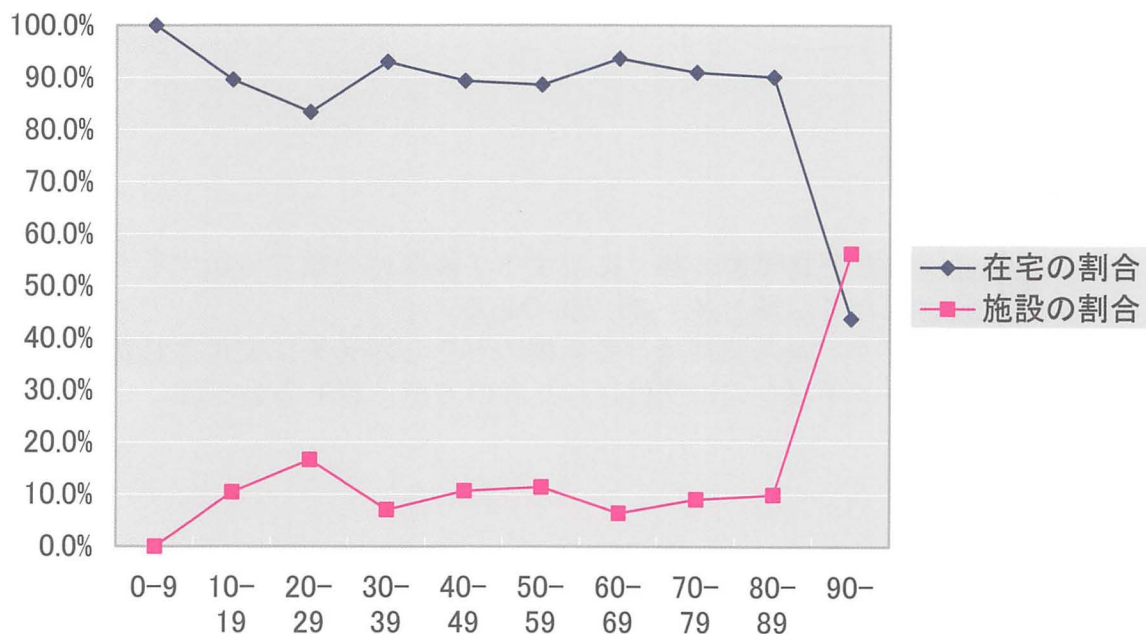


コメント

- 視覚障害と聴覚障害、各々に対する手帳交付の順で分類すると、同時に交付された者が最も多く 28.7%である。
- 視覚障害者手帳と聴覚障害者手帳のどちらかを先に交付された者では、視覚障害者手帳を先に交付された者の方が、若干多かった。

(9) 在宅か施設かの分類

年齢	在宅の人数	施設の数	合計	在宅の割合	施設の割合
0-9	36	0	36	100.0%	0.0%
10-19	60	7	67	89.6%	10.4%
20-29	70	14	84	83.3%	16.7%
30-39	106	8	114	93.0%	7.0%
40-49	201	24	225	89.3%	10.7%
50-59	387	50	437	88.6%	11.4%
60-69	933	64	997	93.6%	6.4%
70-79	1,455	145	1,600	90.9%	9.1%
80-89	1,564	173	1,737	90.0%	10.0%
90-	579	745	1,324	43.7%	56.3%
合計	5,391	1,230	6,621	81.4%	18.6%



コメント

- 「在宅」か「施設」かで分類すると 81.4%が在宅、18.6%が施設である。
- 90歳以上では「在宅」と「施設」の逆転が見られる。

2 考察

(1) 全国の盲ろう者数と発生率

総務省が「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数（平成16年3月31日現在）」で発表している人口と今回調査した各都道府県別盲ろう者数を比較した。（都道府県からの回答で一部しか回答のなかったものは除外している。）

都道府県	人口	盲ろう者数	発生率 (1000人あたり)
北海道	5,650,573	642	0.11
青森県	1,479,358	157	0.11
岩手県	1,405,060		
宮城県	2,350,026		
秋田県	1,173,722	126	0.11
山形県	1,225,990	223	0.18
福島県	2,116,210		
茨城県	2,991,804	241	0.08
栃木県	2,006,717	253	0.13
群馬県	2,022,780	233	0.12
埼玉県	6,980,889		
千葉県	6,001,032	310	0.05
東京都	12,082,143		
神奈川県	8,600,109	550	0.06
新潟県	2,455,996	217	0.09
富山県	1,118,661	119	0.11
石川県	1,175,071	11	0.01
福井県	824,824	10	0.01
山梨県	882,678		
長野県	2,200,896	223	0.10
岐阜県	2,106,917	219	0.10
静岡県	3,773,140	232	0.06
愛知県	7,027,499		
三重県	1,857,773		
滋賀県	1,353,893	153	0.11
京都府	2,565,424	242	0.09
大阪府	8,651,977	661	0.08
兵庫県	5,566,566		
奈良県	1,439,040	204	0.14
和歌山県	1,073,434	213	0.20

第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査

都道府県	人口	盲ろう者数	発生率 (1000人あたり)
鳥取県	614,650	59	0.10
島根県	752,534		
岡山県	1,957,269	73	0.04
広島県	2,869,555	323	0.11
山口県	1,512,333	143	0.09
徳島県	823,304	235	0.29
香川県	1,029,356	232	0.23
愛媛県	1,496,929	333	0.22
高知県	809,554		
福岡県	5,010,859	994	0.20
佐賀県	877,040	187	0.21
長崎県	1,511,064	229	0.15
熊本県	1,862,895	427	0.23
大分県	1,227,107	284	0.23
宮崎県	1,177,455		
鹿児島県	1,769,932	466	0.26
沖縄県	1,362,128	135	0.10

各都道府県における盲ろうの発生率の平均値と標準偏差を求めた。

これをもとに全国人口から推計盲ろう者数を求めると以下の通りである。

発生率の平均	標準偏差	全国人口	推計盲ろう者数
0.13	0.07	126,824,166	16,354

(2) 性別分布についての考察

総務省統計局が発表している平成16年10月1日現在推計人口では、男は6229万5千人、女は6539万2千人としている。その比率はそれぞれ48.8% 51.2%である。今回の調査においては男42.4%、女57.6%と女の方が多い。

その理由として女の方が平均寿命が長いため、後期高齢期における盲ろうの発生率の高さが影響しているのではないかとと思われる。

(3) 就労支援が必要な盲ろう者の人数の試算

全国における盲ろう者の数を16,354と仮定し、さらに本調査における盲ろう者の年齢分布から就労支援が必要と思われる年齢18～65歳の占める割合(19.7%)から試算すると、3,230人となる。

(4) 教育上の支援が必要な盲ろう児の人数の試算

全国における盲ろう者の数を16,354と仮定し、さらに本調査における盲ろう者の年齢分布から教育的支援が必要と思われる年齢0～18歳の占める割合(1.3%)から試算すると、210人となる。

(5) リハビリテーション訓練の必要性

盲ろう者の年齢分布を見ると30歳代までは2%以下で、40歳代から割合が急激に増加していることから、大多数の盲ろう者は学齢時から盲ろうであったのではなく、ある程度の年齢に達してから盲ろう者になったということが分かる。

このことから、盲ろう者として生きていくために必要な知識・技能(歩行、コミュニケーション、生活など)を身に付けている盲ろう者はかなり少ないことが想像できる。

したがって、これらの者が盲ろう者として生きていくための必要な知識技能を身に付け、社会参加を果たすためには、盲ろう者に対するリハビリテーション訓練が必要であろう。

第3部 盲ろう者生活実態調査

第3部 盲ろう者生活実態調査

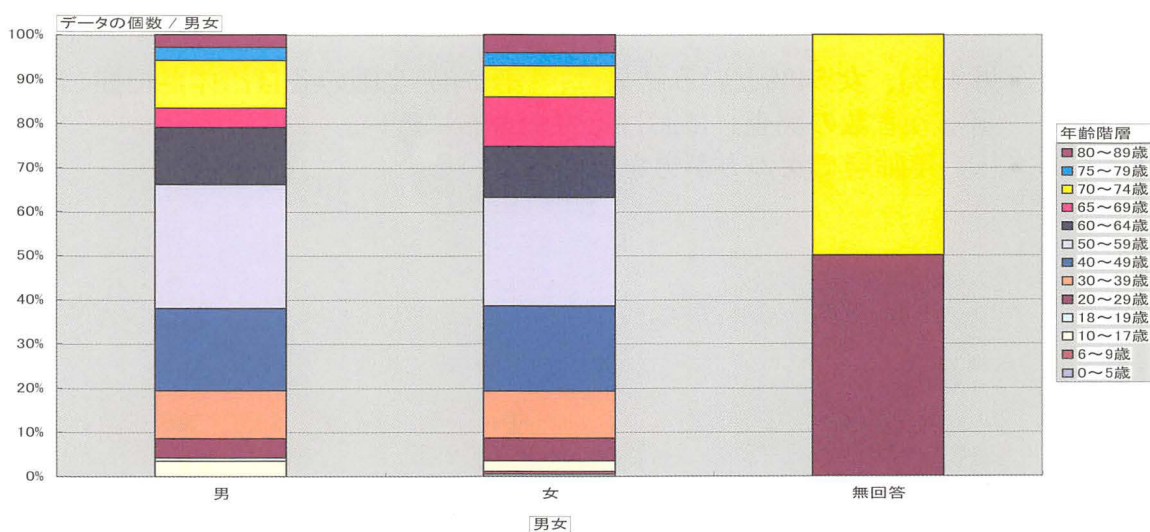
1 調査結果

(1) 性別分布

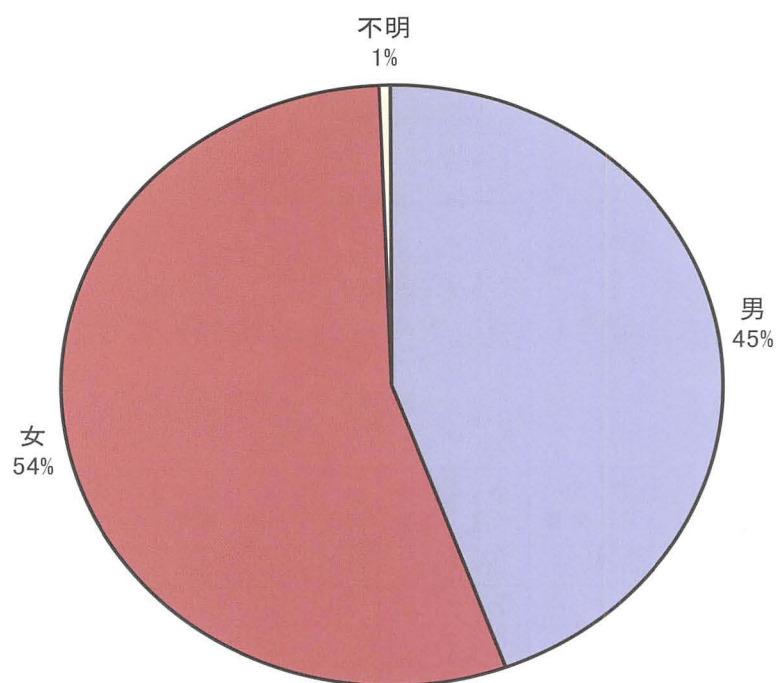
問1 あなたの性別についてお聞きします。どちらか一つを選んでください。

- 1 男
- 2 女

男女	0～5歳	6～9歳	10～17歳	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	総計
男			5	1	6	15	26	39	18	6	15	4	4	139
女	1	1	4		9	18	33	42	20	19	12	5	7	171
無回答					1						1			2
総計	1	1	9	1	16	33	59	81	38	25	28	9	11	312



第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 男 45%、女 54%という結果は、「第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査」における性別分布に近い。
- 広い年齢層で女の方が男を上回っている。

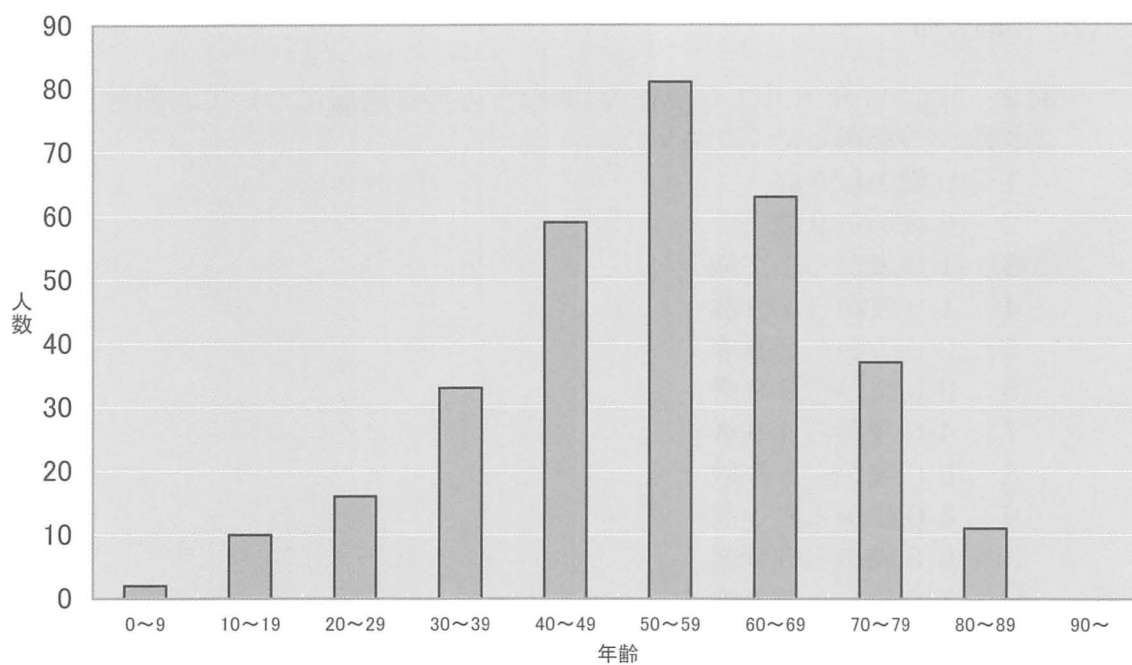
(2) 年齢分布

問2 平成17年8月1日現在の、あなたの年齢階層についてお聞きします。
 どれか一つを選んでください。

- 1 0歳から5歳
- 2 6歳から9歳
- 3 10歳から17歳
- 4 18歳から19歳
- 5 20歳から29歳
- 6 30歳から39歳
- 7 40歳から49歳
- 8 50歳から59歳
- 9 60歳から64歳
- 10 65歳から69歳
- 11 70歳から74歳
- 12 75歳から79歳
- 13 80歳から89歳
- 14 90歳以上

年齢区分 (詳細)	人数	割合	年齢区分 (10歳区切)	人数	割合
0～5	1	0%	0～9	2	1%
6～9	1	0%			
10～17	9	3%	10～19	10	3%
18～19	1	0%			
20～29	16	5%	20～29	16	5%
30～39	33	11%	30～39	33	11%
40～49	59	19%	40～49	59	19%
50～59	81	26%	50～59	81	26%
60～64	38	12%	60～69	63	20%
65～69	25	8%			
70～74	28	9%	70～79	37	12%
75～79	9	3%			
80～89	11	4%	80～89	11	4%
90～	0	0%	90～	0	0%
合計	312	100%	合計	312	100%

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 今回の調査に回答した盲ろう者の年齢分布では50歳代にピークがある。
- 「第2部 全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査」では80歳代にピークがあった。

(3) 盲ろう者向け通訳・介助者派遣状況

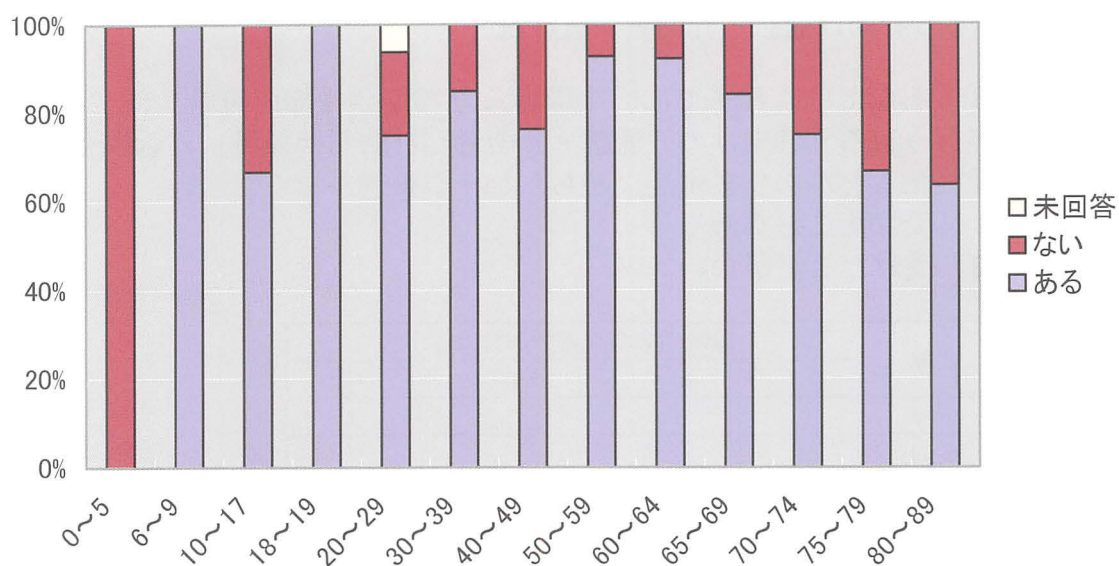
問3 あなたはこれまでに、全国盲ろう者協会や都道府県、市、「友の会」等が行う盲ろう者向けの「通訳・介助者」（「訪問相談員」とも言う）の派遣を受けたことがありますか。どちらか一つを選んでください。

- 1 受けたことがある
- 2 受けたことがない

年齢	通訳・介助者派遣を受けたことが			
	ある	ない	未回答	合計
0～5		1		1
6～9	1			1
10～17	6	3		9
18～19	1			1
20～29	12	3	1	16
30～39	28	5		33
40～49	45	14		59
50～59	75	6		81
60～64	35	3		38
65～69	21	4		25
70～74	21	7		28
75～79	6	3		9
80～89	7	4		11
90～				0
合計	258	53	1	312

年齢	通訳・介助者派遣を受けたことが			
	ある	ない	未回答	合計
0～5	0%	100%	0%	100%
6～9	100%	0%	0%	100%
10～17	67%	33%	0%	100%
18～19	100%	0%	0%	100%
20～29	75%	19%	6%	100%
30～39	85%	15%	0%	100%
40～49	76%	24%	0%	100%
50～59	93%	7%	0%	100%
60～64	92%	8%	0%	100%
65～69	84%	16%	0%	100%
70～74	75%	25%	0%	100%
75～79	67%	33%	0%	100%
80～89	64%	36%	0%	100%
90～				
合計	83%	17%	0%	100%

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 通訳介助を受けたことのある盲ろう者は83%にのぼる。
- 50~64 歳では9割を超えるが、それより高齢者では年齢が高くなればなるほど、低率傾向がある。

(4) 住居

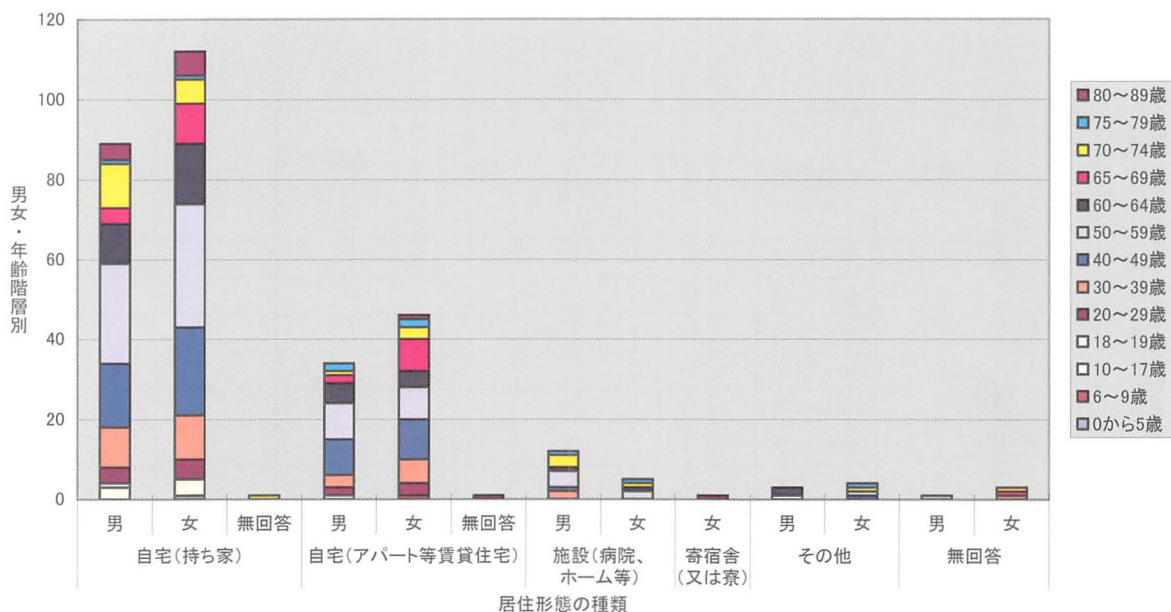
問4 あなたは現在どこで生活していますか。どれか一つを選んでください。

- 1 自宅（自分の持ち家）で生活している（問5にお答えください）
- 2 自宅（アパート等賃貸住宅）で生活している（問5にお答えください）
- 3 施設（病院、ホームなどを含む）で生活している
- 4 寄宿舍（又は寮）で生活している
- 5 その他（「知人の家へ同居」など具体的に書いてください）
（ ）

男女	年齢階層	自宅(持ち家)	自宅 (アパート等賃貸住宅)	施設 (病院、ホーム等)	寄宿舍 (又は寮)	その他	無回答	総計
男	10～17歳	3	1			1		5
	18～19歳	1						1
	20～29歳	4	2					6
	30～39歳	10	3	2				15
	40～49歳	16	9	1				26
	50～59歳	25	9	4			1	39
	60～64歳	10	5	1		2		18
	65～69歳	4	2					6
	70～74歳	11	1	3				15
	75～79歳	1	2	1				4
	80～89歳	4						4
男 合計		89	34	12		3	1	139
女	0から5歳	1						1
	6～9歳		1					1
	10～17歳	4						4
	20～29歳	5	3		1			9
	30～39歳	11	6				1	18
	40～49歳	22	10			1		33
	50～59歳	31	8	2		1		42
	60～64歳	15	4	1				20
	65～69歳	10	8				1	19
	70～74歳	6	3	1		1	1	12
	75～79歳	1	2	1		1		5
80～89歳	6	1					7	
女 合計		112	46	5	1	4	3	171
無回答	20～29歳		1					1
	70～74歳	1						1
無回答 合計		1	1					2
総計		202	81	17	1	7	4	312

第3部 盲ろう者生活実態調査

その他として「兄弟の家で同居」、「兄夫婦と同居」、「兄名義」、「姉所有の家」に独居、「実妹の家族と同居」、「身内の家へ同居」、「息子夫婦のところに同居」、「妹の家に同居」などの記述が見られた。



コメント

- 自宅(持ち家)に居住しているのは 65%、自宅(アパート等賃貸住宅)に居住しているのは 26%であり、この二つを合わせると全体の 9 割を超える。
- 施設に居住しているのは 5%程である。

(5) 同居者

問5 (問4で1又は2と答えた方のみお答えください。) あなたは自宅でどなたと生活していますか。どれか一つを選んでください。

- 1 一人で生活している
- 2 家族と生活している (一緒に生活している人を○で囲んでください)
(祖父・祖母・父・母・配偶者・子供・兄弟姉妹・その他の親族)
- 3 その他の人と生活している (「友達」など、具体的に書いてください)
()

性別	一人で生活している	家族と生活している	その他の人と生活している	未回答	合計
男	11	106		6	123
女	19	128	1	10	158
未回答		1		1	2
合計	30	235	1	17	283

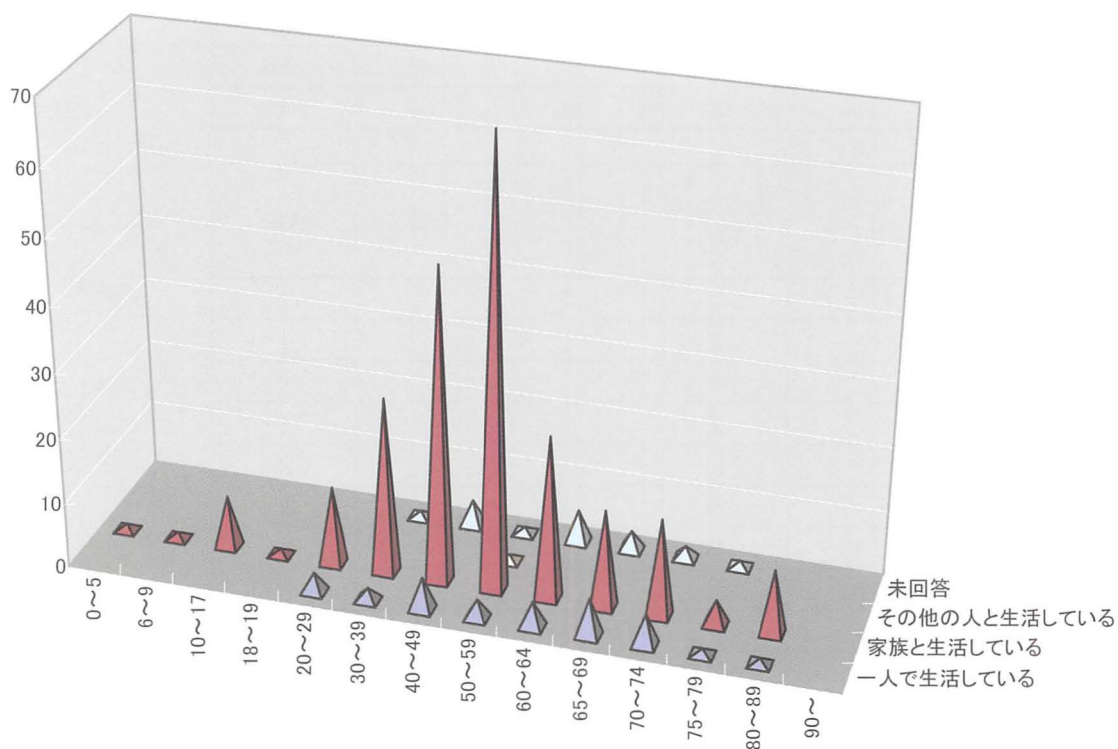
性別	一人で生活している	家族と生活している	その他の人と生活している	未回答	合計
男	9%	86%	0%	5%	100%
女	12%	81%	1%	6%	100%
未回答	0%	50%	0%	50%	100%
合計	11%	83%	0%	6%	100%

年齢	一人で生活している	家族と生活している	その他の人と生活している	未回答	合計
0～5		1			1
6～9		1			1
10～17		8			8
18～19		1			1
20～29	3	12			15
30～39	2	27		1	30
40～49	5	48		4	57
50～59	3	68	1	1	73
60～64	4	25		5	34
65～69	6	15		3	24
70～74	5	15		2	22
75～79	1	4		1	6
80～89	1	10			11
90～					0
合計	30	235	1	17	283

第3部 盲ろう者生活実態調査

年齢	一人で生活している	家族と生活している	その他の人と生活している	未回答	合計
0～5	0%	100%	0%	0%	100%
6～9	0%	100%	0%	0%	100%
10～17	0%	100%	0%	0%	100%
18～19	0%	100%	0%	0%	100%
20～29	20%	80%	0%	0%	100%
30～39	7%	90%	0%	3%	100%
40～49	9%	84%	0%	7%	100%
50～59	4%	93%	1%	1%	100%
60～64	12%	74%	0%	15%	100%
65～69	25%	63%	0%	13%	100%
70～74	23%	68%	0%	9%	100%
75～79	17%	67%	0%	17%	100%
80～89	9%	91%	0%	0%	100%
90～					
合計	11%	83%	0%	6%	100%

その他として「その他の親族」、「妹一家」、「友達」などの記述が見られた。



コメント

- 83%が家族と共に生活しており、ひとり暮らしは11%である。
- ひとり暮らしの率は男よりも女の方がやや多く、高齢者で高い率を示している。

(6) 配偶者

問6 あなたには現在配偶者がいますか。どれか一つを選んでください。

- 1 現在配偶者がいる（結婚している）
- 2 現在は配偶者がいないが、過去にいた経験はある（過去に結婚した経験がある）
- 3 配偶者を持った経験がない（結婚した経験がない）

性別	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
男	66	10	63	139
女	85	29	57	171
未回答	2			2
合計	153	39	120	312

性別	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
男	47%	7%	45%	100%
女	50%	17%	33%	100%
未回答	100%	0%	0%	100%
合計	49%	13%	38%	100%

年齢	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
0～5			1	1
6～9			1	1
10～17			9	9
18～19			1	1
20～29	3		13	16
30～39	9		24	33
40～49	32	4	23	59
50～59	46	9	26	81
60～64	26	4	8	38
65～69	12	9	4	25
70～74	15	6	7	28
75～79	4	2	3	9
80～89	6	5		11
90～				
合計	153	39	120	312

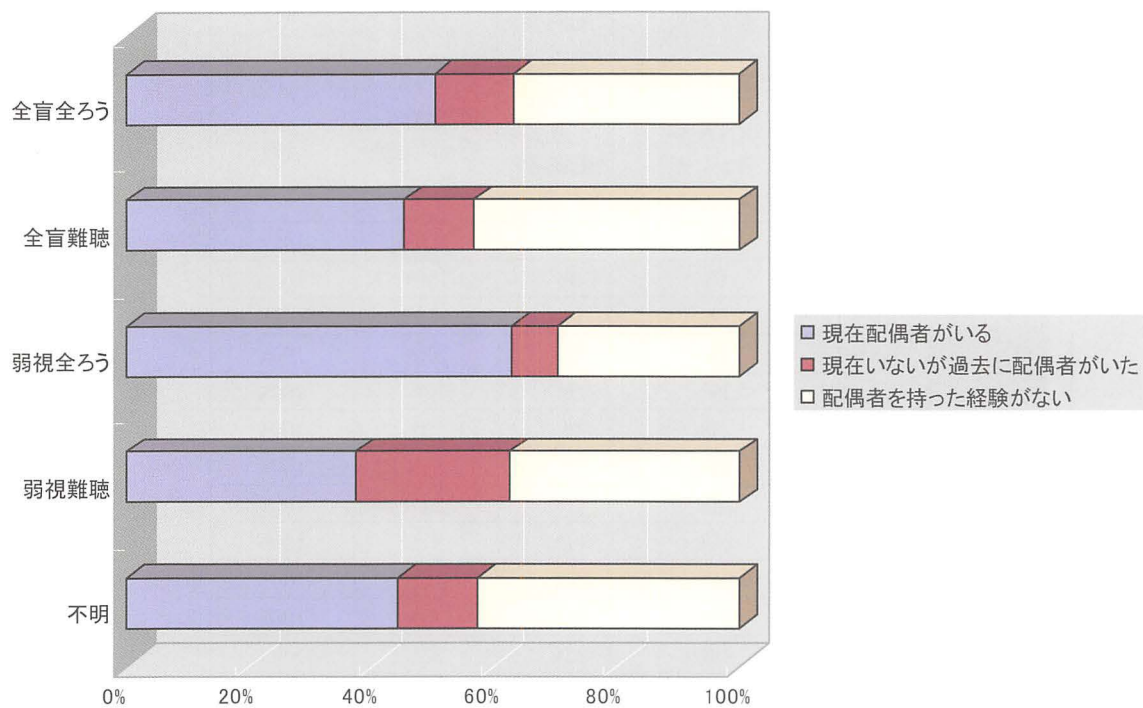
年齢	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
年齢	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
0～5	0%	0%	100%	100%
6～9	0%	0%	100%	100%
10～17	0%	0%	100%	100%
18～19	0%	0%	100%	100%
20～29	19%	0%	81%	100%
30～39	27%	0%	73%	100%
40～49	54%	7%	39%	100%
50～59	57%	11%	32%	100%
60～64	68%	11%	21%	100%
65～69	48%	36%	16%	100%
70～74	54%	21%	25%	100%
75～79	44%	22%	33%	100%
80～89	55%	45%	0%	100%
90～				
合計	49%	13%	38%	100%

盲ろう4種別	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
全盲全ろう	82	21	60	163
全盲難聴	24	6	23	53
弱視全ろう	17	2	8	27
弱視難聴	3	2	3	8
不明	27	8	26	61
合計	153	39	120	312

盲ろう4種別	現在配偶者がいる	現在いないが過去に配偶者がいた	配偶者を持った経験がない	合計
全盲全ろう	50%	13%	37%	100%
全盲難聴	45%	11%	43%	100%
弱視全ろう	63%	7%	30%	100%
弱視難聴	38%	25%	38%	100%
不明	44%	13%	43%	100%
合計	49%	13%	38%	100%

※「盲ろう4種別」については、44ページ参照

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 配偶者を持った経験がないのは男 45%、女 33%でやや男の方が高い。

(7) 身体障害者手帳の有無

問7 あなたは身体障害者手帳を持っていますか。どれか一つを選んでください。

- 1 持っている（問8・問9にお答えください）
- 2 持っていない

結果

回答を得た312名のうち、「2 持っていない」を選択したのは1名のみであった。

コメント

- 今回の調査では、ほとんどの回答者が身体障害者手帳を取得していた。

第3部 盲ろう者生活実態調査

(8) 視覚障害の等級

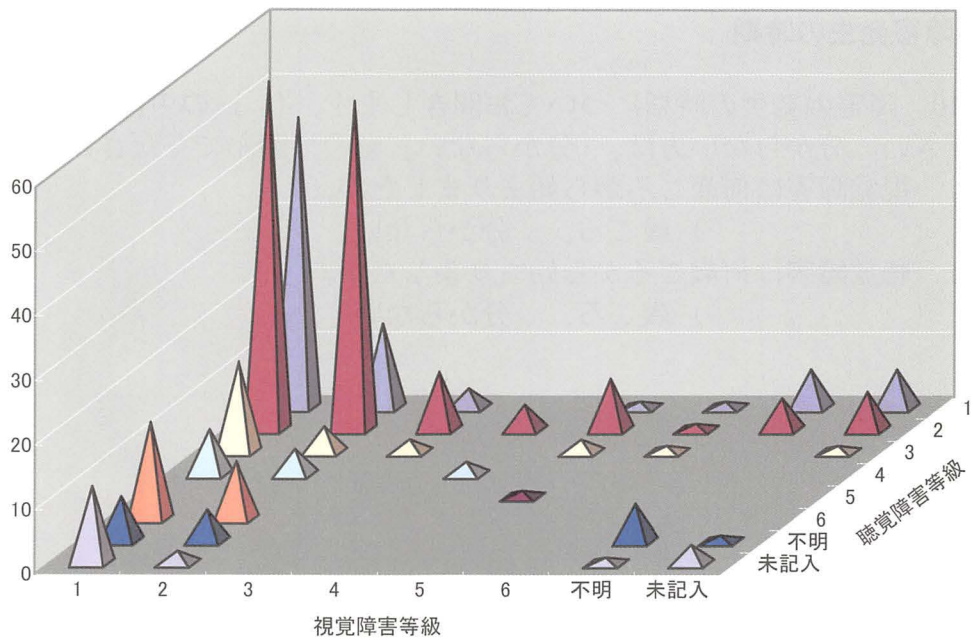
問8 (問7で1と答えた方のみおこたえください。) あなたの視覚障害の等級を書いてください。分からない人は「分からない」を○で囲んでください。

()、 分からない

		聴覚障害等級								合計
		1	2	3	4	5	6	不明	未記入	
視覚障害等級	1	45	54	14	7		15	7	12	154
	2	13	51	4	4		9	5	2	88
	3	3	9	2						14
	4		4		2					6
	5	1	8	2		1				12
	6	1	1	1						3
	不明	6	5					6	1	18
	未記入	6	6	1				1	3	17
合計		75	138	24	13	1	24	19	18	312

視覚障害1・2級を全盲、3～6級を弱視、聴覚障害1・2級を全ろう、3～6級を難聴と仮定し、盲ろう者の障害の程度による4分類（「全盲全ろう」「全盲難聴」「弱視全ろう」「弱視難聴」）での分布は以下の通りである。

		聴覚障害の程度			
		全ろう	難聴	不明	合計
視覚障害の程度	全盲	163	53	26	242
	弱視	27	8	0	35
	不明	23	1	11	35
	合計	213	62	37	312



コメント

- 今回の回答者において弱視難聴者は少なく、全盲全聾が最も多い。続いて全盲難聴、弱視全聾と続く。

(9) 聴覚障害の程度

問9 (問7で1と答えた方のみおこたえください。) あなたの聴覚障害の等級を書いてください。分からない人は「分からない」を○で囲んでください。

()、 分からない

(8)を参照

(10) 障害発生の時期

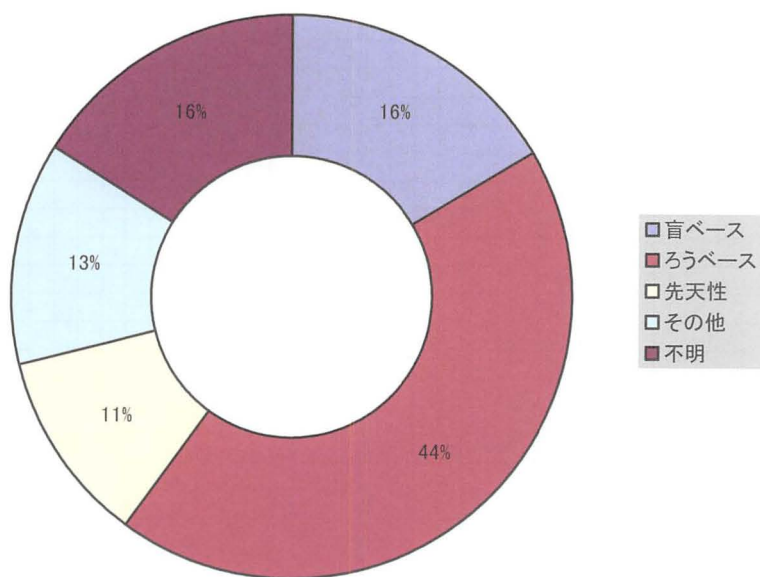
問 10 障害の発生の時期についてお聞きします。()の中に数字をご記入ください。分からない方は、「分からない」を○で囲んでください。

- 1 視覚障害は何歳ごろから始まりましたか。
()歳ごろ、 分からない
- 2 聴覚障害は何歳ごろから始まりましたか。
()歳ごろ、 分からない

第3部 盲ろう者生活実態調査

視覚障害が先に起こり、かつ障害の発生が18歳よりも前であった場合を「盲ベースの盲ろう者」、聴覚障害が先に起こり、かつ障害の発生が18歳よりも前である場合を「ろうベースの盲ろう者」、視覚障害と聴覚障害が同時に起こり、かつ障害の発生が18歳よりも前である場合を「先天性の盲ろう者」、それ以外を「それ以外の盲ろう者」と仮定すると、その分布は以下のようであった。

分類	人数	割合
盲ベース	51	16%
ろうベース	136	44%
先天性	35	11%
その他	40	13%
不明	50	16%
合計	312	100%



コメント

- ろうベースが全体の 44%と最も多く、盲ベース、その他、先天性と続くが、この三者の発生率にはそれほど大きな差はみられない。

(11) 視覚機能の障害

問11 視覚機能についてお聞きします。

次のうち、該当するもののすべてを選び、()内には数字を書いてください。分からない場合は、該当する項目の「分からない」を○で囲んでください。

- 1 視力は、右()、左()、 分からない
- 2 視野狭窄がある()度
- 3 中心暗点がある(中心部分が見えにくい)
- 4 夜盲がある(暗いところでは見えにくい)
- 5 白濁がある(曇って見える)
- 6 色覚異常がある(色の区別がつきにくい)
- 7 眼球振とうがある(眼球が震える)
- 8 羞明がある(明るいところではまぶしい)

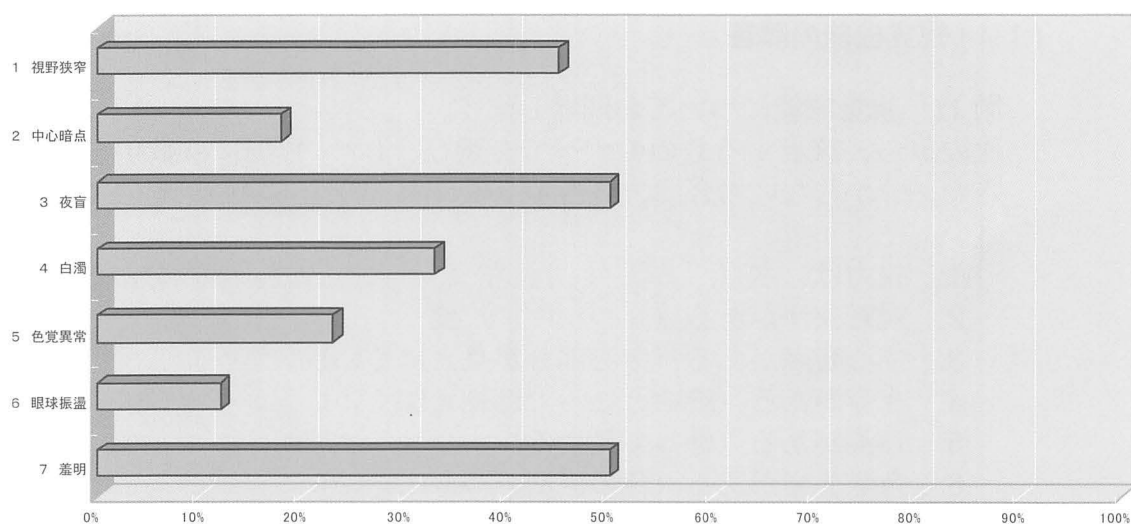
2～8までの症状の発生数と割合は以下の通りである。

症状	人数	割合
1 視野狭窄	139	45%
2 中心暗点	55	18%
3 夜盲	155	50%
4 白濁	102	33%
5 色覚異常	73	23%
6 眼球振盪	37	12%
7 羞明	155	50%

同時にいくつの症状を併せ持っているかどうかについては以下の通りである。

併発数	人数	割合
0	91	29%
1	41	13%
2	36	12%
3	48	15%
4	44	14%
5	31	10%
6	19	6%
7	2	1%
合計	312	100%

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

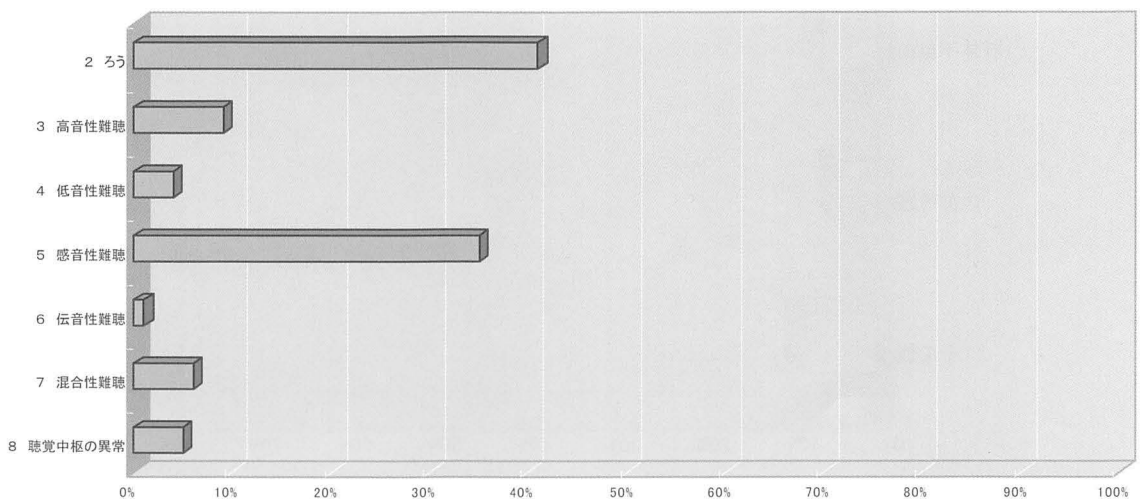
- 夜盲や羞明といった症状は全体の半数に訴えが見られる。
- 視野狭窄 45%や白濁 33%も頻度が高い。
- このように盲ろう者では視力低下以外に様々な視機能に関する症状を併せ持っている。平均すると上に挙げた視覚に関する訴えのうち1人で2～3個の症状を有していることになる。

(12) 聴覚機能の障害

問12 聴覚機能についてお聞きします。あなたの身体障害者手帳に記載されている聴覚機能障害は、次のうちのどれですか。該当するものをすべて選び、() 内には数字を書いてください。分からない場合は、該当する項目の「分からない」を○で囲んでください。

- 1 聴力は、右() dB、左() dB、 分からない
- 2 ろう(聾)(補聴器を使っても聞き取れない状況を言います)
- 3 高音性難聴
- 4 低音性難聴
- 5 感音性難聴
- 6 伝音性難聴
- 7 混合性難聴
- 8 聴覚中枢の異常

状態	件数	割合
2 ろう	129	41%
3 高音性難聴	27	9%
4 低音性難聴	12	4%
5 感音性難聴	110	35%
6 伝音性難聴	4	1%
7 混合性難聴	18	6%
8 聴覚中枢の異常	15	5%



コメント

- 41%がろうである。
- 難聴の中では感音性難聴を訴えるものが最も多い。

(13) 盲ろう以外の障害の有無

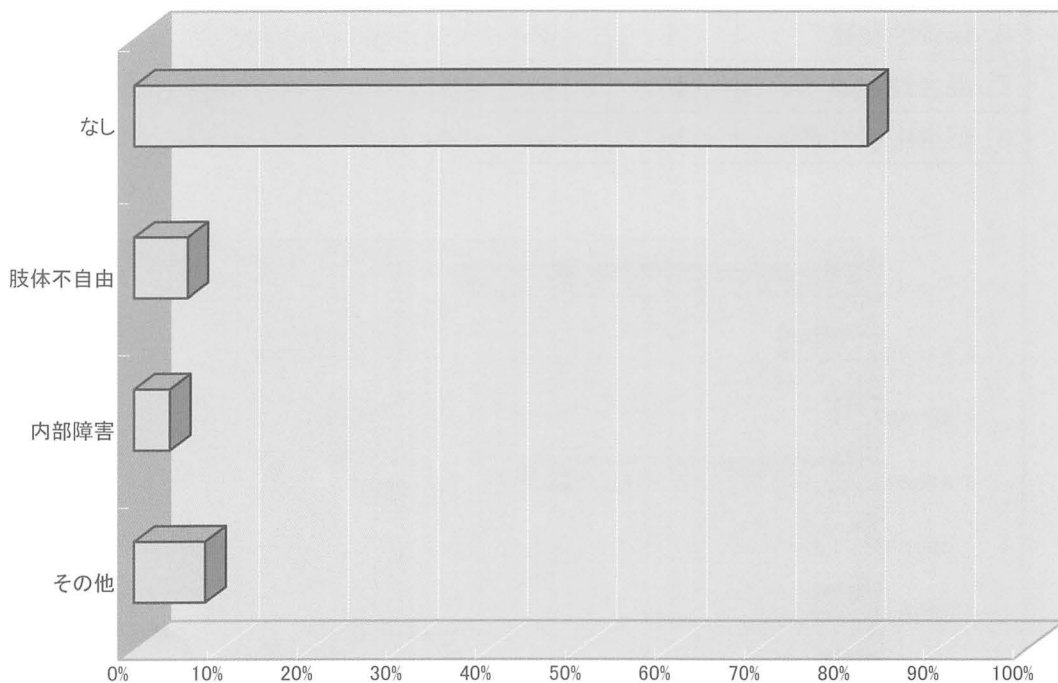
問13 あなたの、身体障害者手帳の記載内容についてお聞きします。視覚障害・聴覚障害の他に次のどの身体障害を負っていますか。(複数回答可)

- 1 肢体不自由
- 2 内部障害
- 3 その他

()

盲ろう以外の身体障害	人数	割合
なし	256	82%
肢体不自由	19	6%
内部障害	11	4%
その他	26	8%
合計	312	100%

その他として「引きつけ」、「軽度のバランス機能障害」、「高次機能障害」、「痛風」、「平行感覚障害」、「神経まひ」、「脊髄小脳変性症」、「人工膝関節」、「右手右足の麻痺」、「運動失調」、「両手親指切断」、「嗅覚障害」などの記述が見られた。



コメント

- 盲ろう以外の身体障害を持たないものは82%である。
- 残りの18%は肢体不自由、内部障害などの障害を併せ持っている。

(14) 精神機能等の障害の有無

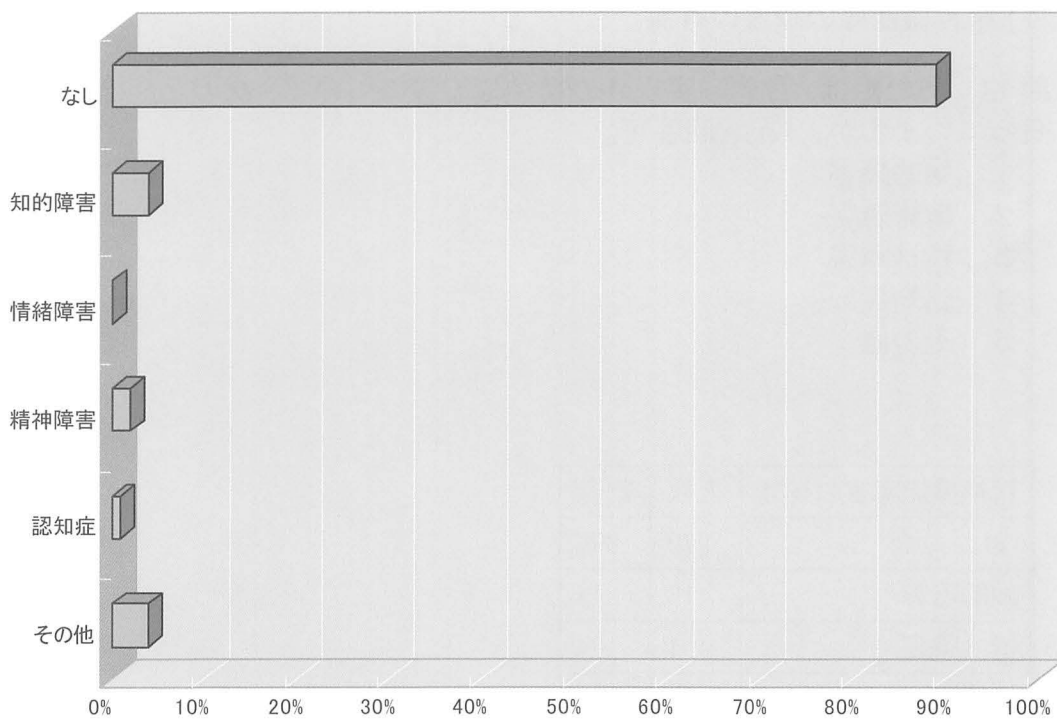
問14 あなたは、身体障害以外の精神機能等について、次のどの機能障害を負っていますか。(複数回答可)

- 1 知的障害
- 2 情緒障害
- 3 精神障害
- 4 認知症
- 5 その他

()

精神機能障害の有無	人数	割合
なし	279	89%
知的障害	13	4%
情緒障害	1	0%
精神障害	6	2%
認知症	2	1%
その他	11	4%
合計	312	100%

その他として「アルコール依存症」、「引きつけ」などの記述が見られた。



コメント

- 今回の調査では 89% で精神障害を有していない。
- 知的障害があるものが 4 %、精神障害があるものが 2 %であった。

(15) コミュニケーション方法

問15 コミュニケーション方法についてお聞きします。

a 現在、あなたが話すときの方法はなんですか。(複数回答可)

- 1 音声(発音は明瞭)
- 2 音声(発音は不明瞭)
- 3 指文字(日本語50音式)
- 4 指文字(ローマ字式)
- 5 手話
- 6 手書き文字(相手の手のひら等に文字を書く)
- 7 指点字
- 8 ブリスタ
- 9 キュードスピーチ
- 10 筆談(墨字)
- 11 筆談(点字)
- 12 その他何かあれば書いてください

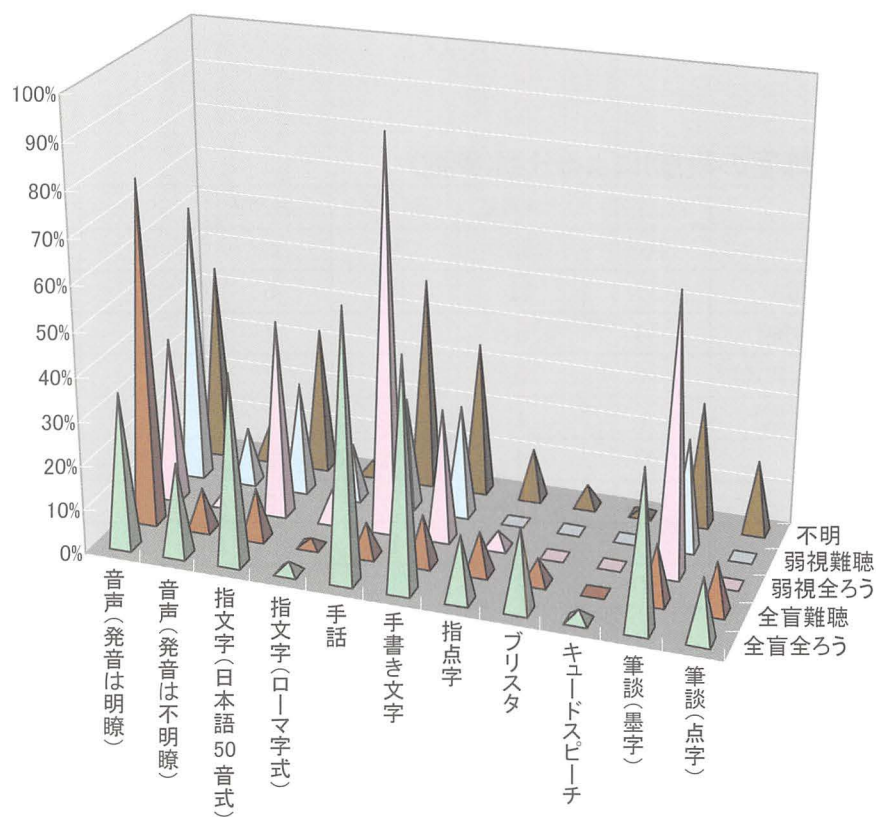
()

盲ろう4種別(障害の程度)による分類(実数)

話す時の方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	163	53	27	8	61	312
音声(発音は明瞭)	57	41	10	5	27	140
音声(発音は不明瞭)	34	5	1	1	5	46
指文字(日本語50音式)	70	6	12	2	20	110
指文字(ローマ字式)	4	1	2	1	2	10
手話	99	4	24	2	29	158
手書き文字	85	6	8	2	21	122
指点字	24	5	1		7	37
ブリスタ	30	3			3	36
キュードスピーチ	4				1	5
筆談(墨字)	58	7	17	2	17	101
筆談(点字)	23	6			10	39

盲ろう4種別(障害の程度)による分類(百分率)

話す時の方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
音声(発音は明瞭)	35%	77%	37%	63%	44%	45%
音声(発音は不明瞭)	21%	9%	4%	13%	8%	15%
指文字(日本語 50 音式)	43%	11%	44%	25%	33%	35%
指文字(ローマ字式)	2%	2%	7%	13%	3%	3%
手話	61%	8%	89%	25%	48%	51%
手書き文字	52%	11%	30%	25%	34%	39%
指点字	15%	9%	4%	0%	11%	12%
ブリスト	18%	6%	0%	0%	5%	12%
キュードスピーチ	2%	0%	0%	0%	2%	2%
筆談(墨字)	36%	13%	63%	25%	28%	32%
筆談(点字)	14%	11%	0%	0%	16%	13%



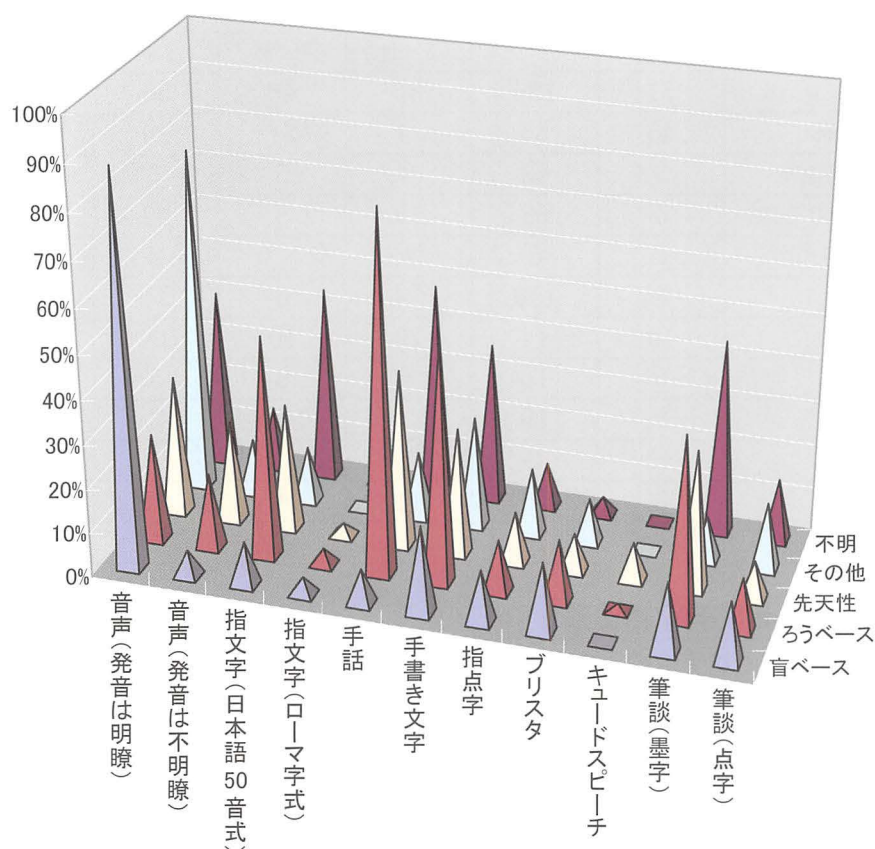
障害の発生順による分類(実数)

話す時の方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	51	136	35	40	50	312
音声(発音は明瞭)	45	33	11	31	20	140
音声(発音は不明瞭)	3	23	8	5	7	46
指文字(日本語 50 音式)	5	68	10	5	22	110
指文字(ローマ字式)	2	5	1		2	10
手話	4	110	14	6	24	158
手書き文字	10	74	10	10	18	122
指点字	6	16	4	6	5	37
ブリスト	8	19	3	4	2	36
キュードスピーチ		2	3			5
筆談(墨字)	8	56	11	4	22	101
筆談(点字)	7	16	3	6	7	39

障害の発生順による分類(百分率)

話す時の方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
音声(発音は明瞭)	88%	24%	31%	78%	40%	45%
音声(発音は不明瞭)	6%	17%	23%	13%	14%	15%
指文字(日本語 50 音式)	10%	50%	29%	13%	44%	35%
指文字(ローマ字式)	4%	4%	3%	0%	4%	3%
手話	8%	81%	40%	15%	48%	51%
手書き文字	20%	54%	29%	25%	36%	39%
指点字	12%	12%	11%	15%	10%	12%
ブリスト	16%	14%	9%	10%	4%	12%
キュードスピーチ	0%	1%	9%	0%	0%	2%
筆談(墨字)	16%	41%	31%	10%	44%	32%
筆談(点字)	14%	12%	9%	15%	14%	13%

その他として「パソコン」、「サイン」、「身振り」、「オブジェクトキュー」、
「点字タイプライター」などの記述が見られた。



コメント

- 全盲全ろうでは最も多いのは手話の 61%、続いて音声で発信する 56%、手書き文字の 52%と続く
- 全盲難聴では明瞭な音声 が 77%と格段に増え、不明瞭な音声と合わせると 86%になる。それに伴い、他の手段の利用が少ない。
- 弱視全ろうでは手話が 89%と多く、指文字も 51%と高い。また墨字の筆談が 63%と高いのも特徴である。
- 弱視難聴者では音声 が 76%、その他、手話や指文字、墨字の手書き文字など多様な発信手段が使われている。
- 盲ベースでは音声による発信が 96%と最も多い。
- ろうベースでは手話による発信が 81%と最も多く、指文字、手書き文字などを用いているものも多い。音声による発信は他のタイプに比べ少ない。
- 先天性では音声による発信が 54%と最も多いが、そのうち不明瞭な音声の占める割合が他のタイプより大きい。その他、多様な手段が使われている。
- その他の盲ろう者では音声による発信が 91%と最も多く、その他の点字系、手話系のコミュニケーション手段の利用者が他よりも少ないのが特徴である。

b 現在、あなたが話を聞くときの方法はなんですか。(複数回答可)

- 1 指点字 (パーキンス型)
- 2 指点字 (ライトブレーラー型)
- 3 指文字 (日本語 50 音式) に触れる
- 4 指文字 (日本語 50 音式) を見る
- 5 指文字 (ローマ字式) に触れる
- 6 指文字 (ローマ字式) を見る
- 7 手話に触れる
- 8 手話を近くで見る
- 9 手話を遠くで見る
- 10 手書き文字 (自分の掌にひらがなで書いてもらう)
- 11 手書き文字 (自分の掌にカタカナで書いてもらう)
- 12 手書き文字 (自分の掌に漢字かな交じりで書いてもらう)
- 13 音声・口話
- 14 キュードスピーチ
- 15 筆談 (墨字を紙に書いてもらう)
- 16 筆談 (点字を紙に書いて貰う)
- 17 拡大読書機を使用している
- 18 補聴器を使用している
- 19 人工内耳を装着している
- 20 ブリスタを使用している
- 21 その他何かあれば書いてください。

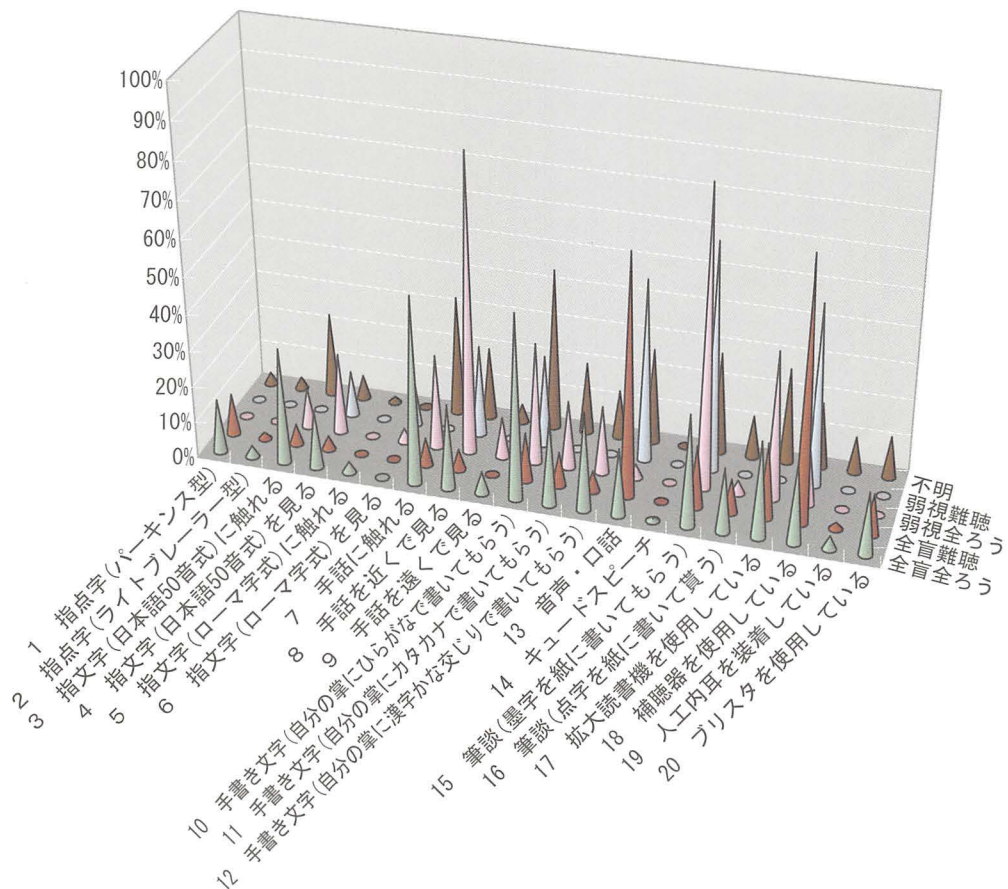
()

第3部 盲ろう者生活実態調査

聞く時の方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	163	53	27	8	61	312
1 指点字(パーキンス型)	24	6			2	32
2 指点字(ライトブレーラー型)	5	1			2	8
3 指文字(日本語 50 音式)に触れる	52	3	3		14	72
4 指文字(日本語 50 音式)を見る	26	2	6	1	4	39
5 指文字(ローマ字式)に触れる	5				1	6
6 指文字(ローマ字式)を見る			1	1		2
7 手話に触れる	84	4	7		20	115
8 手話を近くで見る	38	3	22	2	12	77
9 手話を遠くで見る	10		3		3	16
10 手書き文字 (自分の掌にひらがなで書いてもらう)	83	7	9	2	27	128
11 手書き文字 (自分の掌にカタカナで書いてもらう)	38	5	5		12	60
12 手書き文字 (自分の掌に漢字かな交じりで書いてもらう)	44	3	5		8	60
13 音声・口話	30	35	1	4	16	86
14 キュードスピーチ	1					1
15 筆談(墨字を紙に書いてもらう)	50	9	22	5	17	103
16 筆談(点字を紙に書いて貰う)	29	5	1		7	42
17 拡大読書機を使用している	43	11	11		16	81
18 補聴器を使用している	36	38	4	4	11	93
19 人工内耳を装着している	6	1			6	13
20 ブリスタを使用している	28	6			7	41

第3部 盲ろう者生活実態調査

聞く時の方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 指点字(パーキンス型)	15%	11%	0%	0%	3%	10%
2 指点字(ライトプレーラー型)	3%	2%	0%	0%	3%	3%
3 指文字(日本語 50 音式)に触れる	32%	6%	11%	0%	23%	23%
4 指文字(日本語 50 音式)を見る	16%	4%	22%	13%	7%	13%
5 指文字(ローマ字式)に触れる	3%	0%	0%	0%	2%	2%
6 指文字(ローマ字式)を見る	0%	0%	4%	13%	0%	1%
7 手話に触れる	52%	8%	26%	0%	33%	37%
8 手話を近くで見る	23%	6%	81%	25%	20%	25%
9 手話を遠くで見る	6%	0%	11%	0%	5%	5%
10 手書き文字 (自分の掌にひらがなで書いてもらう)	51%	13%	33%	25%	44%	41%
11 手書き文字 (自分の掌にカタカナで書いてもらう)	23%	9%	19%	0%	20%	19%
12 手書き文字 (自分の掌に漢字かな交じりで書いてもらう)	27%	6%	19%	0%	13%	19%
13 音声・口話	18%	66%	4%	50%	26%	28%
14 キュードスピーチ	1%	0%	0%	0%	0%	0%
15 筆談(墨字を紙に書いてもらう)	31%	17%	81%	63%	28%	33%
16 筆談(点字を紙に書いて貰う)	18%	9%	4%	0%	11%	13%
17 拡大読書機を使用している	26%	21%	41%	0%	26%	26%
18 補聴器を使用している	22%	72%	15%	50%	18%	30%
19 人工内耳を装着している	4%	2%	0%	0%	10%	4%
20 ブリスタを使用している	17%	11%	0%	0%	11%	13%

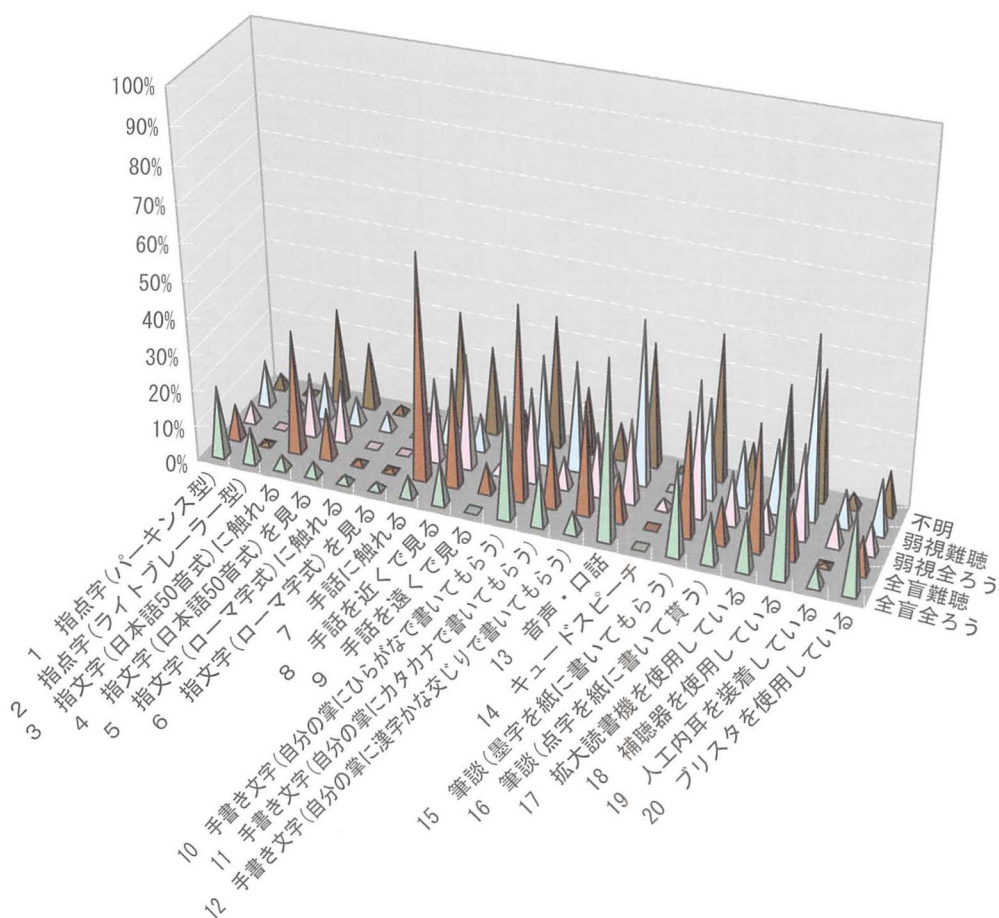


第3部 盲ろう者生活実態調査

聞く時の方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	51	136	35	40	50	312
1 指点字(パーキンス型)	10	13	2	5	2	32
2 指点字(ライトブレーラー型)	5	1		2		8
3 指文字(日本語 50 音式)に触れる	2	46	6	5	13	72
4 指文字(日本語 50 音式)を見る	2	19	6	3	9	39
5 指文字(ローマ字式)に触れる	1	2		2	1	6
6 指文字(ローマ字式)を見る	1	1				2
7 手話に触れる	3	84	8	4	16	115
8 手話を近くで見る	6	44	11	4	12	77
9 手話を遠くで見る		11	1		4	16
10 手書き文字 (自分の掌にひらがなで書いてもらう)	17	72	9	12	18	128
11 手書き文字 (自分の掌にカタカナで書いてもらう)	8	28	3	12	9	60
12 手書き文字 (自分の掌に漢字かな交じりで書いてもらう)	3	42	6	4	5	60
13 音声・口話	25	18	8	18	17	86
14 キュードスピーチ			1			1
15 筆談(墨字を紙に書いてもらう)	13	46	13	11	20	103
16 筆談(点字を紙に書いて貰う)	7	17	5	7	6	42
17 拡大読書機を使用している	8	47	3	8	15	81
18 補聴器を使用している	24	22	9	20	18	93
19 人工内耳を装着している	3	1	3	4	2	13
20 ブリスタを使用している	12	14	3	6	6	41

聞く時の方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 指点字(パーキンス型)	20%	10%	6%	13%	4%	10%
2 指点字(ライトブレーラー型)	10%	1%	0%	5%	0%	3%
3 指文字(日本語 50 音式)に触れる	4%	34%	17%	13%	26%	23%
4 指文字(日本語 50 音式)を見る	4%	14%	17%	8%	18%	13%
5 指文字(ローマ字式)に触れる	2%	1%	0%	5%	2%	2%
6 指文字(ローマ字式)を見る	2%	1%	0%	0%	0%	1%
7 手話に触れる	6%	62%	23%	10%	32%	37%
8 手話を近くで見る	12%	32%	31%	10%	24%	25%
9 手話を遠くで見る	0%	8%	3%	0%	8%	5%
10 手書き文字 (自分の掌にひらがなで書いてもらう)	33%	53%	26%	30%	36%	41%
11 手書き文字 (自分の掌にカタカナで書いてもらう)	16%	21%	9%	30%	18%	19%
12 手書き文字 (自分の掌に漢字かな交じりで書いてもらう)	6%	31%	17%	10%	10%	19%
13 音声・口話	49%	13%	23%	45%	34%	28%
14 キュードスピーチ	0%	0%	3%	0%	0%	0%
15 筆談(墨字を紙に書いてもらう)	25%	34%	37%	28%	40%	33%
16 筆談(点字を紙に書いて貰う)	14%	13%	14%	18%	12%	13%
17 拡大読書機を使用している	16%	35%	9%	20%	30%	26%
18 補聴器を使用している	47%	16%	26%	50%	36%	30%
19 人工内耳を装着している	6%	1%	9%	10%	4%	4%
20 ブリスタを使用している	24%	10%	9%	15%	12%	13%

その他として「パソコン」、「サイン」、「握り点字」、「オブジェクトキュー」、
「点字とひらがなを対応させた文字盤」、等の記述が見られた。



コメント

- 全盲全ろうでは触読手話が 52%、近くで見る手話が 23%、遠くで見る手話が 6%と手話の利用者が多い。手書き文字の利用者も同程度かそれ以上に見られる。指字系利用者は 18%である。
- 全盲難聴では補聴器の利用者が 72%と高く、音声・口話を受信手段とする者が 66%と最も多い。手話系は少ない。
- 弱視全ろうでは近くで見る手話が 81%のように弱視手話の利用者が多い。他にも墨字の筆談 81%や拡大読書機の使用率が高い。
- 弱視難聴では点字系や手話系の利用者は少なく、音声・口話や墨字の筆談が多い。
- 盲ベースでは音声・口話が 49%と最も多い。補聴器利用者も 47%と多い。他のタイプに比べブリスタや指字などの点字系の受信者が多い。
- ろうベースでは手話や指文字が多く、音声・口話は他のタイプより少ない。補聴器の利用者も少ない。
- 先天性では受信手段が多様で特徴的に多い者は見あたらない。点字系は他のタイプよりも目立って少ない。
- その他の盲ろう者では点字系や手話系での受信は少なく、音声・口話、手書き文字の受信が多い。補聴器の使用も多い。

c 現在、あなたが文字を読み書きするときの方法は何ですか。
(複数回答可)

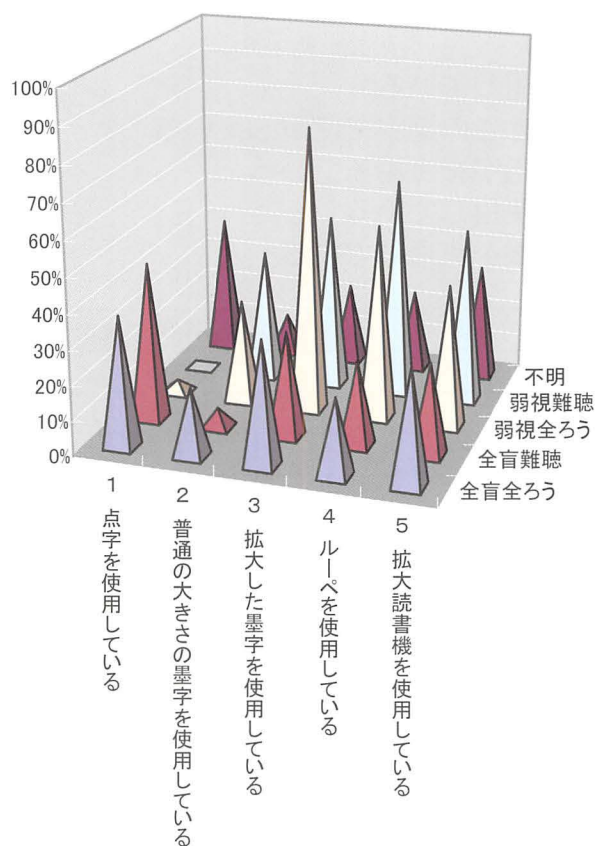
- 1 点字を使用している
- 2 普通の大きさの墨字を使用している
- 3 拡大した墨字を使用している
- 4 ルーペを使用している
- 5 拡大読書機を使用している

文字の読み書きの方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	163	53	27	8	61	312
1 点字を使用している	61	24	1		24	110
2 普通の大きさの墨字を使用している	32	3	8	3	7	53
3 拡大した墨字を使用している	58	16	22	4	14	114
4 ルーペを使用している	36	13	15	5	14	83
5 拡大読書機を使用している	54	14	11	4	20	103

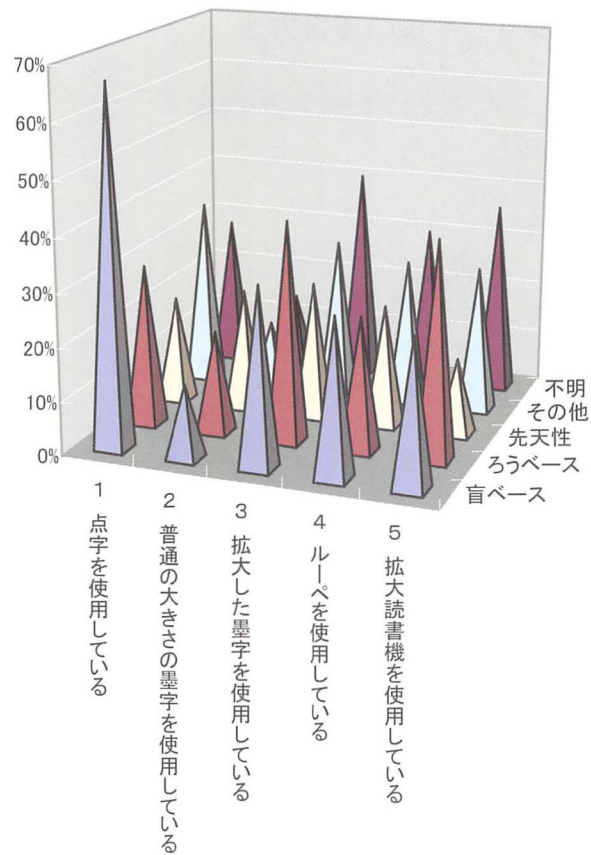
文字の読み書きの方法	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 点字を使用している	37%	45%	4%	0%	39%	35%
2 普通の大きさの墨字を使用している	20%	6%	30%	38%	11%	17%
3 拡大した墨字を使用している	36%	30%	81%	50%	23%	37%
4 ルーペを使用している	22%	25%	56%	63%	23%	27%
5 拡大読書機を使用している	33%	26%	41%	50%	33%	33%

文字の読み書きの方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	51	136	35	40	50	312
1 点字を使用している	34	41	7	14	14	110
2 普通の大きさの墨字を使用している	7	26	8	5	7	53
3 拡大した墨字を使用している	17	56	9	12	20	114
4 ルーペを使用している	15	34	8	11	15	83
5 拡大読書機を使用している	14	55	5	11	18	103

第3部 盲ろう者生活実態調査



文字の読み書きの方法	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 点字を使用している	67%	30%	20%	35%	28%	35%
2 普通の大きさの墨字を使用している	14%	19%	23%	13%	14%	17%
3 拡大した墨字を使用している	33%	41%	26%	30%	40%	37%
4 ルーペを使用している	29%	25%	23%	28%	30%	27%
5 拡大読書機を使用している	27%	40%	14%	28%	36%	33%



コメント

- 盲ろう4分類で見ると、全盲全ろうと全盲難聴は似通ってみえる。同様に弱視全ろうと弱視難聴は似通って見える。したがって、全盲か弱視かで結果が別れているような印象がある。全盲群では点字を使用している割合が高く、弱視群では拡大文字やルーペ、拡大読書機など墨字の利用率が高い。
- 盲ベースでは点字を使用している率が高い。
- ろうベースでは拡大文字や拡大読書機の利用率が高い。

(16) コミュニケーション手段の獲得方法

問 16 あなたはコミュニケーション手段をどうやって獲得しましたか。

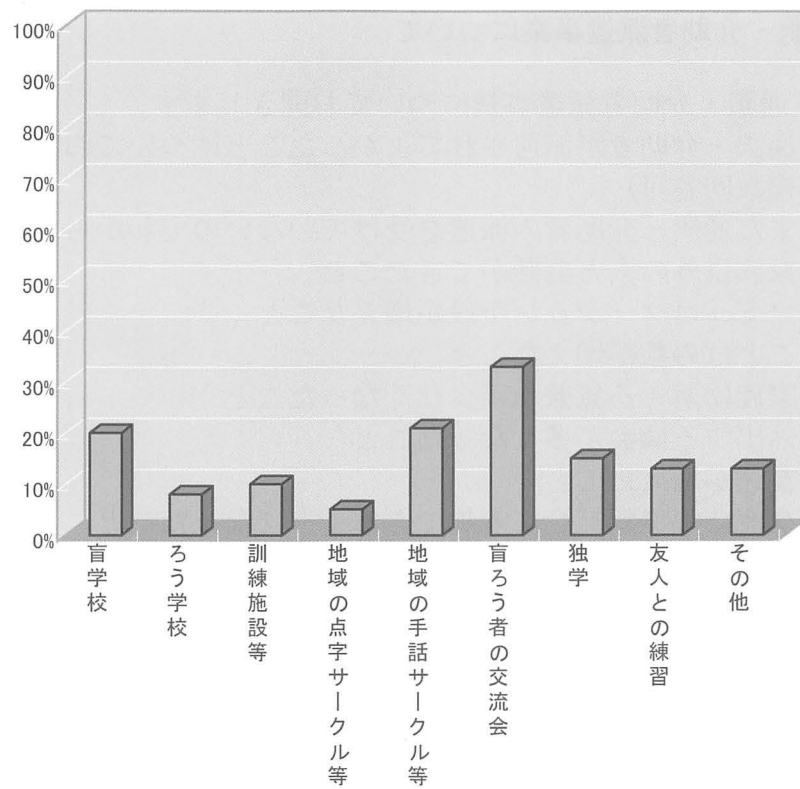
(複数回答可)

- 1 盲学校で学習した
- 2 ろう学校で学習した
- 3 訓練施設等で学習した
- 4 地域の点字サークル等で学習した
- 5 地域の手話サークル等で学習した
- 6 盲ろう者の交流会に出て学習した
- 7 独学で覚えた
- 8 友人と練習した
- 9 その他

()

選択項目	件数	割合
盲学校	63	20%
ろう学校	24	8%
訓練施設等	32	10%
地域の点字サークル等	17	5%
地域の手話サークル等	65	21%
盲ろう者の交流会	104	33%
独学	47	15%
友人との練習	40	13%
その他	41	13%

その他として「ヘルパーと練習」、「家の人たちと」、「母と練習」、「先輩との交流」、「市役所職員などのかかわりの中で」、「普通学校」、「弱視学級」、「地域のろうあ者から」、「通訳・介助者に」、「養護学校また作業所の友達」、「職場で」、「会社の仲間や友達から」、「教会」、「大学生ボランティアの方々」等の記述が見られた。



コメント

- コミュニケーション手段の獲得に関して盲学校(20%)、聾学校(8%)の果たした役割はそれほど高くなく、盲ろう者の交流会(33%)がコミュニケーション獲得の重要な場となっていることが分かる。

(17) 通訳・介助者派遣事業について

問 17 通訳・介助者派遣事業についてお聞きします。

a 通訳・介助者が派遣されてよかったことについてお聞きします。

(複数回答可)

- 1 まだ通訳・介助者の派遣を受けていないのでわからない
- 2 家族以外の人と会話ができたこと
- 3 コミュニケーション手段が増えたこと
- 4 ことばの数が増えたこと
- 5 家族に対する気兼ねが少なくなったこと
- 6 外出する機会が多くなったこと
- 7 友達が増えたこと
- 8 交流会等集団社会に参加できるようになったこと
- 9 自分と同じ障害を持つ人に会って会話ができたこと
- 10 情報が多くなったこと
- 11 その他何かあれば書いてください

()

選択項目	件数	割合
1 派遣を受けていないのでわからない	40	13%
2 家族以外の人と会話ができた	166	53%
3 コミュニケーション手段が増えた	136	44%
4 ことばの数が増えたこと	86	28%
5 家族に対する気兼ねが少なくなったこと	76	24%
6 外出する機会が多くなった	191	61%
7 友達が増えた	150	48%
8 交流会等集団社会に参加できるようになった	192	62%
9 自分と同じ障害を持つ人に会って会話ができた	183	59%
10 情報が多くなった	178	57%
11 その他	30	10%

その他として

「OA研修の際サポートが受けられてとても助かった。」

「パソコンサポートが受けられるようになったこと。」

「博物館など社会見学が出来るようになったこと。」

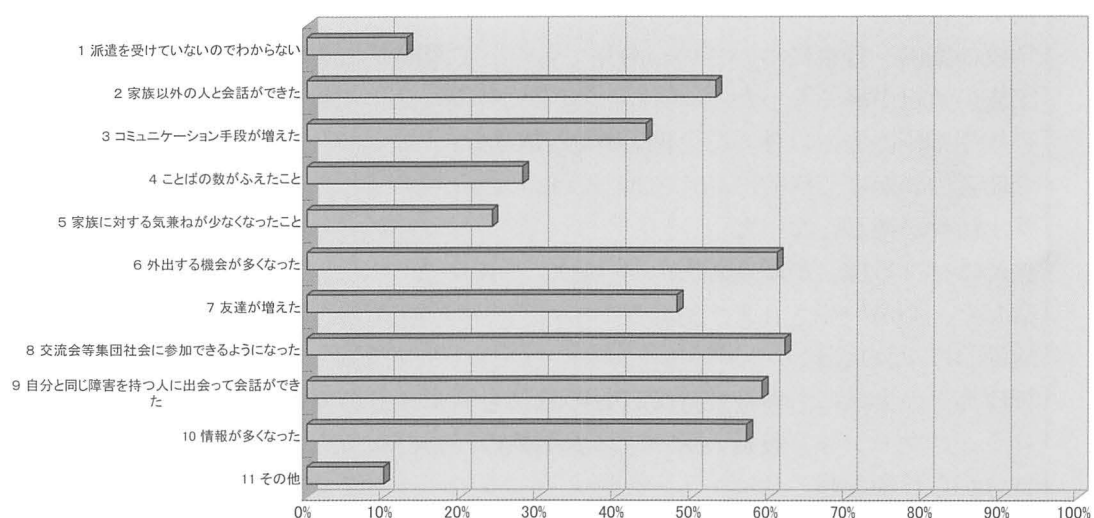
「買い物で生活に必要なもの、好みに合ったものが買えるようになったこと。書簡や書類、書籍や資料などの代読、書簡や書類などの代筆を安心して頼めるようになったこと。」

「ブレイルメモ等の勉強の場、チャンスが出来た。」

「会って話すことに開放感を覚える。」

「何でも相談ができるようになった。」
「学校の案内、行事についていつも見てもらって説明してもらえて良い。」
「家族の負担が軽くなった。」
「家族や学校の先生以外の方と関わりがもてた。」
「介助者のおかげで病院に通える事がうれしい。」
「外出活動が楽しくなった。」
「旅行に行ける機会が増えた。」
「楽しく、心がいやされます。」
「活動的になれた。」
「行政等との会議にも参加できて自分の意見を話すことができた。」
「コミュニケーション獲得のチャンス。勉強の機会となっています。」
「自分から行動を起こせば・・・と思えるようになったこと。」
「自分自身の視野が広がっていった。」
「活発に外出するようになった。」
「社会に対して（行政）自分の意見を言えるようになった。」
「会議、講習会では非常に役立つ。」
「趣味の勉強ができた。」
「心の中に目、耳がめばえ世の中が広がった。」
「自分でやりたい事がふえた。」
「刺激が多く考える力が増した。」
「自分の考え思いを筆記してもらって記録する事ができるようになった。」
「晴眼者の信頼する人を知ることが出来た。」
「生活の中での知識を色々教わる事ができた。」
「突然の葬式にいけたこと。」
「病院の診察を安心して受けられる。」
「スポーツ等にも参加できるようになった。」
「友達が出来た。」
と言った記述が見られた。

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 通訳・介助者のサービスを受けてよかったこととして、交流会など社会参加できるようになったこと、外出の機会が多くなったこと、自分と同じ障害を持つ人との交流ができたこと、情報が多くなったこと、家族以外の人と会話ができたこと、友達が増えたことなどをあげている人が多い。このようなことから、通訳・介助者が盲ろう者の社会参加について大きな役割を果たしているということが分かる。

- b 通訳・介助者の派遣を受けて感じたことをお聞きします。
 1 を選んだ方以外の方は、次の中から、最も強く感じたことを
 3つ選んでください。
- 1 まだ通訳・介助者の派遣を受けていないのでわからない
 - 2 もっと地域に通訳・介助者を増やしてほしい
 - 3 早く市町村の「盲ろう者向け通訳・介助者派遣制度」にしてほしい
 - 4 通訳・介助者の訪問をもっと多く公費負担でみてほしい
 - 5 ホームヘルパーに盲ろう者向け通訳・介助の技術を身につけてほしい
 - 6 ガイドヘルパーに盲ろう者向け通訳・介助の技術を身につけてほしい
 - 7 身体障害者福祉センターに盲ろう者向け通訳・介助者を配置して
ほしい
 - 8 市役所や役場に盲ろう者向け通訳・介助者を配置してほしい
 - 9 病院に盲ろう者向け通訳・介助者を手配してほしい
 - 10 盲ろう者協会は、家族も通訳・介助者として認めてほしい
 - 11 その他何かあれば書いてください
- ()

選択項目	件数	割合
1 まだ派遣を受けていないのでわからない	28	9%
2 もっと地域に通訳・介助者を増やしてほしい	170	54%
3 早く市町村の「盲ろう者向け通訳・介助者派遣制度」にしてほしい	91	29%
4 通訳・介助者の訪問をもっと多く公費負担でみてほしい	116	37%
5 ホームヘルパーに盲ろう者向け通訳・介助の技術を身につけてほしい	88	28%
6 ガイドヘルパーに盲ろう者向け通訳・介助の技術を身につけてほしい	105	34%
7 身体障害者福祉センターに盲ろう者向け通訳・介助の技術を身につけてほしい	73	23%
8 市役所や役場に盲ろう者向け通訳・介助者を配置してほしい	95	30%
9 病院に盲ろう者向け通訳・介助者を手配してほしい	100	32%
10 盲ろう者協会は、家族も通訳・介助者として認めてほしい	97	31%
11 その他	12	4%

その他として

「通訳・介助者の資質の向上に力を入れて欲しい。」

「通訳・介助者に関する情報を家族や本人に教えて欲しい。」

「もっと身近に介助者がいてくれるとありがたい」

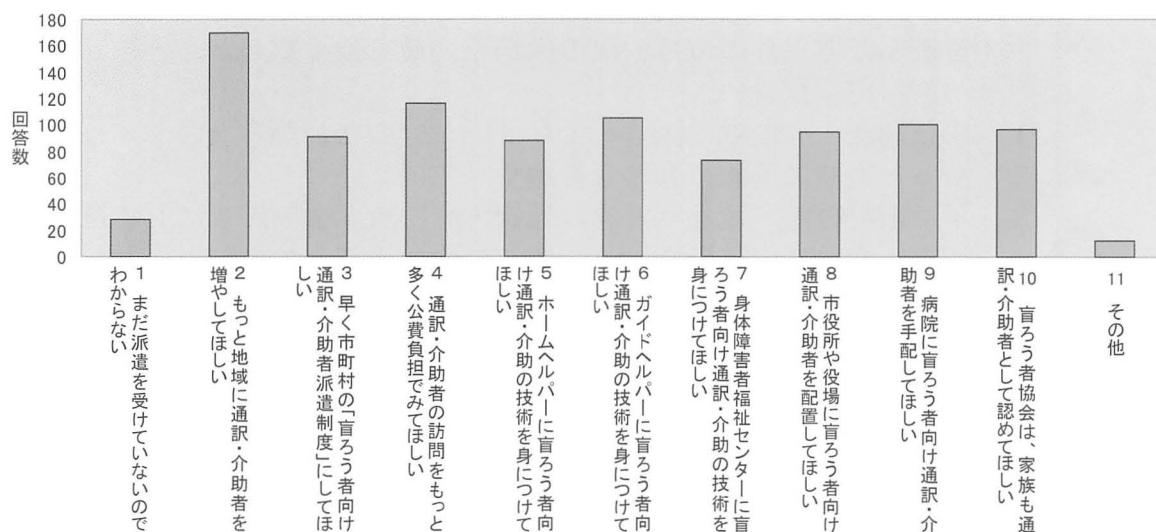
「仕事に対する通訳・介助も認めるべきである。」

「通学通勤に通訳派遣を認めてほしい」

「友の会の通訳・介助者が派遣事務を担当するのはトラブルの原因になって好ましくない」

等の記述が見られた。

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 通訳・介助者の数を増やして欲しいという希望が特に多い。
- その他、制度の充実や配置についての要望が多く見られる。
- 家族を通訳・介助者として認めて欲しいという要望が3割以上ある。

(18) 食事

問 18 あなたは、毎日、食事をどうしていますか。

最も多いものを二つ選んでください。

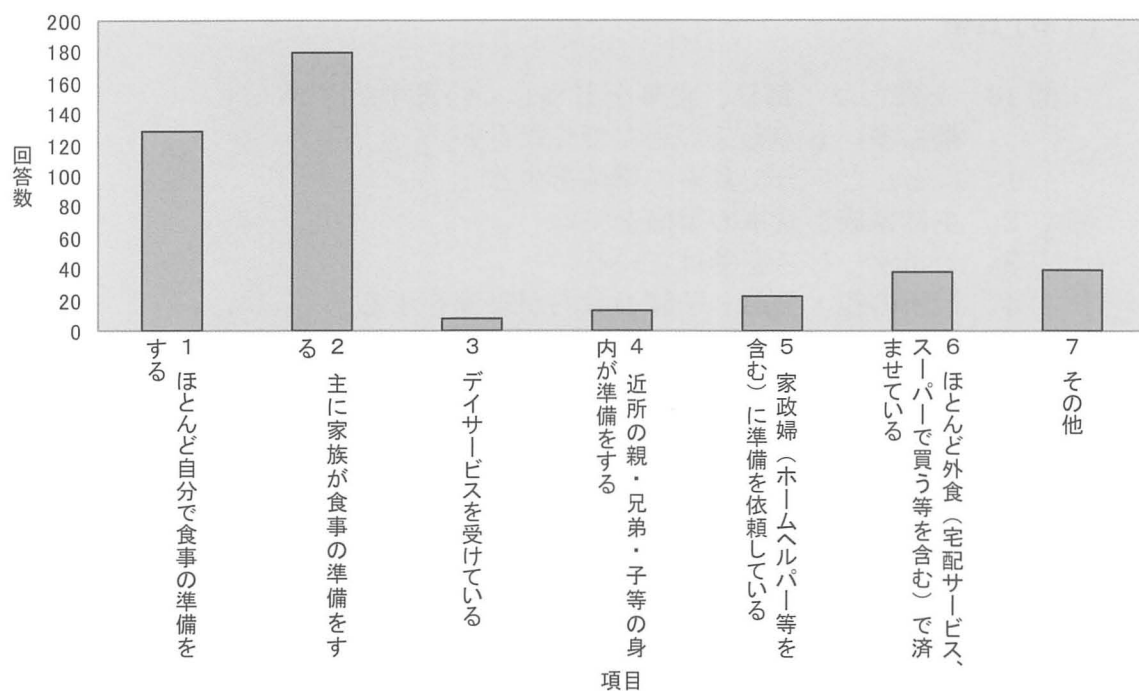
- 1 ほとんど自分で食事の準備をする
- 2 主に家族が食事の準備をする
- 3 デイサービスを受けている
- 4 近所の親・兄弟・子等の身内が準備をする
- 5 家政婦（ホームヘルパー等を含む）等に準備を依頼している
- 6 ほとんど外食（宅配サービス、スーパーで買う等を含む）で済ませている
- 7 その他何かあれば書いてください

()

選択項目	件数	割合
1 ほとんど自分で食事の準備をする	128	41%
2 主に家族が食事の準備をする	179	57%
3 デイサービスを受けている	8	3%
4 近所の親・兄弟・子等の身内が準備をする	13	4%
5 家政婦(ホームヘルパー等を含む)に準備を依頼している	22	7%
6 ほとんど外食(宅配サービス、スーパーで買う等を含む)で済ませている	38	12%
7 その他	39	13%

その他、「グループホームの職員」、「学校給食」、「施設で準備」等の記述が見られた。

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 食事の用意については自分自身で行っているか、家族が行っていると答えたものが多数であった。
- デイサービスやホームヘルプサービスに頼っているケースはそれぞれ3%、7%と少なかった。

(19) 白杖の使用

問 19 あなたはふだん外出の時に白杖を使用していますか。
 どれか一つを選んでください。

- 1 使用している
- 2 時々使用している
- 3 使用していない

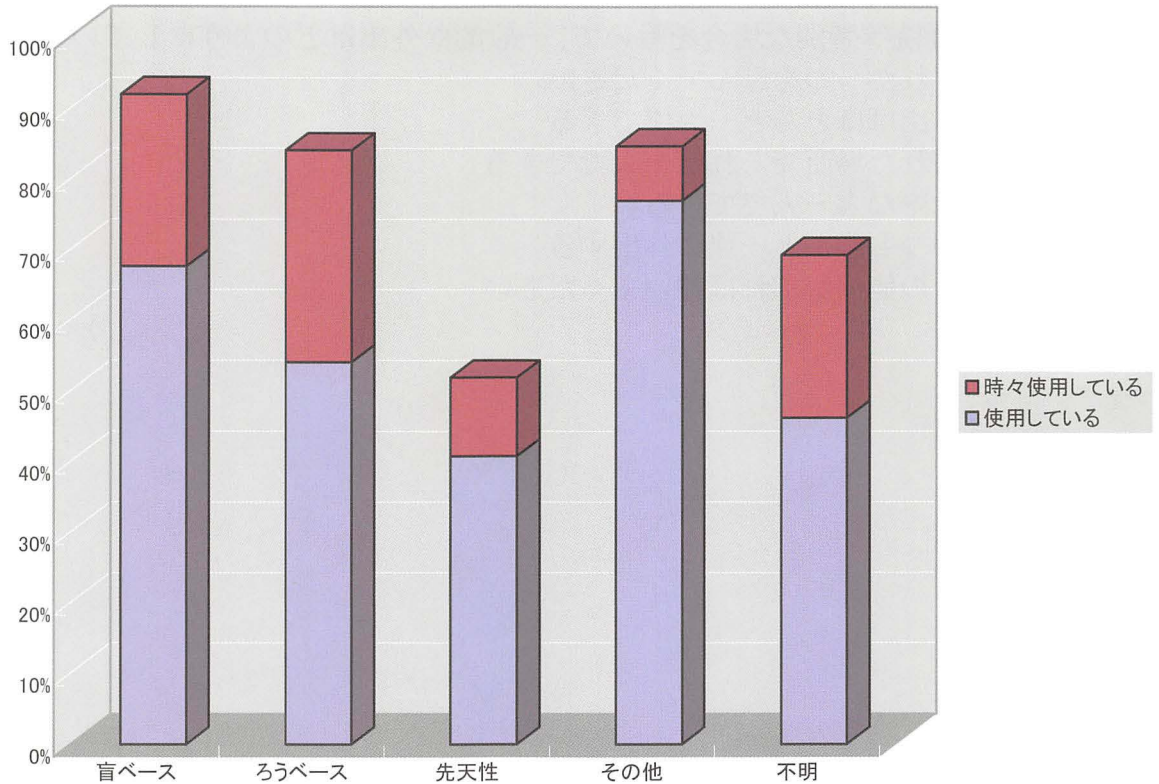
ベース	盲ろう4種別	使用している	時々使用している	使用していない	未回答	総計
盲ベース	全盲全ろう	16	3	1		20
	全盲難聴	9	6	2		17
	弱視全ろう					
	弱視難聴	1		4		5
	不明	4		5		9
	合計	30	9	12		51
ろうベース	全盲全ろう	48	28	16		92
	全盲難聴	6	2			8
	弱視全ろう	2	3	12		17
	弱視難聴	1		1		2
	不明	6	4	5	2	17
	合計	63	37	34	2	136
先天性	全盲全ろう	9	3	7		19
	全盲難聴	2		5	1	8
	弱視全ろう		1	2	1	4
	弱視難聴					
	不明			4		4
	合計	11	4	18	2	35
その他	全盲全ろう	10	1	2		13
	全盲難聴	10	1	2		13
	弱視全ろう	1		3		4
	弱視難聴					
	不明	5	1	4		10
	合計	26	3	11		40
不明	全盲全ろう	8	4	6	1	19
	全盲難聴	4	2	1		7
	弱視全ろう			2		2
	弱視難聴			1		1
	不明	10	4	6	1	21
	合計	22	10	16	2	50
総計		152	63	91	6	312

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	盲ろう4種別	使用している	時々使用している	使用していない	未回答	総計
盲ベース	全盲全ろう	80%	15%	5%	0%	100%
	全盲難聴	53%	35%	12%	0%	100%
	弱視全ろう					
	弱視難聴	20%	0%	80%	0%	100%
	不明	44%	0%	56%	0%	100%
	合計	59%	18%	24%	0%	100%
ろうベース	全盲全ろう	52%	30%	17%	0%	100%
	全盲難聴	75%	25%	0%	0%	100%
	弱視全ろう	12%	18%	71%	0%	100%
	弱視難聴	50%	0%	50%	0%	100%
	不明	35%	24%	29%	12%	100%
	合計	46%	27%	25%	1%	100%
先天性	全盲全ろう	47%	16%	37%	0%	100%
	全盲難聴	25%	0%	63%	13%	100%
	弱視全ろう	0%	25%	50%	25%	100%
	弱視難聴					
	不明	0%	0%	100%	0%	100%
	合計	31%	11%	51%	6%	100%
その他	全盲全ろう	77%	8%	15%	0%	100%
	全盲難聴	77%	8%	15%	0%	100%
	弱視全ろう	25%	0%	75%	0%	100%
	弱視難聴					
	不明	50%	10%	40%	0%	100%
	合計	65%	8%	28%	0%	100%
不明	全盲全ろう	42%	21%	32%	5%	100%
	全盲難聴	57%	29%	14%	0%	100%
	弱視全ろう	0%	0%	100%	0%	100%
	弱視難聴	0%	0%	100%	0%	100%
	不明	48%	19%	29%	5%	100%
	合計	44%	20%	32%	4%	100%
総計		49%	20%	29%	2%	100%

上記のデータより、白杖の使用が必要と思われる「全盲全聾」と「全盲難聴」だけのデータを抜き出して集計すると以下のようになる。

	使用している	時々使用している	使用していない	未回答
盲ベース	68%	24%	8%	0%
ろうベース	54%	30%	16%	0%
先天性	41%	11%	44%	4%
その他	77%	8%	15%	0%
不明	46%	23%	27%	4%



コメント

- 白杖の使用が必要と思われる「全盲全ろう」「全盲難聴」において、白杖を使用していると答えた割合を見ると、ろうベースの盲ろう者は盲ベースの盲ろう者に比べ値が低い。ろうベースの盲ろう者の白杖に対する抵抗感を表しているように見える。
- 先天性の盲ろう者ではさらに白杖を使用している割合が低い。
- その他の盲ろう者は白杖を常用している割合が最も高い。

(20) 外出

問 20 通院等特別な場合を除いて、一般的な外出はどのようにしていますか。
どれか一つを選んでください。

- 1 外出はほとんど一人でできる
- 2 慣れた場所であれば一人でできる
- 3 日中なら一人でできる
- 4 いつも誰かと一緒に外出する
- 5 その他何かあれば書いてください

()

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	盲ろう4種別	外出はほとんど一人でできる	慣れた場所であれば一人でできる	日中なら一人でできる	いつも誰かと一緒に外出する	その他	未回答	総計
盲ベース	全盲全ろう	2	2		15		1	20
	全盲難聴		8		9			17
	弱視全ろう							0
	弱視難聴	1	3		1			5
	不明	1	2		5	1		9
	合計	4	15		30	1	1	51
ろうベース	全盲全ろう	6	24	7	50	3	2	92
	全盲難聴		3		5			8
	弱視全ろう	3	9	1	3	1		17
	弱視難聴		1		1			2
	不明		5		11	1		17
	合計	9	42	8	70	5	2	136
先天性	全盲全ろう	1	3	1	12	1	1	19
	全盲難聴	1	1		5		1	8
	弱視全ろう	2	1		1			4
	弱視難聴							0
	不明	1	2		1			4
	合計	5	7	1	19	1	2	35
その他	全盲全ろう	2	4		7			13
	全盲難聴		3	1	9			13
	弱視全ろう		3	1				4
	弱視難聴							0
	不明	1	1		8			10
	合計	3	11	2	24			40
不明	全盲全ろう	1	8	1	8		1	19
	全盲難聴		2		4		1	7
	弱視全ろう	1	1					2
	弱視難聴	1						1
	不明	1	4	1	13		2	21
	合計	4	15	2	25		4	50
総計		25	90	13	168	7	9	312

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	盲ろう4種別	外出はほとんど一人でできる	慣れた場所であれば一人でできる	日中なら一人でできる	いつも誰かと一緒に外出する	その他	未回答	総計
盲ベース	全盲全ろう	10%	10%	0%	75%	0%	5%	100%
	全盲難聴	0%	47%	0%	53%	0%	0%	100%
	弱視全ろう							
	弱視難聴	20%	60%	0%	20%	0%	0%	100%
	不明	11%	22%	0%	56%	11%	0%	100%
	合計	8%	29%	0%	59%	2%	2%	100%
ろうベース	全盲全ろう	7%	26%	8%	54%	3%	2%	100%
	全盲難聴	0%	38%	0%	63%	0%	0%	100%
	弱視全ろう	18%	53%	6%	18%	6%	0%	100%
	弱視難聴	0%	50%	0%	50%	0%	0%	100%
	不明	0%	29%	0%	65%	6%	0%	100%
	合計	7%	31%	6%	51%	4%	1%	100%
先天性	全盲全ろう	5%	16%	5%	63%	5%	5%	100%
	全盲難聴	13%	13%	0%	63%	0%	13%	100%
	弱視全ろう	50%	25%	0%	25%	0%	0%	100%
	弱視難聴							
	不明	25%	50%	0%	25%	0%	0%	100%
	合計	14%	20%	3%	54%	3%	6%	100%
その他	全盲全ろう	15%	31%	0%	54%	0%	0%	100%
	全盲難聴	0%	23%	8%	69%	0%	0%	100%
	弱視全ろう	0%	75%	25%	0%	0%	0%	100%
	弱視難聴							
	不明	10%	10%	0%	80%	0%	0%	100%
	合計	8%	28%	5%	60%	0%	0%	100%
不明	全盲全ろう	5%	42%	5%	42%	0%	5%	100%
	全盲難聴	0%	29%	0%	57%	0%	14%	100%
	弱視全ろう	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
	弱視難聴	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	不明	5%	19%	5%	62%	0%	10%	100%
	合計	8%	30%	4%	50%	0%	8%	100%
総計		8%	29%	4%	54%	2%	3%	100%

その他

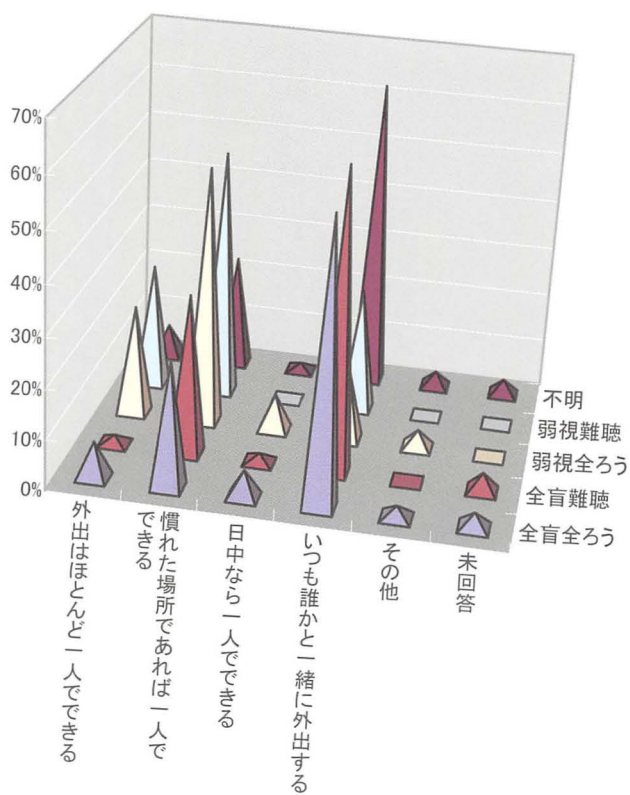
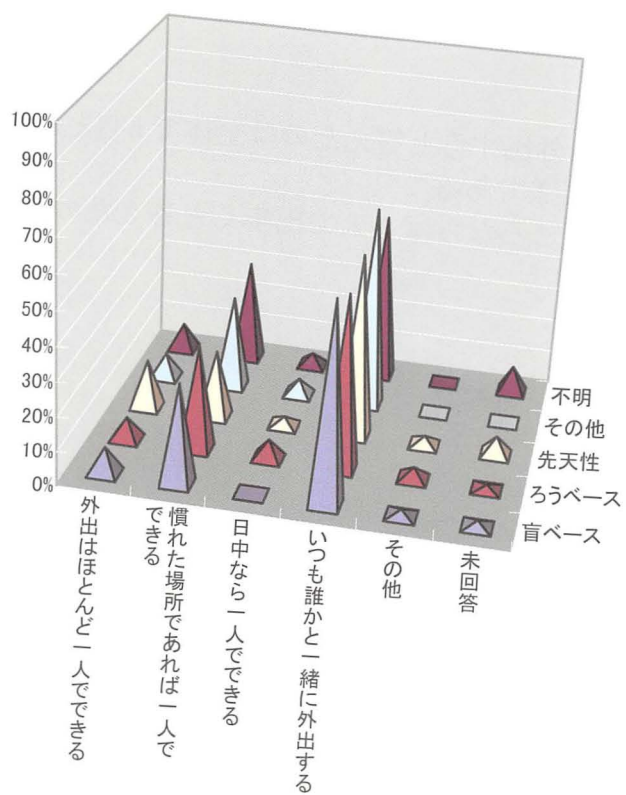
「遠い所や、暗いところ、電車にのったりするところは介助者が必要。」

「家から駅までは一人でできる。その後は4です。」

「介護タクシーを利用しています。」

「外出のときに何人もの手引き者（交通機関・デパートの店員さん等サービスのある機関）を利用する場合があります。」

等の記述が見られた。



コメント

- いつも誰かと外出すると答えたのは全体で54%と最も多く、盲ろうの4分類で見ても同様である。
- なれているところならば1人で出歩くと答えたのは29%と比較的高率に見られる。

- a 4の「いつも誰かと一緒に外出する」と答えた方にお聞きします。
 どれか一つを選んでください。
- 1 通訳・介助者が一番安心して外出できる
 - 2 ガイドヘルパーが一番安心して外出できる
 - 3 家族が一番安心して外出できる
 - 4 その他何かあれば書いてください
- ()

	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
通訳・介助者が一番安心して外出できる	16	45	1	12	13	87
ガイドヘルパーが一番安心して外出できる	2	5	3	2	1	13
家族が一番安心して外出できる	11	24	13	8	10	66
その他	2	2	2	1	2	9
合計	31	76	19	23	26	175

	盲ベース	ろうベース	先天性	その他	不明	合計
通訳・介助者が一番安心して外出できる	52%	59%	5%	52%	50%	50%
ガイドヘルパーが一番安心して外出できる	6%	7%	16%	9%	4%	7%
家族が一番安心して外出できる	35%	32%	68%	35%	38%	38%
その他	6%	3%	11%	4%	8%	5%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

その他

「やむなく家族と一緒にである。地域に盲ろうの通訳・介助者がいない。」

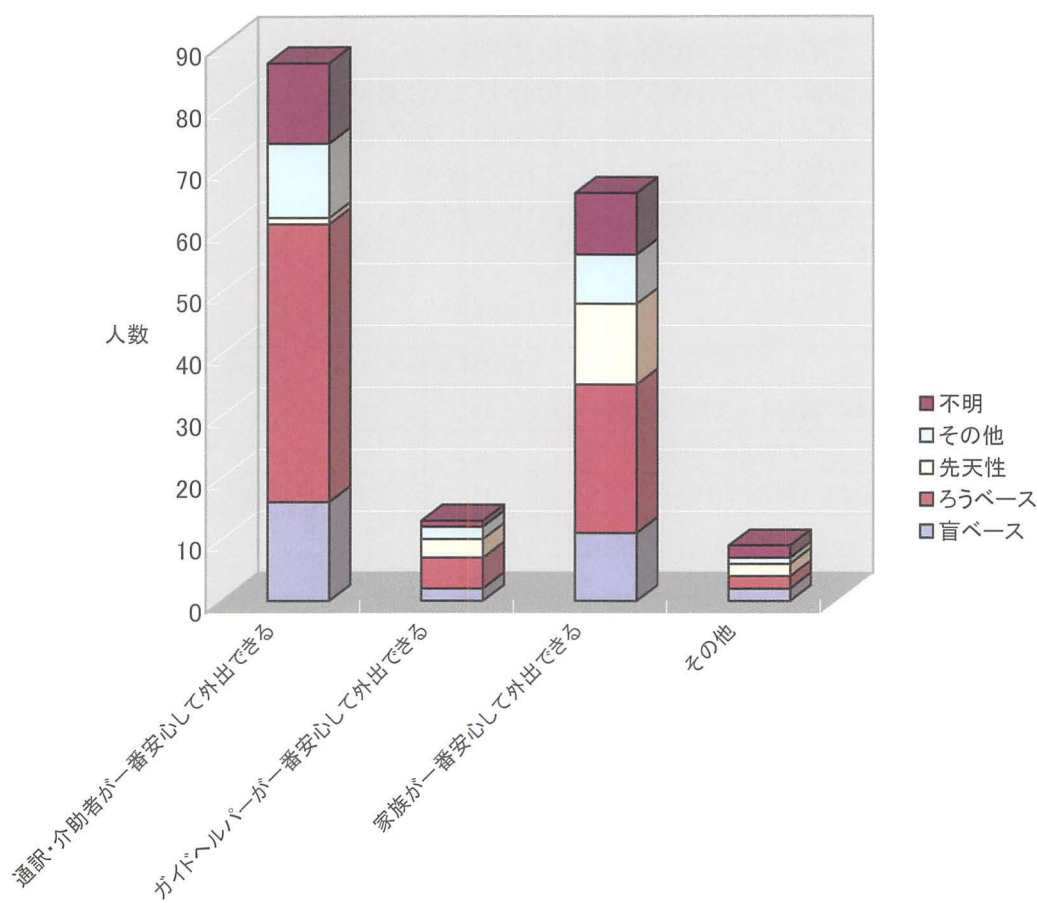
「家では家族、日本ライトハウスでは指導員、ボランティア」

「簡単な用事の際は家族でよいが、新聞を読んで貰うときや何か説明が必要なときは通
 介者（通訳・介助者）がよい。」

「施設職員」

「要約筆記者を利用している（ノートテイク）」

等の記述が見られた。



コメント

- 全体で見ると 50%の盲ろう者が通訳・介助者との外出が一番安心できると答えていることから、通訳・介助者の果たしている役割は大きい。
- それに対し先天性の盲ろう者だけのデータを見ると 68%が家族との外出が一番安心であると答えている。

(21) 電話とファックスの利用

問 21 電話とファックスの利用についてお聞きします。(複数回答可)

- 1 携帯電話を音声で使っている
- 2 携帯電話をメールで使っている
- 3 家庭電話を一人で操作して使っている
- 4 ファックスを一人で操作して使っている
- 5 ファックスを人に操作して貰って使っている
- 6 留守番電話を使っている
- 7 通訳者がいる時間帯のみ電話連絡をとっている
- 8 福祉事務所を通じて電話連絡をとっている
- 9 電話は使っていない
- 10 ファックスは使っていない
- 11 その他何かあれば書いてください

()

	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	163	53	27	8	61	312
1 携帯電話を音声で使っている	5	22	1	3	9	40
2 携帯電話をメールで使っている	45	15	13	4	15	92
3 家庭電話を一人で操作して使っている	31	37	1	2	14	85
4 ファックスを一人で操作して使っている	82	7	24	6	26	145
5 ファックスを人に操作して貰って使っている	41	10			20	71
6 留守番電話を使っている	6	9	1		3	19
7 通訳者がいる時間帯のみ電話連絡をとっている	21	3		1	5	30
8 福祉事務所を通じて電話連絡をとっている	3		1	1	3	8
9 電話は使っていない	29	6	8	2	18	63
10 ファックスは使っていない	17	18	2	1	8	46
11 その他	14	3	1	1	5	24

第3部 盲ろう者生活実態調査

	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 携帯電話を音声で使っている	3%	42%	4%	38%	15%	13%
2 携帯電話をメールで使っている	28%	28%	48%	50%	25%	29%
3 家庭電話を一人で操作して使っている	19%	70%	4%	25%	23%	27%
4 ファックスを一人で操作して使っている	50%	13%	89%	75%	43%	46%
5 ファックスを人に操作して貰って使っている	25%	19%	0%	0%	33%	23%
6 留守番電話を使っている	4%	17%	4%	0%	5%	6%
7 通訳者がいる時間帯のみ電話連絡をとっている	13%	6%	0%	13%	8%	10%
8 福祉事務所を通じて電話連絡をとっている	2%	0%	4%	13%	5%	3%
9 電話は使っていない	18%	11%	30%	25%	30%	20%
10 ファックスは使っていない	10%	34%	7%	13%	13%	15%
11 その他	9%	6%	4%	13%	8%	8%

その他

「ダイヤルサービスを介して伝言、問い合わせなどしている。」

「メッセージの送受信はパソコンとピンディスプレイでしている。」

「ファックスを読むのや原稿を書くのは他人に頼む。携帯や家庭電話も聞き取れないときは、他人に代わって貰うことがある。」

「家族がファックスを書いて出したり電話の通訳をしています。」

「家族が全て代行」

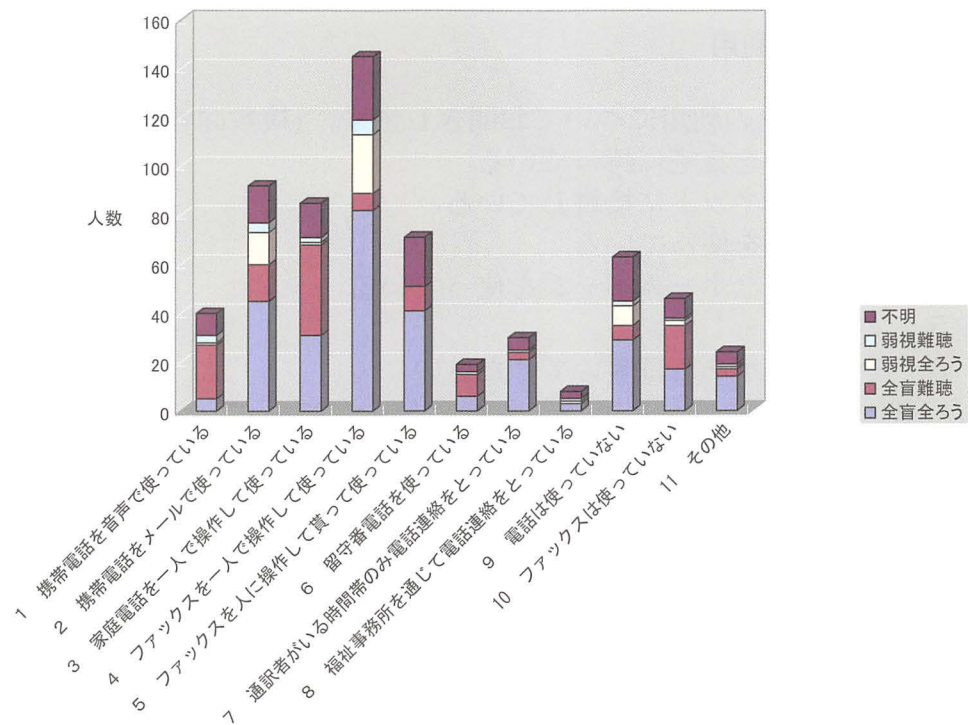
「施設にいるので職員を通じて電話連絡を取っている。」

「通信はすべて妻まかせ」

「電話、FAXは家族がダイヤルして、自分で話します。」

「留守番電話 聞き取れない時は介助者に依頼している。」

等の記述が見られた。



コメント

- 全体で見るとファックスを使用している盲ろう者が最も多い。とりわけ弱視全聾の89%と弱視難聴の75%は高い利用率である。
- 携帯電話を音声で使う手段は難聴の盲ろう者で重要な通信手段となっている。
- 携帯電話をメールで使う手段は弱視の盲ろう者で多く使われているほか、全盲の盲ろう者でも28%の者が活用している。
- 全盲難聴では家庭電話を1人で使用する率が70%と高い。
- 一方、通訳者がいる時だけ電話を使うと答えた盲ろう者が10%であることから、盲ろう者の電話やファックスの利用に通訳・介助者が役割を果たしていることが分かる。
- 一方、電話を使っていないと答えた者が20%、ファックスを使っていないと答えた者が15%であり、盲ろう者自身の社会参加への取り組み方や通訳介助体制の充実に課題を投げかけるものであろう。

第3部 盲ろう者生活実態調査

(22) パソコンの利用

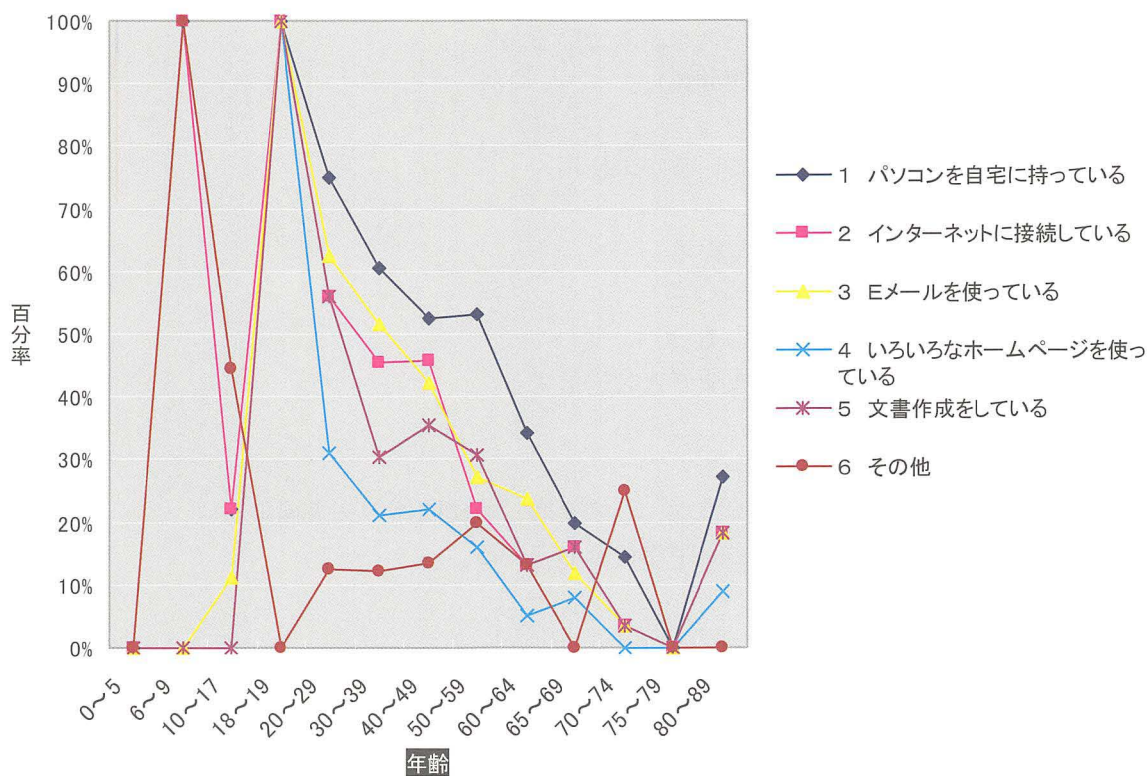
問22 パソコンの利用についてお聞きします。(複数回答可)

- 1 パソコンを自宅に持っている
- 2 インターネットに接続している
- 3 Eメールを使っている
- 4 いろいろなホームページを使っている
- 5 文書作成をしている
- 6 その他何かあれば書いてください

()

	0～5	6～9	10～17	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～89	90～	合計
全数	1	1	9	1	16	33	59	81	38	25	28	9	11		312
1 パソコンを自宅に持っている		1	2	1	12	20	31	43	13	5	4		3		135
2 インターネットに接続している		1	2	1	9	15	27	18	5	4	1		2		85
3 Eメールを使っている			1	1	10	17	25	22	9	3	1		2		91
4 いろいろなホームページを使っている				1	5	7	13	13	2	2			1		44
5 文書作成をしている				1	9	10	21	25	5	4	1		2		78
6 その他		1	4		2	4	8	16	5		7				47

	0～5	6～9	10～17	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～89	90～	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		100%
1 パソコンを自宅に持っている	0%	100%	22%	100%	75%	61%	53%	53%	34%	20%	14%	0%	27%		43%
2 インターネットに接続している	0%	100%	22%	100%	56%	45%	46%	22%	13%	16%	4%	0%	18%		27%
3 Eメールを使っている	0%	0%	11%	100%	63%	52%	42%	27%	24%	12%	4%	0%	18%		29%
4 いろいろなホームページを使っている	0%	0%	0%	100%	31%	21%	22%	16%	5%	8%	0%	0%	9%		14%
5 文書作成をしている	0%	0%	0%	100%	56%	30%	36%	31%	13%	16%	4%	0%	18%		25%
6 その他	0%	100%	44%	0%	13%	12%	14%	20%	13%	0%	25%	0%	0%		15%



	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	163	53	27	8	61	312
1 パソコンを自宅に持っている	75	24	8	3	25	135
2 インターネットに接続している	44	17	8	3	13	85
3 Eメールを使っている	48	17	7	3	16	91
4 いろいろなホームページを使っている	21	8	5	1	9	44
5 文書作成をしている	38	16	6	3	15	78
6 その他	25	8	2	3	9	47

	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
全数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
1 パソコンを自宅に持っている	46%	45%	30%	38%	41%	43%
2 インターネットに接続している	27%	32%	30%	38%	21%	27%
3 Eメールを使っている	29%	32%	26%	38%	26%	29%
4 いろいろなホームページを使っている	13%	15%	19%	13%	15%	14%
5 文書作成をしている	23%	30%	22%	38%	25%	25%
6 その他	15%	15%	7%	38%	15%	15%

その他

第3部 盲ろう者生活実態調査

「かんたんな日記のようなもの。」

「ニュースソフトでニュースを読んでいる。」

「点字辞書で調べる（国語辞典）。」

「パソコンを持っていない。」

「パソコンを自宅に持っているが未使用。」

「パソコンを知らない。」

「パソコン通訳時に使っている。」

「プログラム作成。」

「ホームページを作っている。」

「ワープロ打ちしてそのままFAX送信する。」

「会計処理。」

「学習中です。」

「辞書引き、データの保管整理、点字変換、所属団体の文書編集。」

「点字ソフトをつかって、点字学習をしている。」

「利用方法を知らない。」

等の記述が見られた。

コメント

- パソコンやインターネットの利用については、大雑把に見ると、20歳前後にピークがあり、高齢者層になればなるほど数値が低くなっている。
- 50歳未満では40～49歳で46%がインターネットに接続し、42%がEメールを利用していることから、利用率はそれほど悪くないように思える。
- 50歳以上では急激にこれらの数値が低くなっている。
- 盲ろう4種別で見るとパソコンの所有率や利用状況にそれほど大きな差が見られないように思える。

(23) パソコン利用時のユーザーインターフェース

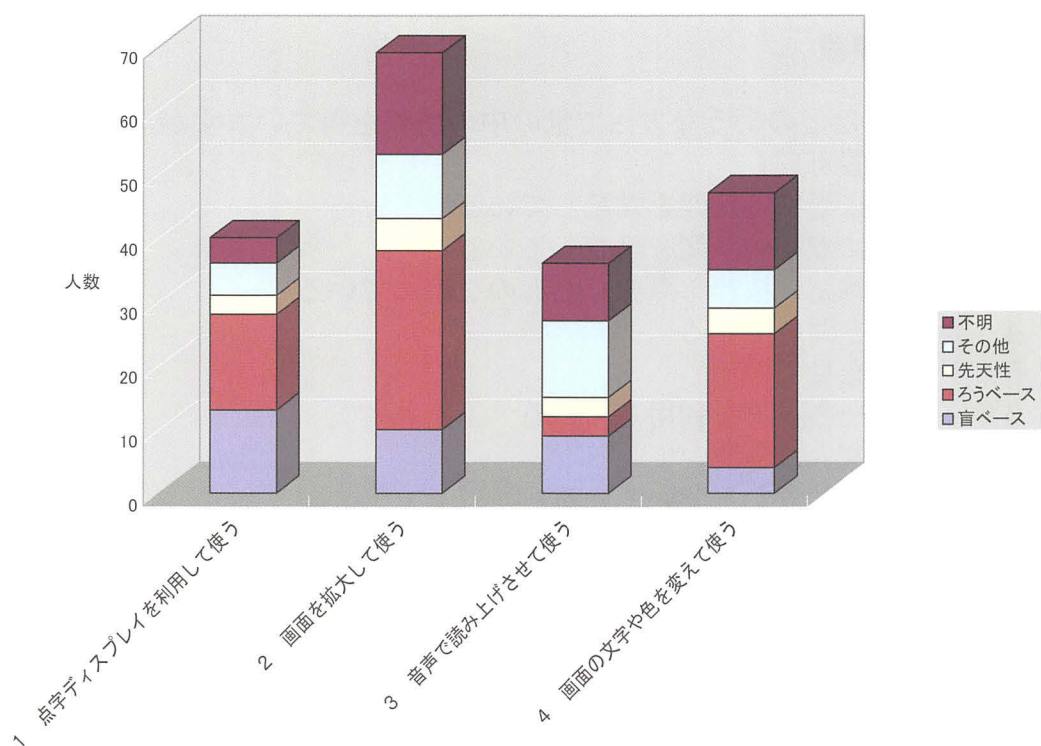
問 23 あなたはパソコンを使用するとき、どのような方法で使用していますか。(複数回答可)

- 1 点字ディスプレイを利用して使う
- 2 画面を拡大して使う
- 3 音声で読み上げさせて使う
- 4 画面の文字や色を変えて使う

ベース	盲ろう4種別	1 点字ディスプレイを利用して使う	2 画面を拡大して使う	3 音声で読み上げさせて使う	4 画面の文字や色を変えて使う	全数
盲ベース	全盲全ろう	7	2	1	2	20
	全盲難聴	3	4	4	1	17
	弱視全ろう					
	弱視難聴		2		1	5
	不明	3	2	4		9
	合計	13	10	9	4	51
ろうベース	全盲全ろう	13	21	1	14	92
	全盲難聴		2	1	2	8
	弱視全ろう		4		5	17
	弱視難聴			1		2
	不明	2	1			17
	合計	15	28	3	21	136
先天性	全盲全ろう	3	3	1	3	19
	全盲難聴		2	2	1	8
	弱視全ろう					4
	弱視難聴					
	不明					4
	合計	3	5	3	4	35
その他	全盲全ろう	3	4	6	3	13
	全盲難聴		3	4	2	13
	弱視全ろう		2			4
	弱視難聴					
	不明	2	1	2	1	10
	合計	5	10	12	6	40
不明	全盲全ろう	1	7	1	5	19
	全盲難聴	1	2	5	2	7
	弱視全ろう		1		1	2
	弱視難聴		1			1
	不明	2	5	3	4	21
	合計	4	16	9	12	50
総計		40	69	36	47	312

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	盲ろう4種別	1 点字ディスプレイを利用して使う	2 画面を拡大して使う	3 音声で読み上げさせて使う	4 画面の文字や色を変えて使う	全数
盲ベース	全盲全ろう	35%	10%	5%	10%	100%
	全盲難聴	18%	24%	24%	6%	100%
	弱視全ろう					
	弱視難聴	0%	40%	0%	20%	100%
	不明	33%	22%	44%	0%	100%
	合計	25%	20%	18%	8%	100%
ろうベース	全盲全ろう	14%	23%	1%	15%	100%
	全盲難聴	0%	25%	13%	25%	100%
	弱視全ろう	0%	24%	0%	29%	100%
	弱視難聴	0%	0%	50%	0%	100%
	不明	12%	6%	0%	0%	100%
	合計	11%	21%	2%	15%	100%
先天性	全盲全ろう	16%	16%	5%	16%	100%
	全盲難聴	0%	25%	25%	13%	100%
	弱視全ろう	0%	0%	0%	0%	100%
	弱視難聴					
	不明	0%	0%	0%	0%	100%
	合計	9%	14%	9%	11%	100%
その他	全盲全ろう	23%	31%	46%	23%	100%
	全盲難聴	0%	23%	31%	15%	100%
	弱視全ろう	0%	50%	0%	0%	100%
	弱視難聴					
	不明	20%	10%	20%	10%	100%
	合計	13%	25%	30%	15%	100%
不明	全盲全ろう	5%	37%	5%	26%	100%
	全盲難聴	14%	29%	71%	29%	100%
	弱視全ろう	0%	50%	0%	50%	100%
	弱視難聴	0%	100%	0%	0%	100%
	不明	10%	24%	14%	19%	100%
	合計	8%	32%	18%	24%	100%
総計		13%	22%	12%	15%	100%



コメント

- パソコンを使用する際、全体的には画面を拡大して使用する者が 22%、画面の配色を変えて使うものが 15%、点字ディスプレイで使用する者が 13%、スクリーンリーダーで使用する者が 12%であった。
- 点字ディスプレイを使うのは盲ベースの盲ろう者が他のタイプに比べて高い数値を示した。
- スクリーンリーダーの使用はその他の盲ろう者と盲ベースの盲ろう者で高く、ろうベースと先天性の盲ろう者では低い数値を示している。

(24) 情報収集手段

問 24 あなたはどのような方法で世の中の情報を得ていますか。

(複数回答可)

- 1 定期的に墨字の新聞を購読している
- 2 定期的に点字の新聞を購読している
- 3 新聞や雑誌の抜粋を点訳したものを読んでいる
- 4 ラジオを聞いている
- 5 テレビを見ている
- 6 インターネットを利用している
- 7 家族や友人から聞いている
- 8 通訳・介助者から聞いている
- 9 特に世の中の情報を必要としていない
- 10 その他何かあれば書いてください

()

	件数	百分率
1 定期的に墨字の新聞を購読している	82	26%
2 定期的に点字の新聞を購読している	44	14%
3 新聞や雑誌の抜粋を点訳したものを読んでいる	41	13%
4 ラジオを聞いている	58	19%
5 テレビを見ている	150	48%
6 インターネットを利用している	47	15%
7 家族や友人から聞いている	158	51%
8 通訳・介助者から聞いている	126	40%
9 特に世の中の情報を必要としていない	10	3%
10 その他	13	4%

その他

「アイドラゴンⅡを使用。」

「ニュースなど、携帯で見られる。」

「教会でのメッセージ（説教）や、教会員からもわずかながら得ている。」

「作業所が主な情報獲得手段である。」

「市の広報を見る。」

「施設の中の学習会。」

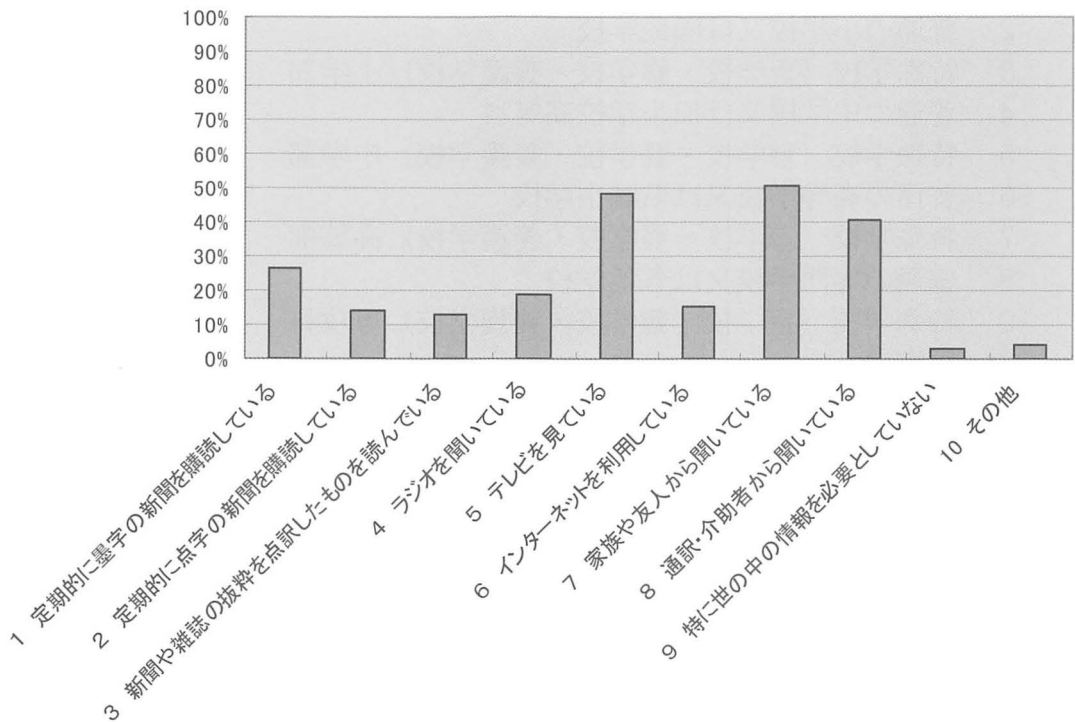
「図書館から書籍を借り出している。」

「地域共同作業所での情報入手が多い。」

「点字図書館より、月一度情報テープが送られて来ます。」

「不定期に墨字の新聞を購読している。」

「文字放送を見る。」
 「盲ろう者友の会、地元の聴障者情報の勉強会。」
 等の記述が見られた。



コメント

- 世の中の情報の受け取り方は家族や友人から聞いていると答えた者が51%と最も多い。
- その他、テレビを見ている48%、通訳・介助者から聞いている40%と続く。
- 全体的に家族や通訳・介助者など、人を介して情報を得ることが多いという印象を受ける。
- 特に世の中の情報を必要としないと答えたのはわずか3%であり、大多数の盲ろう者が何らかの形で世の中の情報を求めていることが分かる。

(25) 最終学歴

問 25 あなたの最終学歴についてお聞きします。

どれか一つを選んでください。

- 1 通学経験なし
- 2 普通の小学校又は国民学校
- 3 特殊学校（盲学校・聾学校・養護学校）小学部
- 4 普通の中学校又は旧小学校高等科
- 5 特殊学校（盲学校・聾学校・養護学校）中学部
- 6 普通の高等学校又は旧制中学校
- 7 特殊学校（盲学校・聾学校・養護学校）高等部
- 8 普通の専門学校又は各種学校
- 9 特殊学校（盲学校・聾学校・養護学校）専攻科
- 10 短期大学
- 11 4年制大学
- 12 大学院
- 13 その他
()
- 14 わからない

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	盲ろう4種別	1 通学経験なし	2 普通の小学校又は国民学校	3 特殊学校(盲学校・聾学校・養護学校)小学部	4 普通の中学校又は旧小学校 高等科	5 特殊学校(盲学校・聾学校・養護学校)中学部	6 普通の高等学校又は旧制 中学校	7 特殊学校(盲学校・聾学校・養護学校)高等部	8 普通の専門学校又は各種 学校	9 特殊学校(盲学校・聾学校・養護学校)専攻科	10 短期大学	11 4年制大学	12 大学院	13 その他	未回答	総計
盲ベース	全盲全ろう		1	1	1			6		10					1	20
	全盲難聴					1	1	7		7				1		17
	弱視全ろう															
	弱視難聴				1	1	1			2						5
	不明				3					2		2		1	1	9
	合計		1	1	5	2	2	13		21		2		2	2	51
ろうベース	全盲全ろう	2		3	2	7	3	42	6	11	4	4		3	5	92
	全盲難聴		1		2			2		1		1		1		8
	弱視全ろう				1	1		10		4		1				17
	弱視難聴				1		1									2
	不明			1	1	4		8		1					2	17
	合計	2	1	4	7	12	4	62	6	17	4	6		4	7	136
先天性	全盲全ろう		1	2				5	2	7					2	19
	全盲難聴				1			2	1		1			2	1	8
	弱視全ろう		2		1			1								4
	弱視難聴															
	不明		1					1		1		1				4
	合計		4	2	2			9	3	8	1	1		2	3	35
その他	全盲全ろう		1		3		2	3	2	1		1				13
	全盲難聴	1	2	1	1		4		2	1					1	13
	弱視全ろう				1		3									4
	弱視難聴															
	不明		1			1	6	1	1							10
	合計	1	4	1	5	1	15	4	5	2		1			1	40
不明	全盲全ろう	1		1	2	3	1	7	1	3						19
	全盲難聴			1	1					2		1		2		7
	弱視全ろう								1	1						2
	弱視難聴									1						1
	不明			1	1	1		13	1	2		1		1		21
	合計	1		3	4	4	1	20	3	9		2		3		50
総計		4	10	11	23	19	22	108	17	57	5	12		11	13	312

第3部 盲ろう者生活実態調査

ベース	1 通学経験なし	2 普通の小学校又は国民学校	3 特殊学校(盲学校・聾学校・ 養護学校)小学部	4 普通の中学校又は旧小学校 高等科	5 特殊学校(盲学校・聾学校・ 養護学校)中学部	6 普通の高等学校又は旧制中 学校	7 特殊学校(盲学校・聾学校・ 養護学校)高等部	8 普通の専門学校又は各種学 校	9 特殊学校(盲学校・聾学校・ 養護学校)専攻科	10 短期大学	11 4年制大学	12 大学院	13 その他	未回答	総計
盲ベース	0%	2%	2%	10%	4%	4%	25%	0%	41%	0%	4%	0%	4%	4%	100%
ろうベース	1%	1%	3%	5%	9%	3%	46%	4%	13%	3%	4%	0%	3%	5%	100%
先天性	0%	11%	6%	6%	0%	0%	26%	9%	23%	3%	3%	0%	6%	9%	100%
その他	3%	10%	3%	13%	3%	38%	10%	13%	5%	0%	3%	0%	0%	3%	100%
不明	2%	0%	6%	8%	8%	2%	40%	6%	18%	0%	4%	0%	6%	0%	100%
合計	1%	3%	4%	7%	6%	7%	35%	5%	18%	2%	4%	0%	4%	4%	100%

その他

「4年生大学を3年で中退」

「国立視力障害センター」

「卒業後に障害者 通信教育で勉強した。」

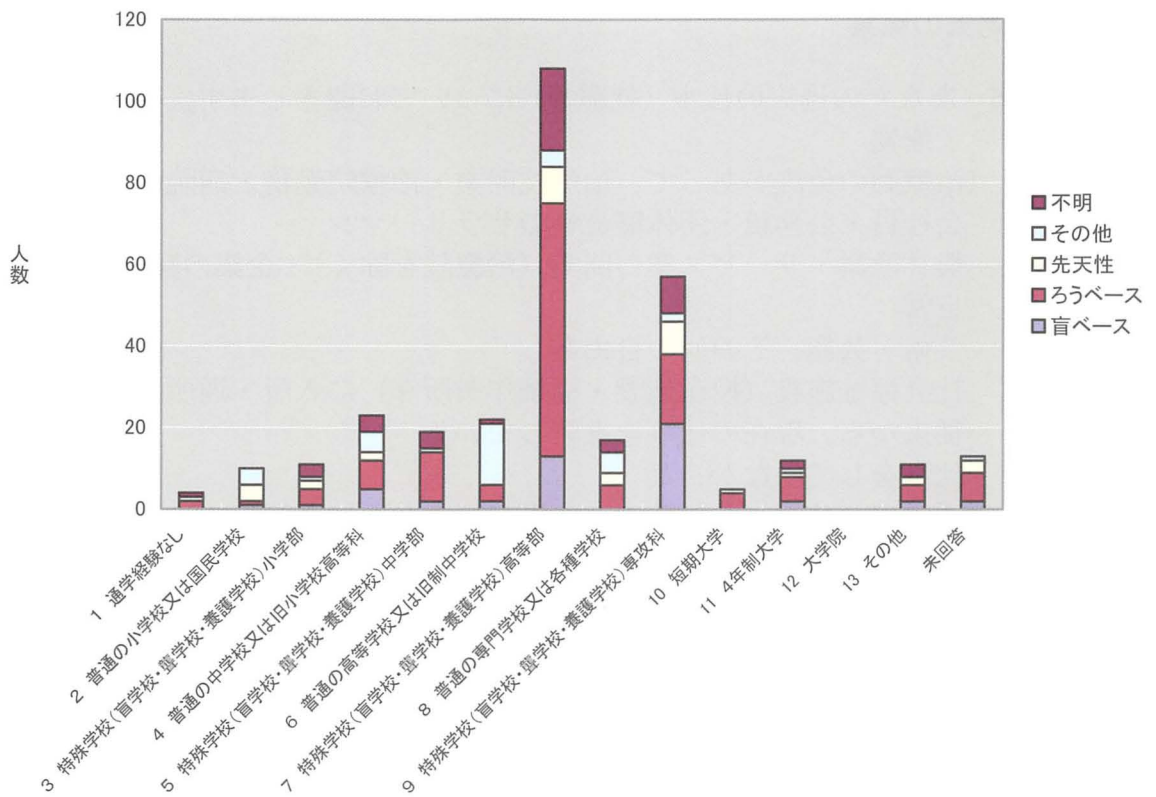
「中卒の後歯科技工学校、通信教育で高卒。」

「電気高等学校中退」

「東京盲学校師範部 針灸科卒業」

「和裁専門学校」

等の記述が見られた。



コメント

- 全体的に盲学校の普通科と専攻科を合わせると 53%と半数以上を占める。ついで多いのが普通中学校 7%、普通高等学校 7%である。
- 普通高校が最終学歴と答えた盲ろう者ではその他の盲ろう者が最も多く 38%、先天性の盲ろう者は 0%である。
- 普通小学校が最終学歴と答えた盲ろう者を見ると、先天性やその他では各々 1 割あるが、盲ベースやろうベースでは 1~2%と低率であることが興味深い
- 大学が最終学歴と答えた者は 3~4%と 4 分類ではあまり差が見られない。

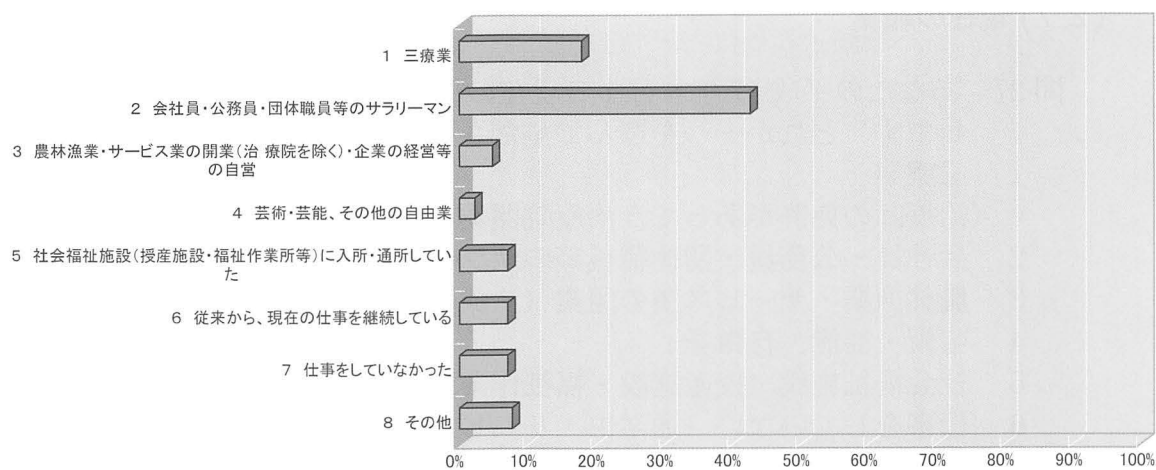
(26) 過去の職業

問 26 あなたの過去の仕事（就職等）についてお聞きします。（複数回答可）

- 1 三療業
(治療師の免許があって、治療院開業・治療院勤務・病院勤務等)
- 2 会社員・公務員・団体職員等のサラリーマン
- 3 農林漁業・サービス業の開業（治療院を除く）・企業の経営等の
 自営
- 4 芸術・芸能、その他の自由業
- 5 社会福祉施設（授産施設・福祉作業所等）に入所・通所していた
- 6 従来から、現在の仕事を継続している
- 7 仕事をしていなかった
(通学中・リハビリ訓練中・仕事ができなかった等)
- 8 その他何かあれば書いてください
()

過去の仕事	人数	百分率
1 三療業	56	18%
2 会社員・公務員・団体職員等のサラリーマン	133	43%
3 農林漁業・サービス業の開業(治療院を除く)・企業の経営等の自営	15	5%
4 芸術・芸能、その他の自由業	7	2%
5 社会福祉施設(授産施設・福祉作業所等)に入所・通所していた	22	7%
6 従来から、現在の仕事を継続している	22	7%
7 仕事をしていなかった	22	7%
8 その他	24	8%

その他、「プレス会社」、「アルバイト」、「あんまマッサージ」、
 「レストランで調理と皿洗い」、「洋裁」、「大工」、「工芸」、「仕立て業」、
 「使ってくれる所で働いた。土方、肉体労働他」、「障害者団体役員、いまでも相談員」、
 「リンナイ（株）でプレスの仕事」、「土木作業員」、「謄写版の事務」、「内職」、
 「美容師」、「普通の工場（電線の会社 ひもを結ぶなど）」、
 「寮母として働いていました」、「和裁」
 等の記述が見られた。



コメント

- 過去の仕事で最も多いのは会社員・公務員・団体職員等のサラリーマンの43%である。
- ついで三療業の18%である。
- 仕事をしていなかったと答えたのはわずか7%である。

(27) 現在の職業

問 27 あなたの平成 17 年 8 月 1 日現在の仕事（就職等）についてお聞きします。どれか一つを選んでください。

- 1 三療業
(治療師の免許があつて、治療院開業・治療院勤務・病院勤務等)
- 2 会社員・公務員・団体職員等のサラリーマン
- 3 農林漁業・サービス業の開業（治療院を除く）・企業の経営等の自営
- 4 芸術・芸能、自由業
- 5 社会福祉施設（授産施設・福祉作業所等）に入所・通所中
- 6 仕事をしていない（通学中・リハビリ訓練中・仕事ができない等）
- 7 その他
()

現在の仕事	人数	百分率
1 三療業	34	11%
2 会社員・公務員・団体職員等のサラリーマン	14	4%
3 農林漁業・サービス業の開業(治療院を除く)・企業の経営等の自営	1	0%
4 芸術・芸能、自由業	1	0%
5 社会福祉施設(授産施設・福祉作業所等)に入所・通所中	33	11%
6 仕事をしていない(通学中・リハビリ訓練中・仕事ができない等)	160	51%
7 その他	32	10%

その他

「家でアルバイト（大工）を少ししている。」

「会社役員。」

「市委託の障害者相談員。」

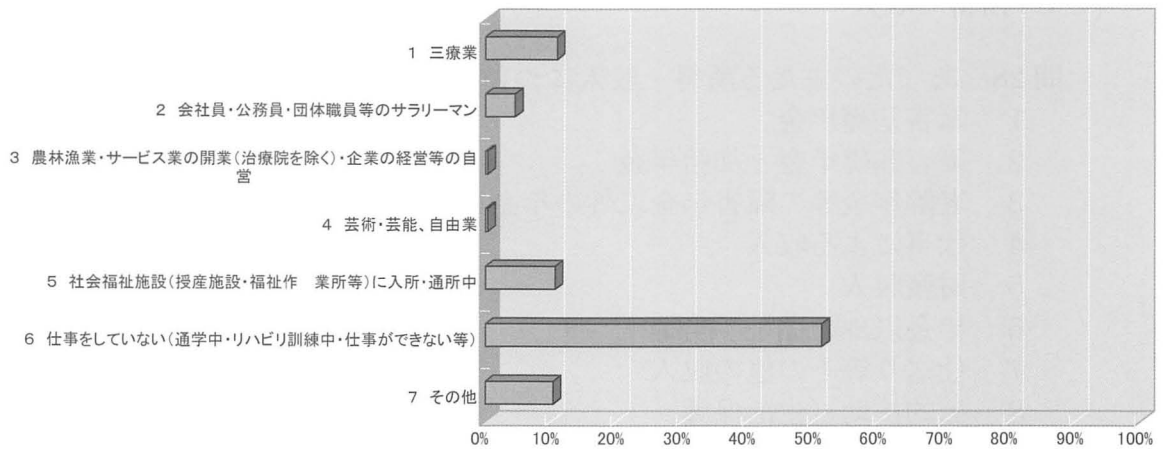
「団体職員のパート。」

「点字図書館で校正のボランティアをしている。」

「非常勤講師。」

「木工（建具工）。」

等の記述が見られた。



コメント

- 全体的に見ると、仕事をしていないと回答したのが 51%で、全問の仕事をしていなかったと回答した 7%から比較すると、激増しており盲ろうという障害が就労に及ぼす影響の大きさを伺わせる。
- 特に会社員等については 43%から 4%と減少が著しい。
- 過去に三療業をしていて 18%、現在している 11%と比較すると明らかに減少している。
- 農林業については 0%となっている。

第3部 盲ろう者生活実態調査

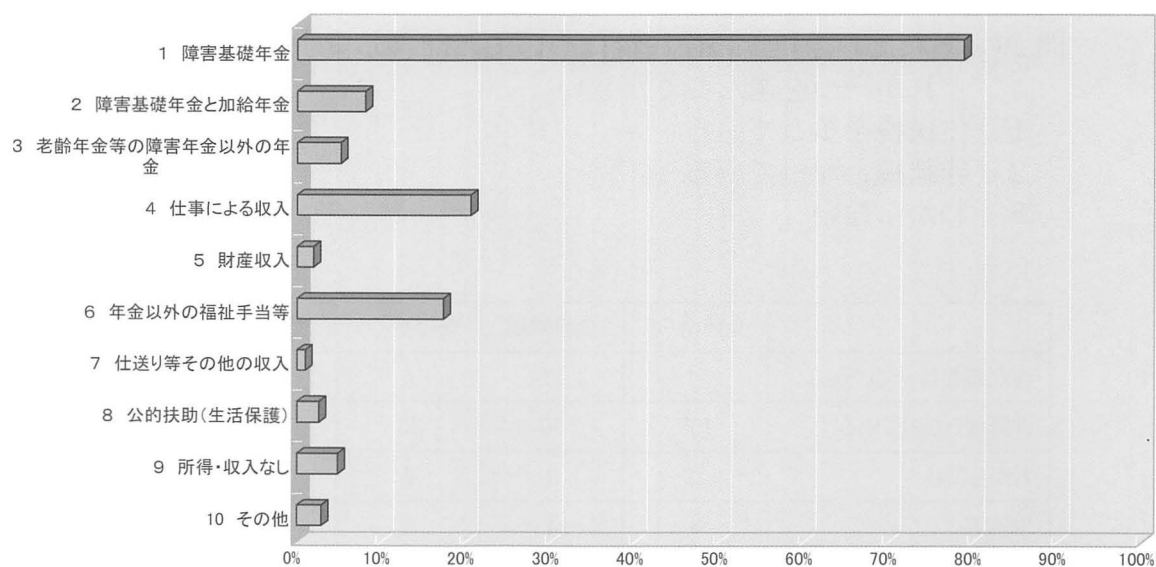
(28) 所得・収入

問 28 あなたの主たる所得・収入についてお聞きします。(複数回答可)

- 1 障害基礎年金
- 2 障害基礎年金と加給年金
- 3 老齢年金等の障害年金以外の年金
- 4 仕事による収入
- 5 財産収入
- 6 年金以外の福祉手当等
- 7 仕送り等その他の収入
- 8 公的扶助(生活保護)
- 9 所得・収入なし
- 10 その他

()

	人数	百分率
1 障害基礎年金	246	79%
2 障害基礎年金と加給年金	25	8%
3 老齢年金等の障害年金以外の年金	16	5%
4 仕事による収入	64	21%
5 財産収入	6	2%
6 年金以外の福祉手当等	54	17%
7 仕送り等その他の収入	3	1%
8 公的扶助(生活保護)	8	3%
9 所得・収入なし	15	5%
10 その他	9	3%



コメント

- 所得として仕事による収入を挙げているのが 21%、財産収入が 2%である。
- その他は社会保障制度による所得に頼っていることが分かる。

第3部 盲ろう者生活実態調査

(29) 住民税

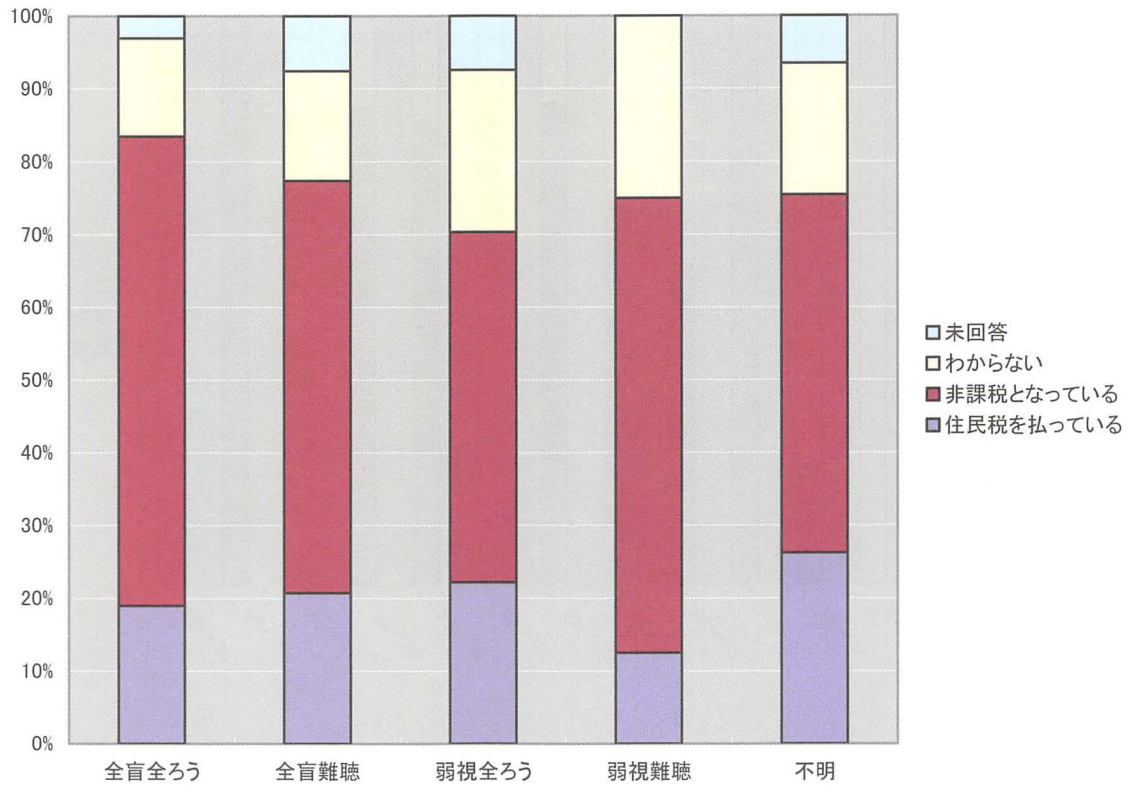
問 29 あなたの今年度の住民税についてお聞きします。
 どれか一つを選んでください。

- 1 住民税を払っている
- 2 非課税となっている
- 3 わからない

	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
住民税を払っている	31	11	6	1	16	23
非課税となっている	105	30	13	5	30	48
わからない	22	8	6	2	11	19
未回答	5	4	2		4	6
合計	163	53	27	8	61	96

	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
住民税を払っている	19%	21%	22%	13%	26%	24%
非課税となっている	64%	57%	48%	63%	49%	50%
わからない	13%	15%	22%	25%	18%	20%
未回答	3%	8%	7%	0%	7%	6%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%

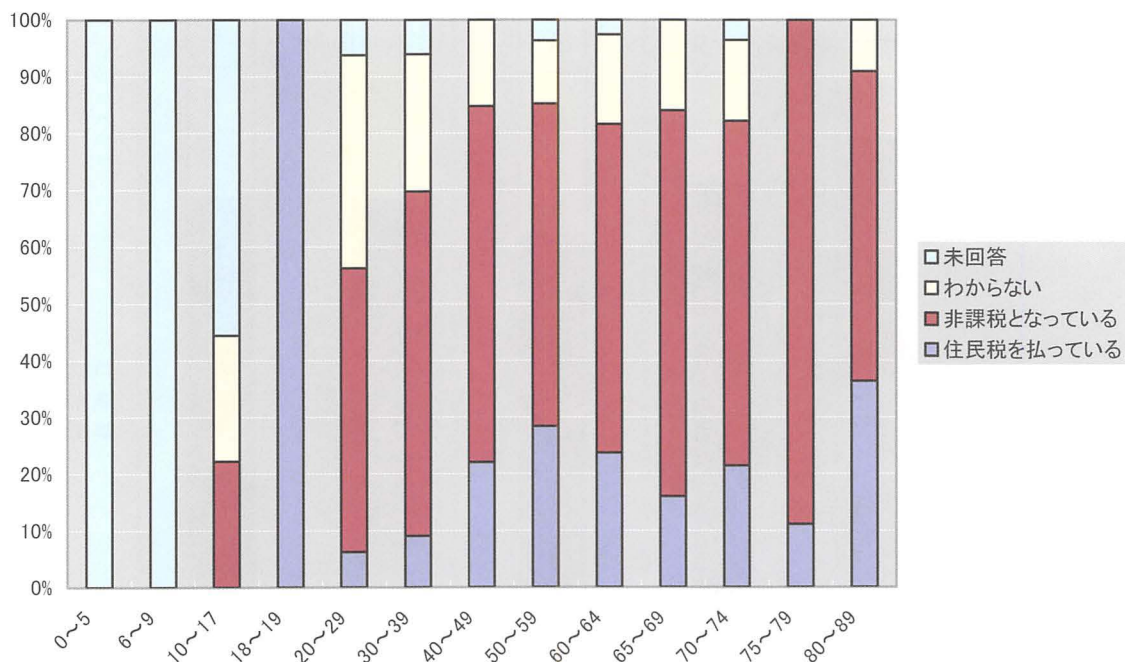
第3部 盲ろう者生活実態調査



	年齢													合計
	0~5	6~9	10~17	18~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~89	
住民税を払っている				1	1	3	13	23	9	4	6	1	4	65
非課税となっている			2		8	20	37	46	22	17	17	8	6	183
わからない			2		6	8	9	9	6	4	4		1	49
未回答	1	1	5		1	2	0	3	1	0	1	0	0	15
合計	1	1	9	1	16	33	59	81	38	25	28	9	11	312

	年齢													合計
	0~5	6~9	10~17	18~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~89	
住民税を払っている	0%	0%	0%	100%	6%	9%	22%	28%	24%	16%	21%	11%	36%	21%
非課税となっている	0%	0%	22%	0%	50%	61%	63%	57%	58%	68%	61%	89%	55%	59%
わからない	0%	0%	22%	0%	38%	24%	15%	11%	16%	16%	14%	0%	9%	16%
未回答	100%	100%	56%	0%	6%	6%	0%	4%	3%	0%	4%	0%	0%	5%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 全体的に見ると、盲ろう4分類では大きな差は見られない。
- 住民税を払っているとした者の割合は全体の24%で問28において仕事をしている、財産収入があるとした者の割合の合計にほぼ一致する。
- 注目すべきは59%が非課税であることと、21%が自己の税金の納入について把握していないためか答えることができないでいるということである。

(30) 生活訓練、職業訓練

問30 これまでに生活訓練や職業訓練を受けたことがありますか。

(複数回答可)

1 受けたことはない

(この番号を○で囲んだ方は、複数回答はしないでください)

2 学校で受けた

3 医療機関で受けた

4 身体障害者リハビリテーション施設等で受けた

5 職業訓練校で受けた

6 講習会に参加して受けた

7 その他何かあれば書いてください。

(

)

	人数	百分率
1 受けたことはない	108	35%
2 学校で受けた	70	22%
3 医療機関で受けた	7	2%
4 身体障害者リハビリテーション施設等で受けた	50	16%
5 職業訓練校で受けた	13	4%
6 講習会に参加して受けた	28	9%
7 その他	22	7%

その他、

「講習会に参加して受けた(県の)。」

「身体障害者団体の訪問指導員に(自宅)家の中で指導を受けた。」

「大阪府派遣事業を利用。」

「点字図書館」

「福井県光道園に入所(25年)していて、ほとんどの訓練は習得しました。」

「福祉センターの歩行訓練士。」

「福祉施設入所中に生活訓練を受けた。」

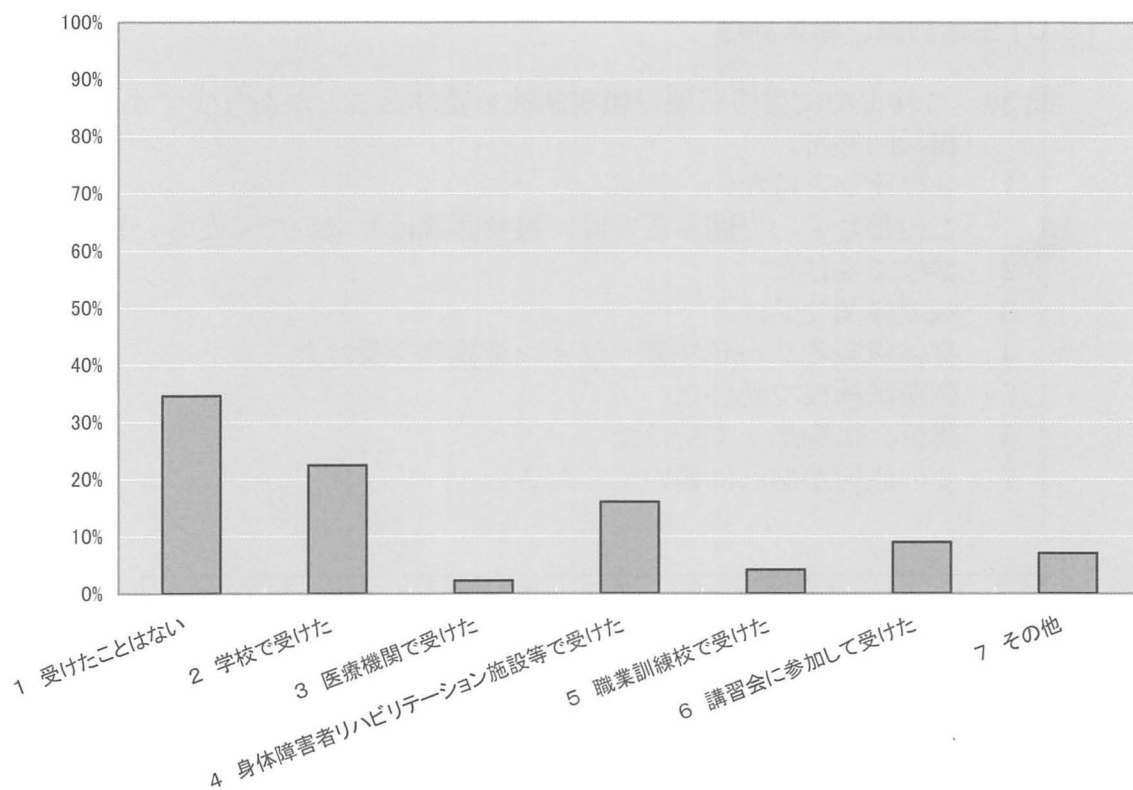
「福祉事務所の職員から受けた。」

「盲ろうの友の会。」

「盲導犬訓練センター、盲人福祉訓練センター。」

などの記述が見られた。

第3部 盲ろう者生活実態調査



コメント

- 全体的に見ると 1/3 を越える 35%が盲ろうという障害を持ちながら、これまで生活訓練や職業訓練を受けたことがないとしている。
- 生活訓練や職業訓練を受けたことがある者では学校(22%)、身体障害者リハビリテーションセンター(16%)をあげている。

(3 1) 訓練の経験

問 31 あなたはこれまでにどのような訓練を受けたことがありますか。

- 1 コミュニケーション（手話を含む）
- 2 点字
- 3 歩行
- 4 日常生活
- 5 パソコン
- 6 補助犬（盲導犬、聴導犬など）
- 7 職業訓練（三療）
- 8 職業訓練（三療以外）
- 9 その他何かあれば書いてください

()

	人数	百分率
1 コミュニケーション(手話を含む)	78	25%
2 点字	123	39%
3 歩行	105	34%
4 日常生活	55	18%
5 パソコン	73	23%
6 補助犬(盲導犬、聴導犬など)	6	2%
7 職業訓練(三療)	55	18%
8 職業訓練(三療以外)	12	4%
9 その他	10	3%

その他

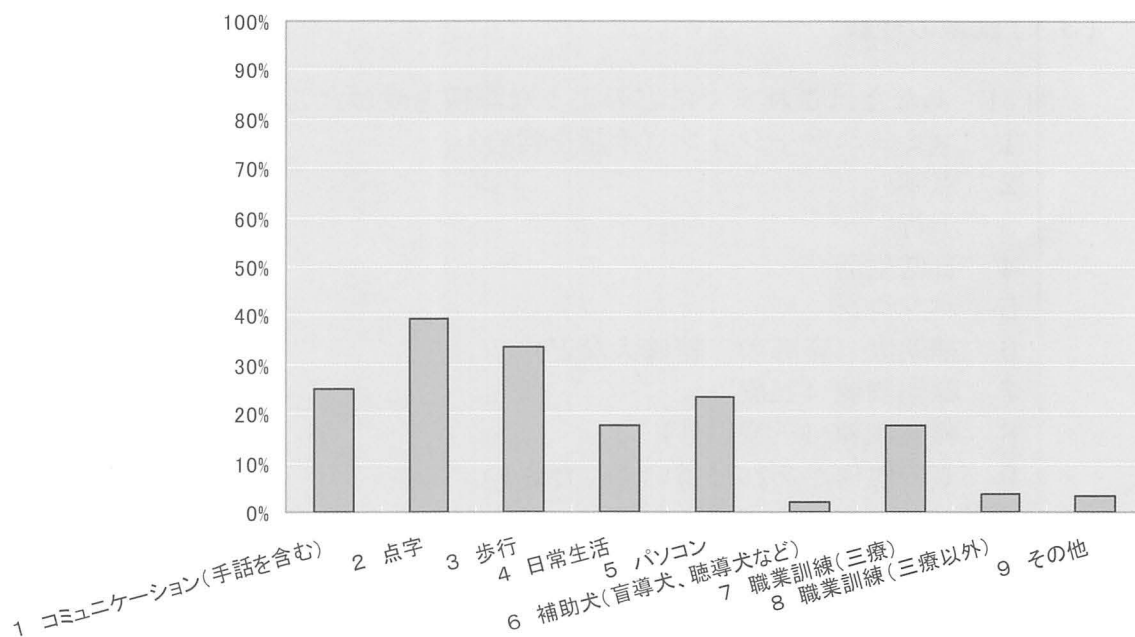
「さをり織りの訓練」

「拡大読書器活用法」

「料理」

「老人介護」

等の記述が見られた。



コメント

- これまで盲ろう者が受けてきた訓練として点字(39%)やコミュニケーション(25%)関連が高い。
- 同様に歩行(34%)、パソコン(23%)、日常生活(18%)も高い。
- 盲導犬2%や職業訓練4%は低い。

(32) 訓練の希望

問 32 今後、リハビリテーション施設等に入所又は通所して、どんな訓練を受けたいかをお聞かせ下さい。(複数回答可)

- 1 コミュニケーション (手話を含む)
- 2 点字
- 3 歩行
- 4 日常生活
- 5 パソコン
- 6 補助犬 (盲導犬、聴導犬など)
- 7 職業訓練 (三療)
- 8 職業訓練 (三療以外)
- 9 訓練は受けたくない
- 10 その他何かあれば書いてください

()

	人数	百分率
1 コミュニケーション(手話を含む)	66	21%
2 点字	43	14%
3 歩行	39	13%
4 日常生活	40	13%
5 パソコン	85	27%
6 補助犬(盲導犬、聴導犬など)	23	7%
7 職業訓練(三療)	8	3%
8 職業訓練(三療以外)	20	6%
9 訓練は受けたくない	56	18%
10 その他	13	4%

その他

「さをり織り。」

「パソコンの使い方をもっとくわしく勉強したいと思う。」

「楽器を習いたい。」

「所沢の国立リハビリセンターで入所をえん曲に断られた。盲ろう、知的障害の重複のため受け入れのノウハウを持たないと言われた。」

「職業訓練は、突然見えなくなったりしたらやりたい。本当は今からやりたい気持ちもあるが、仕事をしているので難しい。」

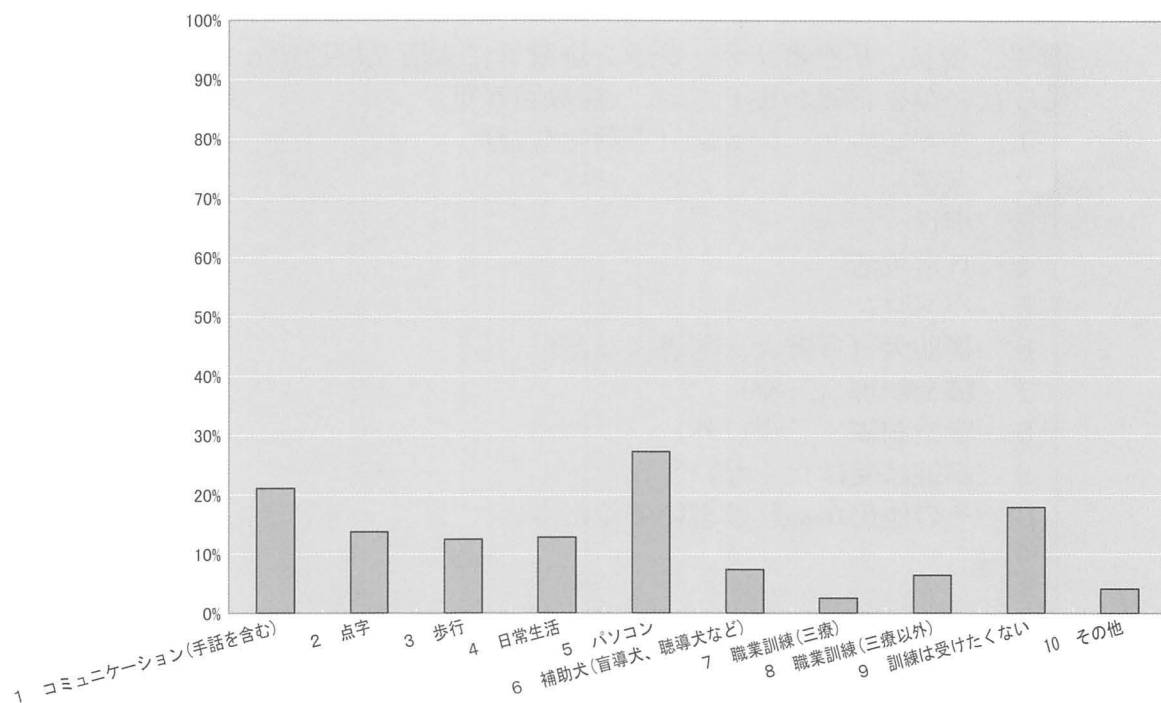
「正しい白杖の使い方。」

「足の障害で外出は不自由だから送迎できるように制度したらいい。」

「体力づくり。」

「理学療法訓練を受けたい。」

等の記述が見られた。



コメント

- コミュニケーション(21%)、点字(14%)とともに歩行(13%)、日常生活(13%)と言う結果は過去に受けた訓練の数値と概ね一致する。
- 最も訓練希望が多いのはパソコン(27%)である。
- 補助犬についての訓練希望が7%ある。

(33) よく会話をする相手

問 33 あなたが現在、よく会話をするお友達についてお聞きします。

(複数回答可)

- 1 家族
 - 2 幼友達
 - 3 近所の友人や知人
 - 4 学校時代の友達
 - 5 職場の同僚
 - 6 盲ろう者交流会の友達
 - 7 盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達
 - 8 教会など宗教関係の仲間
 - 9 通訳・介助者
 - 10 その他
- ()
- 11 家族以外とは会話をしていない
 - 12 わからない

	男		女		未回答 件数 (2名中)	合計	
	件数 (139名中)	割合	件数 (171名中)	割合		件数 (312名中)	割合
家族との会話	99	71%	118	69%	1	218	70%
幼友達との会話	13	9%	9	5%		22	7%
近所の友人や知人との会話	27	19%	33	19%	1	61	20%
学校時代の友達	38	27%	45	26%	1	84	27%
職場の同僚	21	15%	12	7%	1	34	11%
盲ろう者交流会の友達	77	55%	94	55%	1	172	55%
盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達	35	25%	40	23%	2	77	25%
教会など宗教関係の仲間	17	12%	20	12%		37	12%
通訳・介助者	86	62%	111	65%	2	199	64%
家族以外とは会話をしていない	0	0%	4	2%	0	4	1%

第3部 盲ろう者生活実態調査

	年齢区分													合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
各年齢区分の小計	1	1	9	1	16	33	59	81	38	25	28	9	11	312
家族との会話	1	1	8	1	12	26	47	55	26	13	16	3	9	218
幼友達との会話					2	3	4	10	1	1	1			22
近所の友人や知人との会話					2	6	12	15	10	11	3	1	1	61
学校時代の友達			2		8	9	14	33	7	4	4	1	2	84
職場の同僚				1	8	5	7	6	3	2	1		1	34
盲ろう者交流会の友達			2		10	16	32	58	20	16	11	3	4	172
盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達					2	9	15	27	11	4	5	2	2	77
教会など宗教関係の仲間					1	3	10	11	4	2	3	1	2	37
通訳・介助者			4		12	19	39	60	27	16	14	2	6	199
家族以外とは会話をしていない							1	2	1					4

	年齢区分													合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
家族との会話	100%	100%	89%	100%	75%	79%	80%	68%	68%	52%	57%	33%	82%	70%
幼友達との会話	0%	0%	0%	0%	13%	9%	7%	12%	3%	4%	4%	0%	0%	7%
近所の友人や知人との会話	0%	0%	0%	0%	13%	18%	20%	19%	26%	44%	11%	11%	9%	20%
学校時代の友達	0%	0%	22%	0%	50%	27%	24%	41%	18%	16%	14%	11%	18%	27%
職場の同僚	0%	0%	0%	100%	50%	15%	12%	7%	8%	8%	4%	0%	9%	11%
盲ろう者交流会の友達	0%	0%	22%	0%	63%	48%	54%	72%	53%	64%	39%	33%	36%	55%
盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達	0%	0%	0%	0%	13%	27%	25%	33%	29%	16%	18%	22%	18%	25%
教会など宗教関係の仲間	0%	0%	0%	0%	6%	9%	17%	14%	11%	8%	11%	11%	18%	12%
通訳・介助者	0%	0%	44%	0%	75%	58%	66%	74%	71%	64%	50%	22%	55%	64%
家族以外とは会話をしていない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	2%	3%	0%	0%	0%	0%	1%

第3部 盲ろう者生活実態調査

	盲ろう4種別					
	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
各種別区分の小計	163	53	27	8	61	312
家族との会話	108	46	21	5	38	218
幼友達との会話	12	2	2		6	22
近所の友人や知人との会話	35	8	4	3	11	61
学校時代の友達	46	17	7	1	13	84
職場の同僚	15	9	2	2	6	34
盲ろう者交流会の友達	100	24	16	5	27	172
盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達	41	10	8	1	17	77
教会など宗教関係の仲間	19	3	4	1	10	37
通訳・介助者	111	30	18	5	35	199
家族以外とは会話をしていない	2			1	1	4

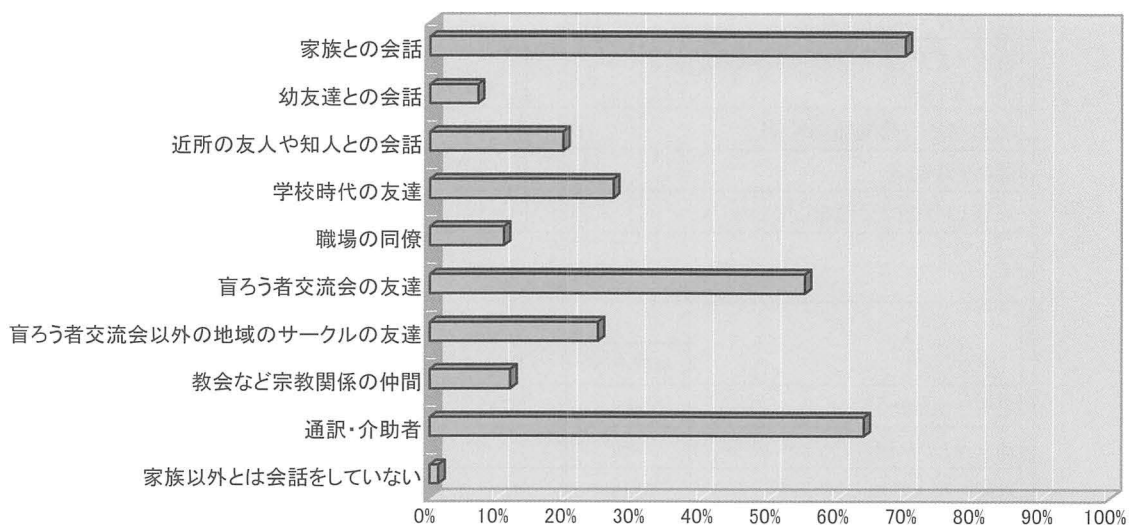
	盲ろう4種別					
	全盲全ろう	全盲難聴	弱視全ろう	弱視難聴	不明	合計
家族との会話	66%	87%	78%	63%	62%	70%
幼友達との会話	7%	4%	7%	0%	10%	7%
近所の友人や知人との会話	21%	15%	15%	38%	18%	20%
学校時代の友達	28%	32%	26%	13%	21%	27%
職場の同僚	9%	17%	7%	25%	10%	11%
盲ろう者交流会の友達	61%	45%	59%	63%	44%	55%
盲ろう者交流会以外の地域のサークルの友達	25%	19%	30%	13%	28%	25%
教会など宗教関係の仲間	12%	6%	15%	13%	16%	12%
通訳・介助者	68%	57%	67%	63%	57%	64%
家族以外とは会話をしていない	1%	0%	0%	13%	2%	1%

その他

- 「ガイドヘルパー、ボランティア」
- 「グループホームの職員」
- 「スポーツサークルの人」
- 「デイサービスの仲間 身体障害者の仲間」
- 「マラソンの仲間」
- 「遠方の知人、友人、親せき、区の福祉担当者」
- 「学校の先生」
- 「兄弟の妹」
- 「作業所の仲間」
- 「施設の介護・看護師さんたち」
- 「趣味で知り合った（交通機関関係）」
- 「柔道クラブのお友達」
- 「昔に共に活動した知人たち」

第3部 盲ろう者生活実態調査

「全国規模でつながる同じ志を持つ仲間。」
「短歌を詠んでいるので、歌会で同じ趣味の友との会話が多い」
「中途失聴者難聴者協会関連の友など」
「母親の友達、おじ、おば」
等の記述が見られた。



コメント

- 家族と会話する (70%) が最も多いのは当然のこととして、通訳・介助者 (64%)、盲ろう者交流会の友達 (55%) など、盲ろう者福祉関係の人との会話が多いことが分かる。
- 年齢区分で見ると、家族、通訳・介助者、盲ろう者交流会の友達との会話については、年齢にかかわらず高い値を示している。
- 盲ろう 4 分類で比較した結果、それほど目立った差が見られない。

(34) 行政との接触

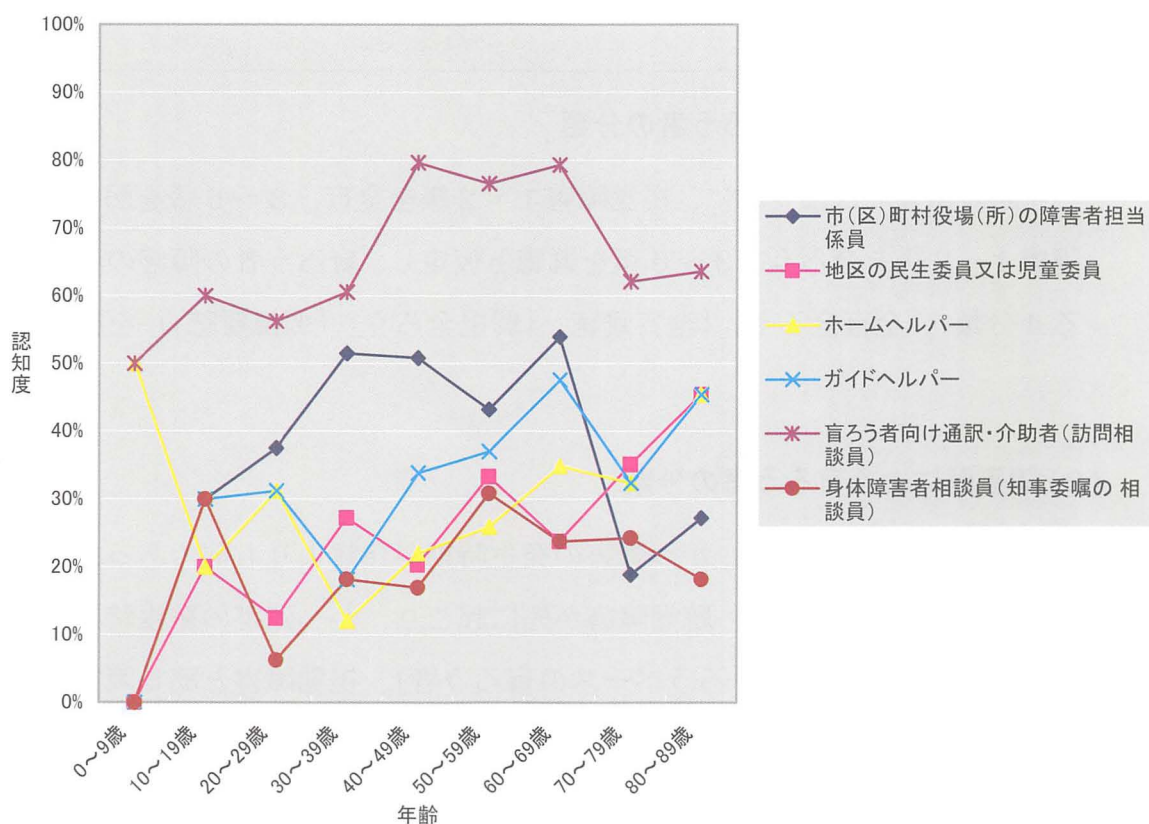
問 34 あなたのお住まいの市（区）町村の次の職名中、お名前を知っている方はいますか。「知っている」・「知らない」のどちらかを○で囲んでください。

- | | | |
|---|---------------------|------------|
| 1 | 市（区）町村役場（所）の障害者担当係員 | 知っている・知らない |
| 2 | 地区の民生委員又は児童委員 | 知っている・知らない |
| 3 | ホームヘルパー | 知っている・知らない |
| 4 | ガイドヘルパー | 知っている・知らない |
| 5 | 盲ろう者向け通訳・介助者（訪問相談員） | 知っている・知らない |
| 6 | 身体障害者相談員（知事委嘱の相談員） | 知っている・知らない |

第3部 盲ろう者生活実態調査

年齢	市(区)町村役場 (所)の障害者担当 係員			地区の民生委員 又は児童委員			ホームヘルパー			ガイドヘルパー			盲ろう者向け通訳・ 介助者(訪問相談 員)			身体障害者相談 員(知事委嘱の 相談員)		
	知っ ている	知ら ない	無 記入	知っ ている	知ら ない	無 記入	知っ ている	知ら ない	無 記入	知っ ている	知ら ない	無 記入	知っ ている	知ら ない	無 記入	知っ ている	知ら ない	無 記入
0～5		1			1			1			1			1			1	
6～9		1			1		1				1		1				1	
10～17	3	5	1	2	6	1	2	6	1	3	5	1	5	4		2	6	1
18～19		1			1			1			1		1			1		
20～29	6	9	1	2	13	1	5	11		5	11		9	6	1	1	14	1
30～39	17	16		9	21	3	4	25	4	6	24	3	20	10	3	6	24	3
40～49	30	28	1	12	44	3	13	41	5	20	35	4	47	11	1	10	45	4
50～59	35	41	5	27	46	8	21	50	10	30	40	11	62	14	5	25	47	9
60～64	22	15	1	8	28	2	14	20	4	18	15	5	31	5	2	9	26	3
65～69	12	13		7	13	5	8	11	6	12	8	5	19	3	3	6	16	3
70～74	6	18	4	8	16	4	8	12	8	10	12	6	19	7	2	8	16	4
75～79	1	8		5	4		4	4	1	2	6	1	4	4	1	1	7	1
80～89	3	7	1	5	4	2	5	6		5	5	1	7	4		2	8	1
90～																		
合計	135	163	14	85	198	29	85	188	39	111	164	37	225	69	18	71	211	30
認知度	43%			27%			27%			36%			72%			23%		
総計	312			312			312			312			312			312		

年齢	認知度					
	市(区)町村役場 (所)の障害 者担当係員	地区の民生委 員又は児童委 員	ホームヘルパー	ガイドヘルパー	盲ろう者向け通 訳・介助者(訪 問相談員)	身体障害者相 談員(知事委嘱 の相談員)
0～9 歳	0%	0%	50%	0%	50%	0%
10～19 歳	30%	20%	20%	30%	60%	30%
20～29 歳	38%	13%	31%	31%	56%	6%
30～39 歳	52%	27%	12%	18%	61%	18%
40～49 歳	51%	20%	22%	34%	80%	17%
50～59 歳	43%	33%	26%	37%	77%	31%
60～69 歳	54%	24%	35%	48%	79%	24%
70～79 歳	19%	35%	32%	32%	62%	24%
80～89 歳	27%	45%	45%	45%	64%	18%



コメント

- 全体的にみると「盲ろう者向け通訳・介助者（訪問相談員）」の認識率が最も高く、次いで「市（区）町村役場（所）の障害者担当係員」となっている。残りの4者はほぼ同程度の認識率である。
- 「市（区）町村役場（所）の障害者担当係員」および「盲ろう者向け通訳・介助者（訪問相談員）」は高齢者で認識率に落ち込みがある。
- 逆に「地区の民生委員又は児童委員」や「ホームヘルパー」では高齢者で高い認識率を示している。

2 調査の概略と考察

(1) 障害の程度による盲ろう者の分類

今回の調査では便宜的に、視覚障害1・2級を全盲、3～6級を弱視、聴覚障害1・2級を全ろう、3～6級を難聴と仮定し、盲ろう者の障害の程度による4分類（「全盲全ろう」「全盲難聴」「弱視全ろう」「弱視難聴」）を行った。

(2) 障害歴による盲ろう者の分類

視覚障害が先に起こり、かつ障害の発生時期が18歳よりも前であった場合を「盲ベースの盲ろう者」、聴覚障害が先に起こり、かつ障害の発生時期が18歳よりも前である場合を「ろうベースの盲ろう者」、視覚障害と聴覚障害が同時に起こり、かつ障害の発生が18歳よりも前である場合を「先天性の盲ろう者」、それ以外を「それ以外の盲ろう者」とした。

「ろうベースの盲ろう者」が全体の44%と最も多く、「盲ベースの盲ろう者」、「その他の盲ろう者」、「先天性の盲ろう者」と続くが、この三者の発生率にはそれほど大きな差はみられない。

(3) 母集団の相違

第2部で結果報告をしている「全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査」における母集団と、第3部で結果報告をしている「盲ろう者生活実態調査」の母集団が異なることは、両者の年齢分布などを見ても明かである。

後者の集団は全国盲ろう者協会が把握している盲ろう者であり、現段階で社会参加の意欲があったり、ある程度社会参加を果たしていたりする盲ろう者であろう。

前者の盲ろう者では後者の盲ろう者よりもあらゆる面で厳しい状況にあることが想像できる。

(4) 通訳・介助者の利用について

幼少の盲ろう児を除くすべての年齢において通訳・介助者が活用されている。通訳・介助者のサービスを受けてよかったこととして、交流会など社会参加ができるようになったこと、外出の機会が多くなったこと、自分と同じ障害を持つ人との交流ができたこと、情報が多くなったこと、家族以外の人と会話ができたこと、友達が増えたことなどをあげている人が多い。

このようなことから、通訳・介助者が盲ろう者の社会参加について大きな役割を果たしていることが分かる。

一方、今回の調査では、通訳・介助者の数を増やして欲しいという希望が特に多いことが分かる。そして制度の充実や配置についての要望が多く見られる。また家族を通訳・介助者として認めて欲しいという要望が3割以上あることも注目すべき事である。

(5) 住居

9割超が自宅で生活している。

施設で生活しているのは5%程度である。

ひとり暮らしをしているのは11%で、女性や高齢者に多い。

(6) 配偶者

配偶者を持った経験がないのは男45%、女33%でやや男の方が高い。

障害の程度と配偶者を持ったことがあるかどうかについては、関連性がないように思える。

(7) 所得・収入・住民税

仕事による収入があるのは21%、財産収入があるのは2%にすぎない。障害基礎年金及び障害基礎年金と加給年金を受給しているのを合わせると87%にのぼる。又、住民税が非課税となっているのは50%である。

(8) 障害の状況について

盲ろう者の持つ視覚障害は視力低下だけではなく、「視野狭窄」や「羞明」など様々な視機能障害を併せ持っているケースが多い。平均すると1人で2～3個の症状を有している事が分かる。

盲ろう以外の身体障害の有無については82%が、精神障害については89%が「無し」と回答していることから、1～2割程度の盲ろう者で盲ろう以外の身体障害や精神障害を併せ持っている可能性がある。

(9) コミュニケーション

障害の程度や障害歴に応じて発信・受信共に多様な手段を用いている。

コミュニケーション手段の獲得に関して盲学校(20%)、聾学校(8%)の果たした役割はそれほど高くなく、盲ろう者の交流会(33%)がコミュニケーション獲得の重要な場となっていることが分かる。

また、「全国の各自治体が把握している盲ろう者数の調査」で明らかになったように40歳以降に盲ろう者が多く発生していることから、訓練施設の果たす役割が求められるが、今回の調査では訓練施設でコミュニケーション手段を獲得した盲ろう者はわずか10%にとどまる。今後こういった訓練施設の充実が期待される。

(10) 歩行について

白杖の使用については白杖の使用が必要と思われる「全盲全ろう」「全盲難聴」において、白杖を使用していると答えた割合を見ると、ろうベースの盲ろう者は盲ベースの盲ろう者に比べ値が低い。ろうベースの盲ろう者の白杖に対する抵抗感を表しているように見える。

先天性の盲ろう者ではさらに白杖を使用している割合が低い。

その他の盲ろう者は最も高率に白杖を使用していることが分かる。

外出に関しては「慣れた場所であれば一人でできる」29%「日中なら一人でできる」4%「いつも誰かと一緒に外出する」54%と他の人と外出する必要性のある者が87%に及ぶ。

また、一緒に外出する者として通訳・介助者と外出する事が最も安心できると答えている者が50%と最も高いことから、盲ろう者の外出における通訳・介助者の果たす役割が大きいことが分かる。

(1.1) IT 機器の活用について

全体で見るとファックスを使用している盲ろう者が最も多い。とりわけ弱視・全ろうの89%と弱視難聴の75%は高い利用率である。

携帯電話を音声で使う手段は難聴の盲ろう者で重要な通信手段となっている。携帯電話をメールで使う手段は弱視の盲ろう者で多く使われているほか、全盲の盲ろう者でも28%の者が活用している。

全盲難聴では家庭電話を1人で使用する率が70%と高い。

一方、通訳者がいる時だけ電話を使うと答えた盲ろう者が10%であることから、盲ろう者の電話やファックスの利用に通訳・介助者が役割を果たしていることが分かる。

一方、電話を使っていないと答えた者が20%、ファックスを使っていないと答えた者が15%であり、盲ろう者自身の社会参加への取り組み方や通訳介助体制の充実に課題を投げかけるものであろう。

パソコンやインターネットの利用については、20歳前後にピークがあり、高齢者層になればなるほど数値が低くなっている。

50歳未満では40～49歳で46%がインターネットに接続し、42%がEメールを利用していることから、利用率はそれほど低くないように思える。

50歳以上では急激にこれらの数値が低くなっている。

盲ろう4種別で見るとパソコンの所有率や利用状況にそれほど大きな差が見られないようである。

パソコンのユーザーインターフェースについては画面の拡大や配色の設定、点字ディスプレイ、スクリーンリーダーなどの活用は13～22%にとどまってい

ることから、盲ろう者のパソコンの利用に関して十分な訓練を受けた上で使用しているのかどうか、疑問を持たざるを得ない。

今後、盲ろう者に対して、または盲ろう者に対する支援者に対して、盲ろう者のパソコン利用に関する指導を行う必要があるのではないだろうか。

(12) 就学・就労について

最終学歴では全体的に盲学校の普通科と専攻科を合わせると53%と半数以上を占める。ついで多いのが普通中学校7%、普通高等学校7%である。普通高校が最終学歴と答えた盲ろう者ではその他の盲ろう者が最も多く38%、先天性の盲ろう者は0%である。

普通小学校が最終学歴と答えた盲ろう者を見ると、先天性やその他では各々1割程度であるが、盲ベースやろうベースでは1～2%と低率であることは興味深い

大学が最終学歴と答えた者は3～4%と4分類ではあまり差が見られない。

過去の仕事で最も多いのは会社員・公務員・団体職員等のサラリーマンの43%である。ついで三療業の18%である。

仕事をしていなかったと答えたのはわずか7%である。

現在の仕事について全体的に見ると、仕事をしていないと回答したのが51%で、過去に仕事をしていなかったと回答した7%から比較すると、激増しており盲ろうという障害が就労に及ぼす影響の大きさを伺わせる。

特に会社員等については43%から4%と減少が著しい。

また、過去に三療業をしていて18%、現在している11%と比較すると明らかに減少している。

農林業については0%となっている。

以上のことから、盲ろう者の就学、就労について何らかの手だてが必要であることが言える。

(13) リハビリテーション訓練について

全体的に見ると35%が盲ろうという障害を持ちながら、これまで生活訓練や職業訓練を受けたことがないと回答している。

生活訓練や職業訓練を受けたことがある者では学校(22%)、身体障害者リハビリテーションセンター(16%)をあげている。

これまで盲ろう者が受けてきた訓練として点字(39%)やコミュニケーション(25%)関連が高い。

同様に歩行(34%)、パソコン(23%)、日常生活(18%)も高い。

盲導犬(2%)や職業訓練(4%)は低い。

一方、訓練の希望についてはコミュニケーション(21%)、点字(14%)とともに歩行(13%)、日常生活(13%)と言う結果は過去に受けた訓練の数値と概ね一致する。

最も訓練希望が多いのはパソコン(27%)である。

補助犬についての訓練希望が7%あることも注目すべきである。

第 4 部 資料編

第4部 資料編

平成18年1月27日

都道府県（市）別盲ろう者数・通訳者数

平成17年（2005年）12月末日現在

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

	盲ろう者数				重度盲ろう者向け 通訳・介助者数
	推計 盲ろう者数	登録 盲ろう者数	重 度 盲ろう者数	登録重 度 盲ろう者数	
	人	人	人	人	人
1 北海道	390	9	5	4	19
2 青森	156	2	1	1	3
3 岩手	143	10	9	-	68
4 宮城	143	2	1	0	3
5 秋田	117	8	8	-	40
6 山形	130	4	4	-	7
7 福島	221	11	8	-	39
8 茨城	299	5	5	5	30
9 栃木	208	7	5	-	43
10 群馬	208	11	10	-	48
11 埼玉	611	23	18	-	103
12 千葉	520	16	14	13	48
13 東京	1,235	82	67	-	255
14 神奈川	390	13	9	-	42
15 新潟	247	21	19	18	83
16 富山	117	1	1	0	1
17 石川	117	8	7	-	49
18 福井	91	36	32	5	12
19 山梨	91	8	1	1	3
20 長野	221	6	6	4	21
21 岐阜	221	13	11	-	103
22 静岡	312	18	12	-	44
23 愛知	494	27	27	20	87
24 三重	195	12	12	10	49
25 滋賀	143	10	9	-	28
26 京都	117	12	12	-	38
27 大阪	637	34	30	-	158
28 兵庫	416	11	10	-	37
29 奈良	143	8	8	8	19
30 和歌山	104	13	12	11	54
31 鳥取	65	2	2	2	18
32 島根	78	13	13	13	44
33 岡山	195	7	6	-	34
34 広島	182	13	11	10	49

- (注) 1. 各都道府県（市）別の「推計盲ろう者数」とは、平成13年厚生労働省が行った身体障害者実態調査結果数（全国で推計13,000人）をさらに当協会が都道府県・政令市ごとに推計したものです。
2. 「登録盲ろう者数」とは、当協会に登録している1級から6級までの盲ろう者数です。
3. 「重度盲ろう者数」とは、「登録盲ろう者数」のうち1級と2級の盲ろう者数です。

第4部 資料編

	盲 ろ う 者 数				重度盲ろう者向け 通訳・介助者数
	推 計 盲 ろ う 者 数	登 録 盲 ろ う 者 数	重 度 盲 ろ う 者 数	登 録 重 度 盲 ろ う 者 数	
	人	人	人	人	人
35 山 口	156	19	17	-	87
36 徳 島	78	13	12	12	37
37 香 川	104	9	7	-	65
38 愛 媛	156	18	13	12	113
39 高 知	78	2	1	1	3
40 福 岡	273	13	6	-	61
41 佐 賀	91	5	5	5	26
42 長 崎	156	23	20	-	105
43 熊 本	195	14	13	-	58
44 大 分	130	3	3	3	30
45 宮 崎	117	6	4	4	13
46 鹿 児 島	182	7	7	7	31
47 沖 縄	130	10	5	5	27
小計(A)	10,803	618	518	174	2,335
指定都市別					
札 幌	182	11	9	-	21
仙 台	104	7	5	4	22
さいたま	104	5	4	-	15
千 葉	91	5	5	5	16
横 浜	351	15	13	-	77
川 崎	130	4	4	-	30
静 岡	78	8	6	-	22
名 古 屋	221	11	11	-	66
京 都	156	5	4	-	16
大 阪	260	26	24	-	135
神 戸	156	10	7	-	41
広 島	117	8	8	-	67
北九州	104	3	2	-	7
福 岡	143	10	7	-	14
小計(B)	2,197	128	109	9	549
合計(A)+(B)	13,000	746	627	183	2,884
		前年比 +35 前期比 +5	前年比 +30 前期比 +2	前年比 +14 前期比 +4	前年比 +234 前期比 +86

4. 「登録重度盲ろう者数」とは、「重度盲ろう者数」のうち現在当協会が試行的に実施している「通訳介助者派遣事業」の対象者数です。
5. 「重度盲ろう者向け通訳・介助者数」とは、当協会に登録している通訳・介助者（訪問相談員）数です。
6. 合計欄の「前期比」は3ヶ月前の調査数字との比較です。

平成 16・17 年度盲ろう者生活実態調査委員会委員

委員長 福島 智 東京大学先端科学技術研究センター助教授

委 員 (50 音順)

代百合子 埼玉盲ろう者友の会

高橋信行 えひめ盲ろう者友の会

寺島 彰 浦和大学総合福祉学部教授

前田晃秀 東京盲ろう者友の会

牧田紀子 静岡盲ろう者友の会

事務局 塩谷治・村岡美和

あとがき

平成7年以来10年ぶりとなる今回の調査は、平成16年度から17年度の2年間にわたって行われた。今回の調査の特徴は、報告の中でも触れているように、初めて自治体へ向けての調査を行ったことである。この自治体へ向けての調査にあたっては、厚生労働省からも協力要請の文書を出していただいた。今の行政システムではとても盲ろう者に特化した調査はできないと断ってきた自治体もあれば、これを機会に調べてみましょうと意欲的に取り組んでくださった自治体まで、対応は様々であった。結果は、当初の予想をはるかに超えて、13,000人と推定される全国の盲ろう者のうち、約77%に当たる9,980人の所在とその内訳が把握できたわけである。正直言って、各都道府県・政令指定都市において、ここまで盲ろう者の存在を把握できているとは思わなかった。考えてみれば、調査を行ったこの2年間は、「今後の障害保健福祉施策について(改革のグランドデザイン案)」の発表に始まり、「障害者自立支援法」の成立まで、わが国の障害者福祉施策の大きな転換点となった期間でもあった。各自治体において、障害者福祉に関する関心がこれまでになく高まったことが、この調査の後押しをしてくれたのかもしれない。

第3部の「盲ろう者生活実態調査」についても、IT利用の動向に関する項目なども付け加え、かなり時代に即応した調査になったと思っている。調査項目や質問の表現などについては、各委員による熱心な議論によって練り上げられた。改めて感謝したい。

なお、最後の集計作業にあたっては、そのほとんどを自身盲ろう者でもある高橋委員が引き受けてくださった。その超人的な作業能力には感服せざるを得ない。人に恵まれたことが、今回の調査を成功させた大きな要因でもあったと実感する。

こうした血と汗の結晶とも言える今回の調査結果が、関係各位によって有効に利用され、わが国の盲ろう福祉のさらなる発展につながることを切に願わずにはいられない。(委員長・福島智)

盲ろう者生活実態調査報告書

発行 2006年3月1日

発行所 社会福祉法人全国盲ろう者協会

〒101-8412 東京都千代田区神田神保町2-5

神保町センタービル7階

TEL 03-3512-5056

FAX 03-3512-5057

E-mail info@jdba.or.jp

ホームページ <http://www.jdba.or.jp>

印刷所 株式会社 三省社印刷所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-6

電話 03-3516-2762(代)

この事業は、独立行政法人福祉医療機構（長寿社会福祉基金）の助成により行っているものです。